

総 務 文 教 委 員 会

令和元年 5 月 23 日（木）
10 時 00 分～ 時 分
全員協議会室

（委 員）野藤委員長、小川副委員長

沖田委員、西川委員、永見委員、佐々木委員、道下委員、西田委員

（議 長・委員外議員）

（総務文教委員会 所管管理職）

〔総 務 部〕砂川総務部長、山根総務課長、馬場防災安全課長

〔地域政策部〕岡田地域政策部長、岡橋政策企画課長、邊まちづくり推進課長
宮崎関連施設支援室長

〔金城支所〕吉永支所長

〔旭 支 所〕塚田支所長

〔弥栄支所〕岩田支所長

〔三隅支所〕田城支所長

〔教育委員会〕~~石本教育長~~、河上教育部長、湯浅教育総務課長、市原学校教育課長
村瀧学校教育課副参事、牛尾学力向上推進室長、村木生涯学習課長
外浦文化振興課長

〔消防本部〕中村消防長、尾崎予防課長、本田警防課長

（事務局）篠原書記

議 題

1 執行部報告事項

- （1）令和 2 年度国県重点要望事項について
- （2）令和元年度浜田市総合防災訓練について
- （3）平成 30 年度空き家バンク制度の利用状況について
- （4）島根県立大学等の入学状況について
- （5）敬老乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況等について
- （6）浜田市生活路線バス等の利用実績について
- （7）リハビリテーションカレッジ島根の学生確保に向けた取り組みについて
- （8）平成 30 年度青少年サポートセンターの利用状況について
- （9）平成 30 年度学力向上総合対策事業実績報告書
- （10）はまだっ子共育プロジェクト実践集について（冊子は印刷物を配布）
- （11）浜田市社会教育アドバイザーの委託及び平成 30 年度の活動について
- （12）平成 30 年度浜田市立図書館全館の利用状況
- （13）（仮称）浜田歴史資料館検討会の検討状況について
- （14）浜田市における住宅用火災警報器の設置状況について
- （15）今年度の消防団車庫統合について
- （16）島根県消防大会及び島根県消防操法大会の開催について
- （17）その他

(配布物)

○令和元年度学校職員名簿

○令和元年度園児・児童・生徒数一覧

○令和元年度浜田市立公民館館長・主事名簿

2 政策討論会のテーマについて

3 その他

令和2年度国県重点要望事項 総括表(県知事要望分)

市担当部	No.	要 望 項 目
総務部	1	浜田港への海上自衛隊艦艇の物資補給基地誘致に向けた支援について
	2	米軍機による低空飛行訓練の中止について
健康福祉部	3	医師・看護師等医療従事者確保対策等について
産業経済部	4	新たな高速料金割引制度の導入について
都市建設部	5	重要港湾浜田港について
	6	高規格道路の整備促進について【新規】
	7	浜田川総合開発事業の早期完成と矢原川ダムの事業推進について
合 計		県知事要望 7件

総括表(部長以下要望分)

市担当部	No.	要 望 項 目	備 考 (知事要望の有無)
総務部	8	浜田港への海上自衛隊艦艇の物資補給基地誘致に向けた支援について	○
	9	米軍機による低空飛行訓練の中止について	○
健康福祉部	10	医師・看護師等医療従事者確保対策について	○
産業経済部	11	島根県浜田沖合石油・天然ガスの資源開発促進について	
	12	新たな工業団地の整備について	
	13	石見神楽を活用した更なる観光振興の推進について【新規】	
	14	新たな高速料金割引制度の導入について	○
都市建設部	15	高規格道路の整備促進について【新規】	○
都市建設部 ※一部産業経済部	16	自治区間を20分で連絡する道路整備について	
		(1) 主要地方道	
		① 弥栄旭インター線小坂Ⅲ工区(小坂)	
		② 三隅美都線(向野田～河内)	
		(2) 林道【要望先：農林水産部】	
		① 林道足尾線	
		② 林道金城弥栄線、三隅線	
都市建設部	17	まちづくりを支援する県道の幹線道路ネットワークの早期完成と生活関連道路の整備について	
		(1) 主要地方道浜田八重可部線の歩道整備について	
		(2) 主要地方道田所国府線の改良について	
		① 入野工区(桜江金城線交差点～江津境)	
		② 本郷工区(浜田作木線交差点～木田境)	
		③ 戸川工区(新戸川橋～栃谷橋)	
		(3) 主要地方道浜田美都線の改良について	
		(4) 継続事業の促進について	
		① 主要地方道田所国府線 宇野Ⅱ工区	
		② 主要地方道桜江金城線 追原工区(大元～福原)	
都市建設部 ※一部産業経済部	18	③ 主要地方道浜田八重可部線	
		地域を支える道路網の整備について	
		(1) 一般国道186号のトンネル整備について【金城】	
		(2) 一般国道186号後野地内の登坂車線整備について	
		(3) 一般国道186号上来原地内歩道整備について	
		(4) 一般国道186号上来原～波佐地内路肩拡幅整備について	
		(5) 一般県道今福芸北線(久佐～小国)の改良について	
		(6) 一般県道一の瀬折居線(周布地～櫛田原)の改良について	

市担当部	No.	要 望 項 目	備 考 (知事要望の有無)
		(7) 一般県道浜田商港線の交差点改良について（起点側～青川バス停）	
		(8) 県営農道整備事業について【要望先：農林水産部】	
		① 農山漁村地域整備交付金農地整備事業 新開佐野地区	
		② 県営農村地域防災減災事業 横山地区	
		③ 県営一般農道（集落間）はまだ中央地区	
		④ 県営一般農道（集落間）田原地区	
		(9) 継続事業の促進について	
		① 一般県道黒沢安城浜田線 長見工区（名古田橋～11号橋）	
		② 一般県道三隅井野長浜線	
		③ 一般県道美川周布線 穂出工区	
		④ 一般県道波佐芸北線 波佐工区	
		⑤ 一般国道186号長田2工区（雪寒対策）	
		⑥ 主要地方道旭戸河内線 上来尾地区 災害防除事業	
		⑦ 一般県道益田種三隅線 西河内工区	
		⑧ 一般県道一の瀬折居線 室谷工区	
都市建設部	19	小さな拠点を支える道づくりについて【新規】	
		(1) 一般県道三隅井野長浜線（下今明～小原）の改良について	
	20	浜田川総合開発事業の早期完成と矢原川ダムの事業推進について	○
	21	「安全で安心して暮らせる県土」を創る川づくりの推進について	
		(1) 周布川河口堆積土砂の浚渫について	
		(2) 下府川河口堆積土砂の浚渫について	
		(3) 唐鐘川河口堆積土砂の浚渫について	
		(4) 久代川河口堆積土砂の浚渫について	
		(5) 小国川河川整備事業について	
		(6) 三隅川河口堆積土砂の浚渫について	
		(7) 浜田川環境整備について（亀山橋～三宮橋上流）	
都市建設部 ※一部産業経済部	22	県民の生命や財産を守る砂防事業等の推進について	
		(1) 砂防事業（潰谷川）について	
		(2) 砂防事業（本郷川）について【新規】	
		(2) 砂防事業（治和川）について	
		(3) 砂防事業（外ノ浦谷川）について	
		(4) 地すべり対策事業について【要望先：農林水産部】	
		①高野地区地すべり対策事業【新規】	
		②新規事業化予定地区【要望先：農林水産部】【新規】	
		③浜田地区地すべり防止施設長寿命化対策工事【要望先：農林水産部】	
		重要港湾浜田港について	○

市担当部	No.	要 望 項 目	備 考 (知事要望の有無)
都市建設部 ※一部産業経済部	23	(1) 荷役業務の安全確保について	○
		(2) 泊地、航路等の整備について	○
		(3) 浜田港港湾施設使用料減免に係る対象貨物の拡充について	
		(4) 特殊車両の「誘導車配置条件」道路の改善について	
		(5) 貿易振興に対する支援について【要望先：商工労働部】	
		① 浜田港振興会の運営支援について	
		② 取扱貨物量の増加や販路拡大及び市場開拓支援のための各種プロジェクトの推進について	
		③ 大型基幹貨物を取り扱う企業の誘致の推進について	
		(6) ガントリークレーンの整備に伴うパース内の荷役設備の増設等について	
		(7) 浜田港のパイロット（水先案内人）及び曳船（タグボート）の確保について	
		(8) 新倉庫の整備について【新規】	○
都市建設部	24	海岸保全事業の促進について	
		(1) 三隅港海岸（湊浦地区）	
	25	地籍調査事業の予算確保について	
教育部	26	島根県統一仕様もしくは複数市町村統一仕様の統合型校務支援システムの導入促進と財政支援について【新規】	
合 計		部長以下要望 19件（知事要望7件を含む）	

令和 2 年度国県重点要望事項

1 浜田港への海上自衛隊艦艇の物資補給基地誘致に向けた支援について

【要望先：防災部】

浜田港につきましては、国指定の重要港湾として整備され、官民一体となって利用促進に取り組んでいるところです。

日頃の海上自衛隊艦艇の公開や災害時における隊員の迅速かつ献身的な救助活動により、自衛隊に対する信頼感が高まってきており、海上自衛隊艦艇の浜田港寄港は、市民にとって大きな安心につながるものと考えております。また、地元経済にとりましても、海上自衛隊艦艇の物資の補給など、非常に大きな効果があるものと考えております。

つきましては、海上自衛隊艦艇の物資補給基地の誘致に向けてご支援を賜りますよう格別のご高配をお願いします。

2 米軍機による低空飛行訓練の中止について

【要望先：防災部】

知事におかれましては、米軍機の低空飛行訓練による騒音問題につきまして、米軍機騒音等対策協議会とともに外務省、防衛省に要望活動を行っていただき、深く感謝を申し上げます。

しかしながら、米軍機の低空飛行訓練による住民への耐え難い騒音被害は引き続き発生しており、事故への不安に悩まされるなど、日常生活に様々な悪影響を与え続けています。この現状に鑑み、低空飛行訓練が行われないよう、米軍関係当局に対し、更なる強力な対応をしてもらうよう、国への働きかけをお願いします。

また、騒音被害が解消されるまでの間、国が責任を持って騒音や安全性に対する住民の不安を軽減するための措置をとることについても、引き続き働きかけをお願いします。

3 医師・看護師等医療従事者確保対策について

【要望先：健康福祉部】

医師をはじめとする医療従事者につきまして、奨学金制度や島根大学との連携、しまね地域医療支援センターの活動など、様々な取組を行っていただいております。深く感謝を申し上げます。

平成 30 年度には、7 名もの医師を島根大学から当市の医療機関へ派遣いただいております。浜田圏域の医師の充足率も 71.1%から 76.4%へと改善しております。

しかしながら当市では、依然として中核病院における診療科の偏在が顕著であり、常勤医のいない診療科は変わらず、住民の不安は払拭されておられません。加えて、地域の医療を支える開業医の高齢化も進み、身近な医療機関の減少が危惧されております。

また、看護師や薬剤師等の医療従事者につきましては、増加傾向にあるものもありますが、まだまだ十分ではありません。

昨年 7 月に公布された改正医療法及び医師法に基づき、医師の偏在解消に向け、医師確保計画を策定されると伺っております。

今後も多様化する地域住民のニーズに対応できるよう、医療従事者の確保や診療科の偏在の解消につきまして、引き続きご支援を賜りますよう格別のご高配をお願いいたします。

4 新たな高速料金割引制度の導入について

【要望先：土木部】

高速道路の割引制度見直しや消費税増税に伴う料金の見直しは、中小事業者が産業経済の中心である石見地域において、企業活動や観光業界に大きな影響を与えています。

特に物流におきましては、大手運送会社による配送料の大幅な値上げが、ネットショップや宅配を中心とする地元事業者の経営を直撃しています。中でもトラック貨物の物流コストの増大は、高速道路利用の減少につながり、輸送時間の短縮に大きく影響することから、石見地域における産業振興の取組に大きな影響が出ると懸念しております。

また、軽・普通自動車の休日割引の引き下げ、消費税増税に伴う料金の見直しといった高速料金の負担増は、休日に高速道路を利用し、石見地域の観光施設を利用する動機が薄れ、観光客誘客にも大きな影響が出ると懸念しております。

さらに、島根県東部との比較におきましても、中国横断自動車道尾道松江線の三刀屋・木次 IC—尾道 JC 間が無料であることも、当地域への影響を拡大しております。

つきましては、地方の高速道路については、地域の産業・観光等に与える影響が大きいため、地域活性化の観点から地域の実情に応じた割引制度導入が図られるよう、ご支援を賜りますよう格別のご高配をお願いいたします。

5 重要港湾浜田港について

【要望先：土木部】

日本海側拠点港の浜田港は、県内唯一の国際貿易港として重要な役割を担っております。物流機能の向上にご支援を賜りますようお願いいたします。

(1) 荷役業務の安全確保について

新北防波堤の整備促進について、引き続きご支援を賜りますよう格別のご高配をお願いいたします。

(2) 泊地、航路等の整備について

近年、取扱貨物の変化と輸送の効率化により大型船での貨物輸送が増えてきていますが、将来的に配船希望のある 5 万 5 千トン貨物船が係留できる岸壁（－14m）が浜田港にはなく、また航路も一部水深が不足しているため、この規模の貨物船の配船が難しい状況です。

つきましては、将来を見据えた岸壁の整備と泊地及び航路の水深確保をお願いします。

(3) 新倉庫の整備について【新規】

浜田港の埠頭エリアには、島根県整備の上屋 2 棟と民間整備の倉庫 1 棟の合計 3 棟（床面積約 7,600 m²）がありますが、貨物の増加により慢性的に満庫状態となっています。倉庫スペースの不足は、貨物が他港へ流れる原因となるため、浜田港近隣エリアにおける新倉庫の整備について、格段のご配慮をお願いします。

6 高規格道路の整備促進について【新規】

【要望先：土木部】

(1) 浜田自動車道における付加車線の整備について

暫定二車線区間においては、大雪時の路肩排雪作業のための車線確保が困難であり、スタック車両を原因とする長時間の通行止めが発生することから、信頼性を確保するために付加車線の整備について格別のご高配をお願いします。

(2) 三隅益田道路の事業推進について

三隅益田道路につきまして、浜田益田間の移動時間短縮と物流の効率化を実現するため、事業推進に格別のご高配をお願いします。

7 浜田川総合開発事業の早期完成と矢原川ダムの事業推進について

【要望先：土木部】

(1) 浜田川総合開発事業（浜田ダム再開発）の早期完成について【浜田】

浜田川総合開発事業につきましては、着実に事業が進められており、感謝申し上げます。浜田ダム再開発事業及び県道黒沢安城浜田線橋梁部の早期完成が図られるよう、格別のご高配をお願いします。

(2) 矢原川ダムの事業推進について【三隅】

矢原川ダム事業につきましては、損失補償基準協定が本年 3 月に締結され、島根県のご努力に感謝申し上げます。事業の推進に格別のご高配をお願いします。

《以上県知事要望分》

《ここから部長以下要望分》

8 浜田港への海上自衛隊艦艇の物資補給基地誘致に向けた支援について

【要望先：防災部】

知事要望に同じ

9 米軍機による低空飛行訓練の中止について

【要望先：防災部】

知事要望に同じ

10 医師・看護師等医療従事者確保対策について

【要望先：健康福祉部】

知事要望に同じ

11 島根県浜田沖合石油・天然ガスの資源開発促進について

【要望先：地域振興部】

平成 28 年 6 月から 10 月にかけて、島根県浜田市の沖合において国が基礎試錐事業を実施され、ガスが存在する可能性が確認されました。今後の更なる資源開発は、浜田市をはじめとする島根県西部の石見圏域、さらには島根県全体の経済活性化に大きく寄与するものと期待しています。

去年は、民間主導の掘削を円滑に推進できるよう、新たな支援制度の創設について、地元経済団体とともに国への要請活動を行い、その際には島根県としてもご協力をいただき、誠にありがとうございました。

その結果、民間企業が自ら実施する試錐に対する経費の一部を補助する新たな助成制度の創設につながったものと考えております。

引き続き、関係機関への働きかけについてご支援いただきますようよろしくお願いします。

(1) 浜田沖の試掘権を 2024 年まで保有している事業者に対して、浜田港を活用し、探掘活動を継続していただくこと

(2) ガスが出た際には、島根県の経済活性化が図られるよう、精製基地を浜田港周辺用地に整備していただくこと

以上、ご支援を賜りますよう格別のご高配をお願いします。

12 新たな工業団地の整備について

【要望先：商工労働部】

現在、浜田市では、「産業振興と企業立地による雇用の創出」を人口減少対策プロジェクトにおける基本目標の一つとして積極的に取り組んでいます。

浜田市は山陽圏域とつながっている浜田道や島根県を東西に結ぶ山陰道が整備されており、また、平成 30 年 3 月の臨港道路福井 4 号線の開通により、山陰道と直結することとなった国際貿易港浜田港もあり、これまでの国や島根県による積極的なインフラ投資により、企業立地に適した環境を有する状況であります。

しかしながら、当市内には、大規模な工場等を誘致する適当な用地が無く、新たな用地の確保が急務となっています。

つきましては、立地を希望する企業側のニーズが高い高速道路インターチェンジ周辺において、新たな工業団地を整備いただきますよう要望いたします。

13 石見神楽を活用した更なる観光振興の推進について 【新規】

【要望先：商工労働部】

石見神楽につきましては、石見地域全ての自治体において共通する伝統芸能であり、大きな観光資源となっております。

こうしたことを踏まえ、島根県や石見 9 市町の自治体、観光協会、商工会議所等の経済団体で組織する石見観光振興協議会（事務局島根県西部県民センター商工観光部）においても「石見神楽広域連絡協議会」を組織するとともに、石見神楽の活用や振興を目的とした事業を展開されているところです。

こうした中、平成 31 年 1 月には、文化庁が認定する日本遺産に当市が中心となって取り組み、石見地域全ての自治体と連名で日本遺産認定申請を行い、令和元年 5 月 20 日に日本遺産に認定されました。今後、日本遺産を通じた地域活性化への支援として文化庁の補助金交付を受けて事業を行うことができるようになります。日本遺産認定後の地域活性化の事業推進母体につきましては、石見観光振興協議会が担う予定となっておりますので、今後の事業推進について改めて島根県のご支援とご協力をお願いします。

また、石見神楽は、古事記や日本書紀などの神話を題材とした演目が存在し、訪日外国人観光客に対して、日本文化を広く PR する絶好のコンテンツです。石見観光振興協議会では、多くの訪日外国人観光客が訪れる 2020 年東京オリンピック・パラリンピック期間中における東京での石見神楽公演を目指しています。この東京公演につきましても、その実現に向けて、島根県の最大限のご支援とご協力をお願いします。

14 新たな高速料金割引制度の導入について

【要望先：土木部】

知事要望に同じ

15 高規格道路の整備促進について 【新規】

【要望先：土木部】

知事要望に同じ

16 自治区間を 20 分で連絡する道路整備について

【要望先：土木部（一部農林水産部）】

島根県におかれましては、国道、主要地方道及び一般県道等の幹線道路整備を継続的に実施していただき、厚くお礼を申し上げます。

地域間交流の活性化を図るため、次の区間の整備について、格別のご高配を賜りますようお願いします。

(1) 主要地方道

① 弥栄旭インター線小坂Ⅲ工区(小坂) 【弥栄】

高内～弥栄大橋間について、トンネルによる計画策定をお願いします。

② 三隅美都線(向野田～河内) 【三隅】

(2) 林道 【要望先：農林水産部】

① 林道足尾線 【旭】

平成 6 年度から事業が進められ、現在 91%の進捗状況となっております。

② 林道金城弥栄線、三隅線 【金城・弥栄・三隅】

平成 20 年度から、山のみち地域づくり交付金事業により実施され、現在 64%の進捗状況となっております。

17 まちづくりを支援する県道の幹線道路ネットワークの早期完成と生活関連道路の整備について

【要望先：土木部】

幹線道路は、市民生活や経済活動を営む上で重要な役割を持つ道路です。個性ある地域づくりを支援する道路事業として、農林道と連結した幹線道路ネットワークの早期完成と生活関連道路の効率的な整備について、格別のご高配をお願いします。

(1) 主要地方道浜田八重可部線の歩道整備について【金城】

久佐川橋の前後 200m の区間について、生活改善センターへの歩行者の安全確保のためにも、歩道整備について格別のご高配をお願いします。

(2) 主要地方道田所国府線の改良について

次の区間の改良整備について、格別のご高配をお願いします。

①入野工区（桜江金城線交差点～江津境）【金城】

②本郷工区（浜田作木線交差点～木田境）【旭】

③戸川工区（新戸川橋～栃谷橋）【旭】

(3) 主要地方道浜田美都線の改良について【弥栄】

木都賀地内から市境までの改良整備について、格別のご高配をお願いします。

(4) 継続事業の促進について

次の区間について、引き続き事業の促進をお願いします。

①主要地方道田所国府線 宇野Ⅱ工区【浜田】

②主要地方道桜江金城線 追原工区（大元～福原）【金城】

③主要地方道浜田八重可部線

後野工区（佐野～国道 186 号）【浜田】

畑喰谷入口下（畑喰谷入口下～市木方面）【旭】

岩畳工区（岩畳橋～押入橋）【旭】

今市 2 工区（丸原地区～今市地区）【旭】

18 地域を支える道路網の整備について

【要望先：土木部（一部農林水産部）】

安全で安心して暮らせるまちづくりの実現に向けた道路網整備について、格別のご高配を賜りますようお願いします。

(1) 一般国道 186 号のトンネル整備について【金城】

①新笹ヶ峠トンネル

事業の促進をお願いします。

②新犬戻りトンネル【新規】

現在の犬戻りトンネルは旧規格のためトンネルの断面が小さく、大型車両の通行に支障をきたしています。つきましては、新たなトンネルの計画について格別のご高配をお願いします。

(2) 一般国道 186 号後野地内の登坂車線整備について【浜田】

後野橋から大峠トンネルまでの区間について、引き続き登坂車線の整備をお願いします。

(3) 一般国道 186 号上来原地内の歩道整備について【金城】

一部県単独事業により改良工事が実施されており、引き続きの整備をお願いします。（下の原～那賀西部広域農道交差点）

(4) 一般国道 186 号上来原～波佐地内路肩拡幅整備について【金城】

当区間は路肩幅員が狭いため、降雪時に大型車両同士の離合に注意を要する場面が多く発生します。また、道路側溝が路面よりも低い位置にあるため、車両の脱輪や路外逸脱の危険性が高い箇所でもあります。安全通行のための改善策の検討をお願いします。

(5) 一般県道今福芸北線（久佐～小国）の改良について【金城】

本路線は小国地区の生活道路であり、今福地区と小国地区を結ぶ幹線道路です。幅員狭

小区間と落石危険箇所が多く通行に支障があるため、引き続いての改良整備をお願いします。

(6) 一般県道一の瀬折居線（周布地～櫛田原）の改良について【三隅】

三隅町周布地～櫛田原間は、狭小で交通難所となっているため、この区間のトンネルによる整備について検討をお願いします。

(7) 一般県道浜田商港線の交差点改良について（起点側～青川バス停）【浜田】

本路線の起点側交差点部分（国道 9 号合流部）は、それまでの 2 車線から 1 車線と幅員が狭くなっているため、車両の離合が困難な状況となっています。特に大型車が通行する際は、対向車が交差点に進入できず、交通の流れが阻害される場面が多発しています。つきましては、交差点改良の事業化について、格別のご高配をお願いします。

(8) 県営農道整備事業について【要望先：農林水産部】

次の区間について、引き続き事業の促進をお願いします。【浜田】

①農山漁村地域整備交付金農地整備事業（通作条件整備 基幹農道整備）（予定）

新開佐野地区【浜田・金城】

②県営農村地域防災減災事業（農村防災施設整備・緊急避難路整備） 横山地区【浜田】

③県営一般農道（集落間） はまだ中央地区【浜田】

④県営一般農道（集落間） 田原地区【浜田】

(9) 継続事業の促進について

次の区間について、引き続き事業の促進をお願いします。

①一般県道黒沢安城浜田線 長見工区（名古田橋～11 号橋）【浜田】

②一般県道三隅井野長浜線

（ア）田橋 2 工区（牛谷～田橋）【浜田】

（イ）三隅工区（三隅神社～浄蓮寺峠）【三隅】

③一般県道美川周布線 穂出工区【浜田】

④一般県道波佐芸北線 波佐工区【金城】

⑤一般国道 186 号長田 2 工区（雪寒対策）【金城】

⑥主要地方道旭戸河内線 上来尾地区 災害防除事業【旭】

⑦一般県道益田種三隅線 西河内工区【三隅】

⑧一般県道一の瀬折居線 室谷工区【三隅】

19 小さな拠点を支える道づくりについて【新規】

【要望先：土木部】

三隅町井野地区においては、魅力ある地域づくり計画を策定して「公共交通空白地有償運送」や「古民家を活用した交流活動」などを実施しています。地区内の幹線道路整備について格別のご高配をお願いします。

(1) 一般県道三隅井野長浜線（下今明～小原）の改良について【三隅】

この区間について、早期着工に向けての検討をお願いします。

20 浜田川総合開発事業の早期完成と矢原川ダムの事業推進について

【要望先：土木部】

知事要望に同じ

21 「安全で安心して暮らせる県土」を創る川づくりの推進について

【要望先：土木部】

水害や土砂災害から住民の生命財産を守り、安全で安心して暮らせるまちづくりのためには、治水事業を計画的に実施することが重要です。

継続事業の早期完成と新規河川改修事業の導入について格別のご高配をお願いします。

(1) 周布川河口堆積土砂の浚渫について【浜田】

冬場の波浪による、導流堤から右岸側への堆砂を原因として、係留施設への出入りの障害や水位上昇に伴う小河川の氾濫が発生するため、定期的な浚渫による河口閉塞の解消をお願いします。

(2) 下府川河口堆積土砂の浚渫について【浜田】

掘込河道で計画された下府川下流部は、海浜部からの流砂により河口埋塞の恐れがあります。定期的な浚渫をお願いします。

(3) 唐鐘川河口堆積土砂の浚渫について【浜田】

波浪により河口が閉塞し、流水停滞が多発するため、定期的な浚渫をお願いします。

(4) 久代川河口堆積土砂の浚渫について【浜田】

久代川の河口法線（海浜部）は大きく東側へ蛇行している上に、流砂による埋塞のため、豪雨時には排水不良による床下浸水が発生しています。

定期的な浚渫による河積断面の確保をお願いします。

(5) 小国川河川整備について【金城】

ゲリラ豪雨により河川が氾濫すると、小国川上流地区は孤立し、住民生活に大きな影響を及ぼします。生活の安全と農地保全のため当面の対策として、堆積土砂除去による河積断面の確保、老朽化した空石積みの県道兼用護岸の改修、住宅が隣接する天然護岸の整備をお願いします。

具体的には、出合橋上流、山崎橋上流、榎田橋下流の堆積土砂除去と、山崎橋下流の天然護岸の整備をお願いします。

(6) 三隅川河口堆積土砂の浚渫について【三隅】

三隅川河口部は、波浪による海浜部からの流砂により河口閉塞の恐れがあります。定期的な浚渫による河積断面の確保をお願いします。

(7) 浜田川環境整備について（亀山橋～三宮橋上流）【浜田】

市街地を流れる区間において、洗堀された河床の整正や繁茂した草木の除去をお願いします。

22 県民の生命や財産を守る砂防事業等の推進について

【要望先：土木部（一部農林水産部）】

浜田市は、海・山の豊かな自然環境に恵まれている反面、市域の大部分が山地であり、住環境の多くが山際や谷あいの狭い平地に密集しているため、土砂災害危険箇所が多く点在しています。

住環境の安全と県民の生命、財産を守る砂防事業及び地すべり対策事業等の促進をお願いします。

(1) 砂防事業について【浜田】

事業の推進をお願いします。

① 潰谷川

② 本郷川【新規】

③ 治和川

新規採択をお願いします。

① 外ノ浦谷川

(2) 地すべり対策事業について【浜田・三隅・弥栄】

引き続き事業の推進をお願いします。

① 高野地区地すべり対策事業【新規】

② 新規事業化予定地区【要望先：農林水産部】【新規】

③ 浜田地区地すべり防止施設長寿命化対策工事【要望先：農林水産部】

23 重要港湾浜田港について

【要望先：土木部（一部商工労働部）】

日本海側拠点港の浜田港は、県内唯一の国際貿易港として重要な役割を担っております。物流機能の向上にご支援をお願いします。

（1）荷役業務の安全確保について【要望先：土木部】

新北防波堤の整備促進について、引き続きご支援を賜りますよう格別のご高配をお願いします。

（2）泊地、航路等の整備について【要望先：土木部】

近年、取扱貨物の変化と輸送の効率化により大型船での貨物輸送が増えてきていますが、将来的に配船希望のある5万5千トン貨物船が係留できる岸壁（-14m）が浜田港にはなく、また航路も一部水深が不足しているため、この規模の貨物船の配船が難しい状況です。

つきましては、将来を見据えた岸壁の整備と泊地及び航路の水深確保をお願いします。

（3）浜田港港湾施設使用料減免に係る対象貨物の拡充について【要望先：土木部】

浜田港におけるコンテナ貨物及び輸出入貨物の港湾施設使用料につきましては、港の利用促進のため、各種減免措置を設けていただいておりますが、原木等の国内移出入貨物につきましては従来どおりの使用料であり、県外他港と比べて高い使用料となっています。

現在、国内物流においては、トラック運転手の担い手不足等により、陸上輸送は厳しさを増し、海上輸送の重要性が高くなっていることから、浜田港においても外国貨物のみならず、国内貨物の取扱量の増加策に取り組むことが、港の利用促進に大きく寄与するものと考えます。

つきましては、県外他港との競争力を高め、取扱貨物量の増加と港の利用促進を図るため、国内移出入貨物につきましても、外国貨物と同様のご配慮を賜りますようお願いいたします。

（4）特殊車両の「誘導車配置条件」道路の改善について【要望先：土木部】

浜田港におきましては、海上コンテナや原木、石炭、ヤシ殻など日々大量に運搬が必要な貨物があり、セミトレーラーなどの特殊車両を使用することが少なくありません。その通行においては、車線のはみ出し等の理由から、車両制限令により、車両前後に誘導車の配置の条件が付加される区間が多くあり、この対応による運送コストの増大が大きな課題となっています。

これらの区間には、工業団地内の道路や、高速道路のインターやランプの出入口など、物流における主要な箇所が数多く含まれており、浜田港への集荷や当地域への企業の誘致活動においても、大きな支障となっています。

つきましては、県管理道路におけるこれらの通行支障箇所の改善をお願いします。また、支障箇所については、他の機関が管理する通路もあるため、改善に向けた関係機関への要請につきましても併せてお願いします。

（5）貿易振興に対する支援について【要望先：商工労働部】

島根県内唯一の国際貿易港である浜田港の利用促進のため、次の点につきまして、ご支援を賜りますよう格別のご高配をお願いします。

① 浜田港振興会の運営支援について

県内唯一の国際貿易港である浜田港は、県内事業者の貿易拡大に必要な重要港湾です。

事業者のニーズを踏まえた集荷対策には、「効果的なポートセールス体制の整備」を行い、航路の維持及び安定運航を確保することが必要です。また、浜田港港湾計画の実現には、取扱貨物量の増加に向けた取組が不可欠であり、その中心となる浜田港振興会の活動は重要性を増しています。

つきましては、浜田港の課題や貨物量の増加に取り組む浜田港振興会の役割についてご理解をいただき、引き続き運営に対してご支援をお願いします。

② 取扱貨物量の増加や販路拡大及び市場開拓支援のための各種プロジェクトの推進について

浜田港におきましては、平成 13 年 2 月に国際コンテナ航路、平成 20 年 7 月に国際 RORO 船航路が就航しており、このうち国際コンテナ航路は本年 1 月から 2 便化され、利便性の向上が図られています。また、平成 24 年 12 月には「日本海側拠点港」に選定され、島根県の貿易拠点として、アジアをはじめとする世界各国との更なる貿易促進・拡大が期待されます。

つきましては、国際コンテナ取扱貨物量の増加につながる各種プロジェクトの実施や、販路拡大及び市場開拓の推進について、引き続きご支援をお願いします。

③大型基幹貨物を取り扱う企業の誘致の推進について

平成 29 年に改訂された浜田港港湾計画では、長浜地区、福井地区の岸壁の延伸及び新規岸壁の造成等が示されています。この計画が実現すると、より大型のコンテナ船が入港できるため、国際定期コンテナ航路の週復便化など、荷主に対する利便性向上には、より一層の取り扱いの増加が必要となります。

つきましては、県西部地域において大型基幹貨物（ベースカーゴ）を取り扱っていただける企業の誘致を推進していただきますようお願いいたします。

(6) ガントリークレーンの整備に伴うバース内の荷役設備の増設等について

【要望先：土木部】

浜田港では、コンテナ船の大型化に対応した荷役業務の効率化を図るため、昨年度にガントリークレーンが新たに整備されました。

この整備により、荷役スピードが大幅に向上にするため、その性能を十分に活用するためにも、リーチスタッカーの追加整備等、岸壁側の機能向上を図っていただきますようお願いいたします。

(7) 浜田港のパイロット（水先案内人）及び曳船（タグボート）の確保について

【要望先：土木部】

港湾パイロット（水先案内人）は、船舶の安全な入出港のための重要な要素となりますが、全国的に後継者不足や高齢化が深刻となっており、浜田港についても同様の問題を抱えています。

近年、輸送の効率化のための船舶の大型化が進み、浜田港においても、大型船補助のためにパイロットを要請されることが増えており、実績として平成 29 年度が 27 回、平成 30 年度が 34 回を数えています。今後、パイロットが不在となる事態になれば、大型貨物船やクルーズ船などの大型船の寄港が困難になることも想定されます。

つきましては、港湾管理者である島根県において、浜田港の永続的な発展のため、水先案内人及び将来を見据えたタグボートの確保に向けた仕組みづくりなど、抜本的な方策について主体的に検討を進めていただきますようお願いいたします。

(8) 新倉庫の整備について【要望先：土木部】【新規】

浜田港の埠頭エリアには、島根県整備の上屋 2 棟と民間整備の倉庫 1 棟の合計 3 棟（床面積約 7,600 m²）がありますが、貨物の増加に伴慢性的に満庫状態となっています。倉庫スペースの不足は、貨物が他港へ流れる原因となるため、浜田港近隣エリアにおける新倉庫の整備について、格段のご配慮をお願いします。

24 海岸保全事業の促進について

【要望先：土木部】

(1) 三隅港海岸（湊浦地区）【三隅】

引き続き事業の推進をお願いします。

25 地籍調査事業の予算確保について

【要望先：土木部】

地籍調査は、公共事業に伴う用地取得の円滑化や土地の権利関係の明確化、課税の公平化

など、大きな効果を生むものですが、長期の事業期間と多額の経費を要する事業です。事業を計画的に進めるためにも、予算の継続的な確保について格別のご高配をお願いします。

26 島根県統一仕様もしくは複数市町村統一仕様の統合型校務支援システムの導入促進と財政支援について【新規】

【要望先：教育庁】

校務の効率化と教職員の勤務時間削減に効果が高い「統合型校務支援システム」の導入について、全県統一仕様の校務支援システムの導入を再度検討いただきますようお願いいたします。

併せて、都道府県単位のシステムの導入だけでなく、複数市町村統一仕様の校務支援システムの導入についても財政支援制度を拡充するよう、国への働きかけをお願いします。

令和元年度浜田市総合防災訓練について

1 目 的

この訓練は、災害対策基本法、浜田市地域防災計画、浜田市水防計画に基づき、以下の目的をもって行う。

- (1) 住民が、消防団、自主防災組織等の避難誘導のもと、水害・土砂災害に対する避難行動を実際に行うことで、地域全体の防災意識高揚と防災行動力の向上を図る。
- (2) 災害対策本部では、時間経過とともに付与される様々な情報の収集、整理、判断、対応を繰り返すことで、災害対応力向上を図る。
- (3) 防災関係機関相互の連携を深めると共に、自主防災組織、事業所等との協力体制の確立を図る。

2 実施日時

令和元年 6 月 16 日（日）7 時 00 分から 12 時 00 分まで

3 会 場

浜田市内各地域

4 訓練テーマ

水害・土砂災害における防災活動

5 主 催

浜田市防災会議、浜田市、浜田市消防本部

6 訓練想定(平成 30 年 7 月豪雨の大雨災害と同様の気象条件を想定)

梅雨前線が中国地方を南下しており、強い台風第 x 号が東シナ海を北上している。前線に向かって台風から非常に暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発になっている。

このため島根県では非常に激しい雨が降り、記録的な大雨となり、市内で河川の氾濫及び土砂災害の危険性が高まった。

7 訓練概要

浜田市役所本庁舎、各支所庁舎において災害対策本部運営訓練及び情報伝達訓練を実施する。

併せて、市内各地域において、消防団による警戒巡視活動及び自主防災組織等が主体となる避難訓練等を実施する。

さらに、6 月を防災月間と位置付けることで、地域住民が主体となった防災訓練の実施を奨励する。

平成30年度空き家バンク制度の利用状況について

1 空き家バンクの状況

(平成31年3月31日現在)

		浜田市	浜田	金城	旭	弥栄	三隅
空き家バンク登録台帳 登録物件数累計 (A + B) ①		287件	161件	25件	22件	12件	67件
	平成21年度(※1)	35件	5件	3件	7件	6件	14件
	平成22年度	46件	33件	2件	3件	2件	6件
	平成23年度	20件	8件	1件	2件	1件	8件
	平成24年度	9件	5件	0件	0件	0件	4件
	平成25年度	7件	3件	1件	2件	0件	1件
	平成26年度	13件	9件	1件	3件	0件	0件
	平成27年度	31件	23件	3件	1件	0件	4件
	平成28年度	66件	48件	5件	3件	0件	10件
	平成29年度	71件	40件	11件	3件	3件	14件
	平成30年度	81件	53件	3件	4件	3件	18件
抹消物件数 (※2)		97件	68件	5件	7件	4件	13件
A 入居済物件数 ②		225件	123件	18件	21件	8件	55件
平成30年度		53件	30件	6件	3件	2件	12件
入居率 ②/①		78.4%	76.4%	72.0%	95.5%	66.7%	82.1%
U・I ターン者 入居	世帯数	81世帯	37世帯	3世帯	9世帯	6世帯	26世帯
	平成30年度	13世帯	6世帯	1世帯	1世帯	1世帯	4世帯
	人数	164人	61人	7人	24人	8人	64人
	平成30年度	23人	12人	1人	1人	2人	7人
市内転居者入居世帯		134世帯	82世帯	15世帯	10世帯	1世帯	26世帯
平成30年度		40世帯	24世帯	5世帯	2世帯	1世帯	8世帯
B 紹介物件数 (未入居物件数) ①-②		62件	38件	7件	1件	4件	12件
賃貸希望物件		18件	9件	4件	0件	2件	3件
売買希望物件		40件	28件	3件	1件	2件	6件
賃貸又は売買希望物件		4件	1件	0件	0件	0件	3件

※1 平成21年度「登録物件数」は、平成21年9月2日から平成22年3月31日までの登録数。

※2 「抹消物件数」は、空き家バンク登録後において空き家バンク利用登録者以外の者との契約による抹消、または所有者の都合により抹消したもの。

1 島根県立大学（浜田キャンパス）の入学状況について（平成31年4月3日現在）

（1）入学者数の状況

《総合政策学部 総合政策学科》（入学者選抜）

区 分	平成29年度	平成30年度	平成31年度
一般選抜(前期)	136名	155名	143名
一般選抜(後期)	20名	22名	16名
特別入試	4名	3名	2名
自己推薦	75名	79名	74名
合 計	235名	259名	235名

（参考）

《総合政策学部 総合政策学科》（3年次編入・交換留学生）

区 分	平成29年度	平成30年度	平成31年度
3年次編入	0名	3名	0名
交換留学生	7名	6名	5名
合 計	7名	9名	5名

《大学院 北東アジア開発研究科》

区 分	平成29年度	平成30年度	平成31年度
合 計	10名	7名	7名

（2）《出身地別入学者の状況》（詳細：裏面参照）

区 分	平成29年度	平成30年度	平成31年度
島根県内	50名	61名	46名
内 浜田市	3名	9名	7名
島根県外	185名	198名	189名
合 計	235名	259名	235名

(3) 出身地別入学者の状況

《島根県内》

市町村名	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
松江市	6 名	14 名	4 名
浜田市	3 名	9 名	7 名
出雲市	15 名	20 名	15 名
益田市	4 名	3 名	1 名
大田市	4 名	3 名	4 名
安来市	0 名	4 名	3 名
江津市	2 名	4 名	1 名
雲南市	3 名	0 名	3 名
奥出雲町	4 名	1 名	2 名
飯南町	1 名	0 名	3 名
川本町	2 名	0 名	1 名
美郷町	1 名	0 名	0 名
邑南町	3 名	1 名	0 名
津和野町	1 名	1 名	0 名
吉賀町	0 名	1 名	0 名
海士町	0 名	0 名	0 名
西ノ島町	0 名	0 名	0 名
知夫村	0 名	0 名	0 名
隠岐の島町	1 名	0 名	2 名
合 計	50 名	61 名	46 名

《島根県外》

都道府県名	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
広島県	39 名	33 名	31 名
兵庫県	16 名	11 名	14 名
岡山県	10 名	15 名	13 名
鳥取県	12 名	9 名	15 名
愛媛県	14 名	13 名	12 名
上記以外	94 名	117 名	104 名
合 計	185 名	198 名	189 名

2 リハビリテーションカレッジ島根の入学状況について（平成31年4月3日現在）

（1）学科別入学者の状況

科 名	定 員	平成29年度	平成30年度	平成31年度
理学療法学科	40名	25名	35名	25名
作業療法学科	40名	14名	6名	10名
言語聴覚学科	40名	13名	14名	20名
合 計	120名	52名	55名	55名

※ 別途、中国人留学生 14名 条件付合格。

（現在、青島大学にて日本語学習中。令和2年4月入学予定）

（2）出身地別入学者の状況

市町村名	平成29年度	平成30年度	平成31年度
松 江 市	1名	0名	1名
浜 田 市	11名	9名	6名
出 雲 市	6名	1名	1名
益 田 市	8名	4名	13名
大 田 市	3名	4名	2名
安 来 市	0名	0名	0名
江 津 市	5名	4名	4名
雲 南 市	0名	1名	1名
邑 智 郡	3名	2名	1名
鹿 足 郡	0名	0名	0名
合 計	37名	25名	29名
広 島 県	9名	13名	12名
鳥 取 県	1名	0名	0名
山 口 県	2名	1名	5名
東 京 都	0名	2名	0名
神 奈 川 県	0名	1名	0名
栃 木 県	0名	1名	0名
兵 庫 県	0名	1名	1名
愛 媛 県	1名	0名	0名
福 岡 県	0名	0名	1名
沖 縄 県	0名	5名	6名
中 国	2名	6名	1名
合 計	15名	30名	26名
総 合 計	52名	55名	55名

3 浜田ビューティーカレッジの入学状況について（平成31年4月3日現在）

(1) 学科別入学者の状況

学 科 名	定 員	平成29年度	平成30年度	平成31年度
専門課程(美容科)	20名	4名	4名	5名
高等課程(美容科)	20名	3名	2名	3名
通信課程(美容科)	20名	4名	0名	0名
合 計	60名	11名	6名	8名

※修業年数・・・ 専門課程⇒2年 高等課程・通信課程⇒3年

※通信課程は、10月入学のため、現段階では0名

※平成29年度から高等課程入学者は、併せて浜田高等学校通信制へ入学し、高校卒業資格を得られる仕組みを導入。

(2) 出身地別入学者の状況

市町村名	平成29年度	平成30年度	平成31年度
松 江 市	1名	0名	2名
浜 田 市	4名	2名	5名
出 雲 市	1名	0名	0名
益 田 市	3名	1名	1名
大 田 市	0名	1名	0名
安 来 市	0名	1名	0名
江 津 市	0名	1名	0名
雲 南 市	0名	0名	0名
邑 智 郡	1名	0名	0名
鹿 足 郡	0名	0名	0名
合 計	10名	6名	8名
熊 本 県	1名	0名	0名
合 計	1名	0名	0名
総 合 計	11名	6名	8名

敬老乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況等について

1 敬老乗車券交付事業

(1) 事業開始 平成28年7月1日（金）

(2) 事業概要

市内に住所のある70歳以上の高齢者に対して市内の公共交通機関で利用できる1冊3,000円分の乗車券を1,500円で交付する。

※交付上限10冊(30,000円分)。

ただし、JR浜田駅から半径8kmを超える町の居住者は12冊(36,000円分)。

(3) 平成30年度申請状況（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

カッコ内：平成29年度からの増減

自治区	年度	申請者数 ①	交付冊数 ②	1人当 交付冊数 (②/①)	対象者数 (③)	交付率 (②/③)
浜田	30年度	2,309人 (+19人)	15,966冊 (▲766冊)	6.9冊 (▲0.4冊)	10,567人 (+261人)	21.9% (▲0.3%)
	29年度	2,290人	16,732冊	7.3冊	10,306人	22.2%
	28年度	2,635人	17,362冊	6.6冊	9,967人	26.4%
金城	30年度	226人 (+16人)	1,879冊 (+144冊)	8.3冊 (±0冊)	1,240人 (+21人)	18.2% (+1.0%)
	29年度	210人	1,735冊	8.3冊	1,219人	17.2%
	28年度	271人	2,002冊	7.4冊	1,194人	22.7%
旭	30年度	102人 (▲35人)	633冊 (▲138冊)	6.2冊 (+0.6冊)	899人 (▲1人)	11.3% (▲3.9%)
	29年度	137人	771冊	5.6冊	900人	15.2%
	28年度	120人	605冊	5.0冊	912人	13.2%
弥栄	30年度	117人 (▲21人)	739冊 (▲140冊)	6.3冊 (▲0.1冊)	509人 (▲5人)	23.0% (▲3.7%)
	29年度	138人	879冊	6.4冊	514人	26.8%
	28年度	138人	807冊	5.8冊	504人	27.4%
三隅	30年度	323人 (▲22人)	2,175冊 (▲130冊)	6.7冊 (±0冊)	1,985人 (+21人)	16.3% (▲1.3%)
	29年度	345人	2,305冊	6.7冊	1,964人	17.6%
	28年度	408人	2,478冊	6.1冊	1,904人	21.4%
合計	30年度	3,077人 (▲43人)	21,392冊 (▲1,030冊)	7.0冊 (▲0.2冊)	15,200人 (+297人)	20.2% (▲0.7%)
	29年度	3,120人	22,422冊	7.2冊	14,903人	20.9%
	28年度	3,572人	23,254冊	6.5冊	14,481人	24.7%

※ 対象者数は、平成30年4月1日現在のものです。

(4) 乗車券の利用状況（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

交通種別	利用額	割合
路線バス（民間路線バス、おおなんバス）	15,058,400 円	19.8%
タクシー（タクシー、福祉有償運送）	57,678,100 円	76.0%
市主管交通（市生活路線バス、市乗合タクシー）	3,016,600 円	4.0%
自治会輸送	184,500 円	0.2%
合 計	75,937,600 円	100.0%

※平成 30 年度予算額：81,029,000 円

2 運転免許自主返納支援事業

(1) 事業開始 平成 29 年 1 月 4 日（月）

(2) 事業概要

敬老乗車券交付対象者のうち、平成 28 年 7 月 1 日以降に全ての運転免許を自主返納した人に対して敬老乗車券 5 冊（15,000 円分）を無料で交付する。

※ 返納後 1 回限り

(3) 申請状況 平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

平成 28 年度（平成 29 年 1 月 4 日～平成 29 年 3 月 31 日）

ア 自治区別

自治区 年度	浜田	金城	旭	弥栄	三隅	合計
30 年度	135 人	12 人	9 人	9 人	19 人	184 人
29 年度	195 人	17 人	23 人	11 人	27 人	273 人
28 年度	111 人	12 人	4 人	6 人	12 人	145 人

イ 年齢・性別

年代 性別	年度	70-74 歳	75-79 歳	80-84 歳	85-89 歳	90 歳-	合計
男性	30 年度	6 人	21 人	48 人	29 人	9 人	113 人
	29 年度	17 人	28 人	57 人	52 人	16 人	170 人
	28 年度	7 人	13 人	25 人	26 人	12 人	83 人
女性	30 年度	21 人	20 人	22 人	7 人	1 人	71 人
	29 年度	29 人	34 人	21 人	13 人	6 人	103 人
	28 年度	21 人	15 人	17 人	6 人	3 人	62 人
合計	30 年度	27 人	41 人	70 人	36 人	10 人	184 人
	29 年度	46 人	62 人	78 人	65 人	22 人	273 人
	28 年度	28 人	28 人	42 人	32 人	15 人	145 人

年代 性別	最年少	最年長	平均年齢
男性	69 歳	95 歳	82.8 歳
女性	69 歳	94 歳	78.5 歳
全体	69 歳	95 歳	81.1 歳

ウ 免許返納時期別

返納時期		人数	備考
平成 28 年度	7 月 1 日～12 月 12 日	51 人	事業公表前
	12 月 13 日～12 月 28 日	12 人	12 月 13 日～ 各メディアで報道
	1 月 4 日～3 月 31 日	103 人	申請受付開始
平成 29 年度	4 月 1 日～3 月 31 日	263 人	
平成 30 年度	4 月 1 日～3 月 31 日	173 人	
合 計		602 人	

浜田市生活路線バス等の利用実績について

1 浜田市生活路線バスの利用実績

路線名	系統名等	利用者数 [A]			運行便数[B]	1便当たり 利用者数 [A/B]
		平成29年度	平成30年度	増減 〔前年度比〕		
					(上段:平成29年度実績)	
金城	雲城美又線(SB)	71人	45人	▲ 26人 〔63.4%〕	(245便) 244便	(0.3人) 0.2人
	雲城久佐線(SB)	202人	122人	▲ 80人 〔60.4%〕	(245便) 244便	(0.8人) 0.5人
	雲城久佐美又線	844人	394人	▲ 450人 〔46.7%〕	(1,430便) 789便	(0.6人) 0.5人
	雲城今福線 (回送活用便)	14人	26人	12人 〔185.7%〕	(310便) 149便	(0.0人) 0.2人
	小 計	1,131人	587人	▲ 544人 〔51.9%〕	(2,230便) 1,426便	(0.5人) 0.4人
旭	木田線(SB)	578人	375人	▲ 203人 〔64.9%〕	(2,629便) 1,966便	(0.2人) 0.2人
	戸川線(SB)	2,501人	2,573人	72人 〔102.9%〕	(3,032便) 2,502便	(0.8人) 1.0人
	瑞穂線(SB)	978人	994人	16人 〔101.6%〕	(2,557便) 2,186便	(0.4人) 0.5人
	小 計	4,057人	3,942人	▲ 115人 〔97.2%〕	(8,218便) 6,654便	(0.5人) 0.6人
弥栄 野原	小 計	3,005人	2,722人	▲ 283人 〔90.6%〕	(2,472便) 2,464便	(1.2人) 1.1人
三隅	循環線	9,191人	8,340人	▲ 851人 〔90.7%〕	(3,801便) 3,775便	(2.4人) 2.2人
	井野室谷線	708人	562人	▲ 146人 〔79.4%〕	(157便) 161便	(4.5人) 3.5人
	諸谷平原線	724人	680人	▲ 44人 〔93.9%〕	(141便) 150便	(5.1人) 4.5人
	平原森溝線	248人	182人	▲ 66人 〔73.4%〕	(97便) 86便	(2.6人) 2.1人
	白砂西河内線	728人	694人	▲ 34人 〔95.3%〕	(193便) 196便	(3.8人) 3.5人
	井野三隅線	1,887人	1,431人	▲ 456人 〔75.8%〕	(921便) 924便	(2.0人) 1.5人
	周布地今明線	1,740人	1,518人	▲ 222人 〔87.2%〕	(388便) 368便	(4.5人) 4.1人
	石浦小原線	748人	820人	72人 〔109.6%〕	(197便) 210便	(3.8人) 3.9人
	黒沢矢原線	3,852人	3,218人	▲ 634人 〔83.5%〕	(1,872便) 1,872便	(2.1人) 1.7人
	黒沢小原線	2,056人	2,265人	209人 〔110.2%〕	(305便) 312便	(6.7人) 7.3人
	矢原岡見線	487人	436人	▲ 51人 〔89.5%〕	(103便) 104便	(4.7人) 4.2人
	岡見海老谷線	419人	341人	▲ 78人 〔81.4%〕	(147便) 150便	(2.9人) 2.3人
	小 計	22,788人	20,487人	▲ 2,301人 〔89.9%〕	(8,322便) 8,308便	(2.7人) 2.5人
合 計		30,981人	27,738人	▲ 3,243人 〔89.5%〕	(21,242便) 18,852便	(1.5人) 1.5人

(注) 金城路線及び旭路線の「(SB)」表示のある系統については、スクールバスの一般混乗便を運行しているが、集計は、一般利用者のみの数値

※平成29年度からの変更点

【金城路線】 運行日の削減

【旭路線】 和田線の廃止、運行日の削減

【弥栄野原路線】 バス停の新設（野原三町内）、「坂の上」バス停廃止便の導入

2 浜田市予約型乗合タクシーの利用実績

自治区	地区名等	利用者数 [A]			計画便数 [B]	運行便数 [C]	稼働率 [C/B]	1便当たり 利用者数 [A/B]
		平成29年度	平成30年度	増減 〔前年度比〕				
		(上段：平成29年度実績)						
浜田	三階長見線	910人	640人	▲ 270人 〔70.3%〕	(576便) 576便	(386便) 308便	(67.0%) (53.5%)	(1.6人) 1.1人
	美川線	1,345人	1,134人	▲ 211人 〔84.3%〕	(576便) 576便	(393便) 390便	(68.2%) (67.7%)	(2.3人) 2.0人
	小 計	2,255人	1,774人	▲ 481人 〔78.7%〕	(1,152便) 1,152便	(779便) 698便	(67.6%) (60.6%)	(2.0人) 1.5人
金城	小国・波佐線	826人	789人	▲ 37人 〔95.5%〕	(288便) 288便	(222便) 257便	(77.1%) (89.2%)	(2.9人) 2.7人
	美又線	146人	53人	▲ 93人 〔36.3%〕	(104便) 98便	(73便) 43便	(70.2%) (43.9%)	(1.4人) 0.5人
	久佐線	166人	184人	18 〔110.8%〕	(212便) 197便	(91便) 98便	(42.9%) (49.7%)	(0.8人) 0.9人
	小 計	1,138人	1,026人	▲ 112人 〔90.2%〕	(604便) 583便	(386便) 398便	(63.9%) (68.3%)	(1.9人) 1.8人
旭	木田・山ノ内線	116人	182人	66人 〔156.9%〕	(96便) 138便	(70便) 80便	(72.9%) (58.0%)	(1.2人) 1.3人
	和田線	-	98人	皆増	- 136便	- 64便	- (47.1%)	- 1.5人
	坂本・都川線	179人	166人	▲ 13人 〔92.7%〕	(200便) 150便	(75便) 68便	(37.5%) (45.3%)	(0.9人) 1.1人
	市木・来尾線	231人	243人	12人 〔105.2%〕	(200便) 106便	(47便) 50便	(23.5%) (47.2%)	(1.2人) 2.3人
	小 計	526人	689人	163人 〔131.0%〕	(496便) 530便	(192便) 262便	(38.7%) (49.4%)	(1.1人) 1.3人
弥栄	横谷・程原線	196人	395人	199人 〔201.5%〕	(200便) 86便	(104便) 84便	(52.0%) (97.7%)	(1.0人) 4.6人
	山賀・畑線	553人	401人	▲ 152人 〔72.5%〕	(296便) 102便	(231便) 100便	- (98.0%)	(1.9人) 3.9人
	田野原・的野線	244人	203人	▲ 41人 〔83.2%〕	(194便) 96便	(111便) 74便	(57.2%) (77.1%)	(1.3人) 2.1人
	安城・杵束線 (眼科便)	48人	50人	2人 〔104.2%〕	(72便) 23便	(28便) 18便	(38.9%) (78.3%)	(0.7人) 2.2人
	小 計	1,041人	1,049人	8人 〔100.8%〕	(762便) 307便	(474便) 276便	(62.2%) (89.9%)	(1.4人) 3.4人
合 計		4,960人	4,538人	▲ 422人 〔91.5%〕	(3,014便) 2,572便	(1,831便) 1,634便	(60.7%) (63.5%)	(1.6人) 1.8人

※平成29年度からの変更点

【浜田自治区】 三階長見線の終点を浜田医療センターから殿町まで延長

【旭自治区】 山ノ内線の拡大(木田エリアを追加)、和田線を新規運行、坂本・都川線、市木・来尾線の運行便数を削減

【弥栄自治区】 7線(山賀線・的野線・青尾線・程原線・畑線・横谷線・上田野原線)を3線(横谷程原線・山賀畑線・田野原的野線)に見直し。安城・杵束線のおでかけ便を廃止

リハビリテーションカレッジ島根

学生の安定確保と新規収益事業による学校経営の改善 (毎年100名入学 + 外国人向け研修事業開始)

(Ⅰ) 日本人学生 毎年60名入学
【国内の高校等より】 沖縄・首都圏等強化 → 10名増



協力・連携



(Ⅱ) 外国人留学生 毎年40名入学

【学術・教育に関する包括的な交流協定締結校より】

- ・青島大学
- ・河南医薬技師学院
- ・連雲港中医薬高等職業技術学校
- ・連雲港中等専門学校
- ・徐州衛生学校

※ 今後も協定校を増やす予定

※ 入学前に中国国内で日本語能力試験「N2」以上取得

【日本国内の日本語学校より】

- ・入学実績校等

(Ⅲ) 外国人短期リハビリ研修

3ヵ月コース・毎回40名受講

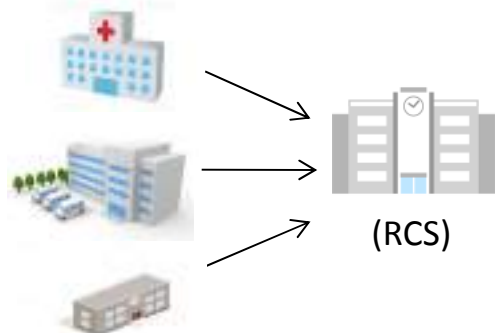
【中国の病院・施設・大学等より】

※ 青島市・大連市を中心に募集

初年度(2019年度) 40名 × 3ヵ月コース × 2回

2020年度以降 40名 × 3ヵ月コース × 4回

※ 日本の養成校での履修を証明する「修了証」発行



上記(Ⅰ)～(Ⅲ)により、年間1億2,510万円の増収(2020年度以降)

(Ⅰ) 日本人学生10名増により 1,350万円の増収(年間学納金 135万円 × 10名 = 1,350万円)

(Ⅱ) 外国人留学生40名入学により 5,400万円の増収(年間学納金 135万円 × 40名 = 5,400万円)

(Ⅲ) 外国人短期リハビリ研修により 5,760万円の増収(受講料 月12万円 × 40名 × 12ヵ月 = 5,760万円)

平成30年度 青少年サポートセンターの利用状況について

青少年サポートセンターの平成30年度における相談状況等は、以下のとおりです。

【延べ相談件数】 (件)

		学校問題		家庭問題		対人・社会問題		個人問題	非行問題	その他	合計
		不登校		ひきこもり		就労					
H30年度	20歳未満	380	353	155	38	37	1	80	23	0	675
	20歳以上	12	1	248	245	27	18	168	0	3	458
	合 計	392	354	403	283	64	19	248	23	3	1,133
H29年度	20歳未満	292	229	127	66	7	3	47	26	0	499
	20歳以上	4	1	317	301	56	47	162	0	2	541
	合 計	296	230	444	367	63	50	209	26	2	1,040

【相談対象人数】 (人)

H30年度	20歳未満	小・中学生	10	10	1	0	0	0	0	0	0	11
		高校生	2	2	1	0	0	0	1	1	0	5
		定・通・専・フ	15	12	0	0	0	0	1	0	1	17
		その他	1	1	4	4	0	0	1	1	0	7
	小 計		28	25	6	4	0	0	3	2	1	40
	20歳以上		1	0	26	25	11	10	6	0	0	44
	合 計		29	25	32	29	11	10	9	2	1	84
H29年度	20歳未満	小・中学生	16	16	2	0	0	0	0	0	0	18
		高校生	1	1	1	0	1	0	1	1	0	5
		定・通・専・フ	12	9	2	0	0	0	2	3	1	20
		その他	0	0	2	2	0	0	2	0	0	4
	小 計		29	26	7	2	1	0	5	4	1	47
	20歳以上		2	0	23	23	16	14	6	0	0	47
	合 計		31	26	30	25	17	14	11	4	1	94

【若年無業者の状況】 ()はH30年度中の就労者数 単位:人

	相談・支援対象人数			内 ひきこもり			内 ニート		
		継続	新規		継続	新規		継続	新規
20歳未満	4(1)	3(1)	1(0)	4(1)	3(1)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
20歳以上	30(6)	28(6)	2(0)	25(6)	23(6)	2(0)	5(0)	5(0)	0(0)
合 計	34(7)	31(7)	3(0)	29(7)	26(7)	3(0)	5(0)	5(0)	0(0)

【居場所利用状況】

	利 用 人 数	1日平均 利用人数	利 用 回 数								
			学習室	調理室	作業室	音楽室	休憩室	相談室	ロビー	会議室	計
H30年度	1,044	4.28	305	148	782	2	13	69	—	—	1,319
H29年度	767	3.19	82	44	656	15	5	36	9	36	883

令和元年 6 月 23 日
総務文教委員会資料
教育委員会学校教育課

平成 30 年度 学力向上総合対策事業 実績報告書

浜田市教育委員会
学校教育課

目 次

学力向上に向けてのイメージ図

家庭学習ノートコンテスト	P 1
学習プリント配信システムの活用	P 2
コア・ティーチャー育成	P 3
スーパーティーチャーによる教員研修	P 4～6
協調学習の研修	P 7～9
協調学習研究指定校	P10～14
算数・数学研究指定校	P15～16
学校図書館活用教育研究指定校	P17～21
図書館活用教育の研修	P22～26
浜田市図書館を使った調べる学習コンクール	P27～29
学校英語検定料補助	P30
総 括	P31～39

資 料 ○家庭学習ノートリーフレット
 ○学力向上推進室だより
 (第16号～第28号)

夢を持ち郷土を愛する人を育む

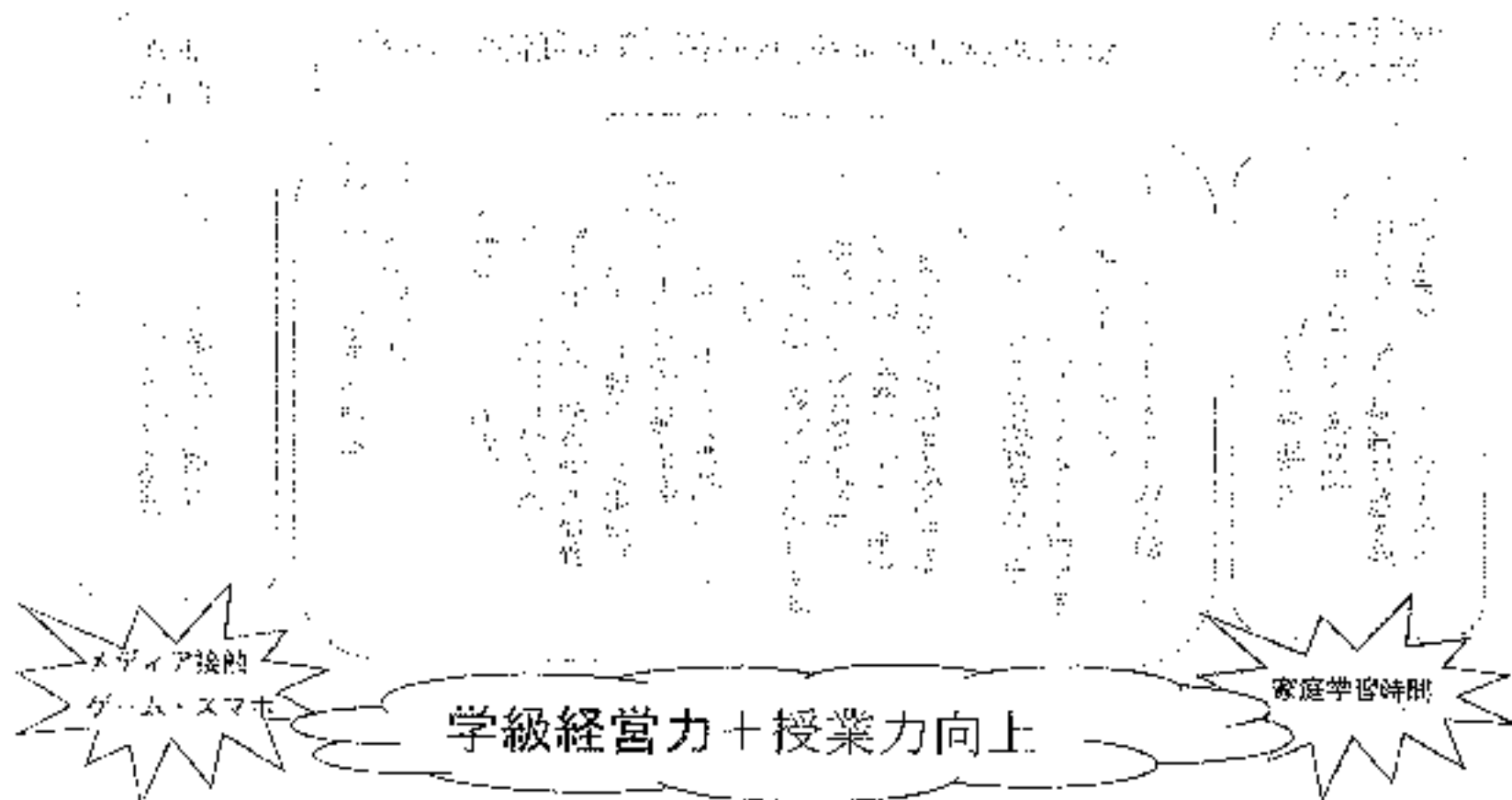
学力 (基礎力・習得力) (応用力・判断力) (表現力) の学びに向かう力・人間性 向上

園児・児童生徒支援

→ 特別支援教育 →

園児・児童生徒支援

→ 生徒指導 →



○保幼小連携 ○小中連携

○◎組織的な取組・チーム学校

(9) 年間の積み上げ

◎学級経営

◎社会に開かれた教育課程

1 (募集名) 家庭学習ノートコンテスト

1 募集目的

- 児童生徒が意欲的に家庭学習ノートへ取り組み、家庭学習の習慣を定着させるきっかけとする。
- 良い事例を共有し、学びを定着させたり深めたりする家庭学習ノートづくりを通して学力向上に役立てる。

2 募集実施

- (1) 対象 児童生徒が今年度4月以降に家庭学習で利用したノートで下記のいずれかの観点により校内で選出されたもの。

※自主学習だけでなく宿題に取り組んだものも対象とする。

- 観 点 ① 日頃の努力が認められるもの
② 理解を深めようと工夫してまとめているもの
③ ①と②を総合したもの

- (2) 選定方法 ① 各学級で原則1名の優秀な家庭学習ノートを選定し、その児童生徒を優良賞とする。
② 優良賞の中から学校代表となる1名の家庭学習ノートを選定し、優秀賞とする。

- (2) 応募期間 平成31年1月15日(火)～平成31年1月25日(金)

- (3) 応募総数 189点
小1:24点 小2:22点 小3:20点 小4:22点 小5:23点
小6:20点 市1:20点 中2:20点 中3:19点

- (4) 結果 優秀賞 25点 優良賞 160点 入選 4点

- (5) パンフレット及び集録集の作成

家庭学習の充実を啓発するため、家庭学習ノートコンテストの優秀賞ノートから、家庭学習のノート例を紹介したパンフレット(別紙資料)を作成し、市内全児童生徒に配布した。

3 事業評価

今年度も、昨年度同様、自主的に学習したものだけでなく、宿題として取り組んだものも応募対象とした。各校の取組が積極的になってきており、小学校と中学校での交流を行い、ノートの紹介を行う校区が増えてきた。また、家庭学習の課題を出したり、出されたノートをチェックしたりする際、担任及び教科担任だけではなく、学級委員や他の教職員も参加して、教職員全体で家庭学習の指導等を行っている学校もある。児童生徒にとっては、家庭学習ノートコンテストへの取組が、楽しみや意欲につながっている様子がうかがわれるものも出てきており、家庭学習の定着の一助になっている。取組への呼びかけを繰り返した成果として、年間を通してよいノートの紹介をする学校が増えてきており、学級内にとどまらず、常時校内に掲示したり、行事等で保護者にも知らせたりして、啓発する学校が多くなっている。各学級や中学校区で独自の取組も出てきており、一定の成果があったと言える。

7. (事業名) 学習プリント配信システムの活用

1. 事業目的

児童生徒一人ひとりの課題に応じた基礎学力の向上や補充学習の充実、家庭での学習習慣の定着を図り、児童生徒に「わかる」「できる」喜びを味わわせるために、インターネットを活用した学習プリント配信システムによる教育活動を展開する。

2. 事業実績

(1) 中学校及び小学校の学習プリント配信システムの導入

(小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語)

(2) 小中学校への学習プリントの配布

学校の要請により、必要な学習プリント配信システムのプリント印刷を市教委で印刷し、配布した。

印刷配布枚数 171,906 枚 (3月末現在 小学校のみ)

(3) 学習プリント配信システムへのアクセス数 10,916 回 (2月末現在)

3. 事業評価

学校の要請によるプリント印刷を行っていることで、大量印刷に係る学校の負担を軽減することができた。小学校からの依頼のみであるが、印刷配布枚数が大幅増加している。中学校では、各学校で印刷し活用された。

児童一人当たりの平均印刷枚数は約 67 枚 (印刷配布総数 171,906 枚/児童数 2,553 人、3月末現在)、一学級当たりの学習プリント配信システムへの平均アクセス数は 62.4 回 (アクセス総数 10,916/市内小中学校の総学級数 175、2月末現在)であり (前年度 51.8 回)、アクセス数は増加している。

算数・英語のプリントへのアクセスが多く、全国学力調査結果を受けての日々の反復練習や家庭学習の機軸等に活用されたと思われる。また、中学校では、全国学力調査の返答対応や、高校入試問題対応、日々の授業の活用問題等に利用されている。

特に、算数・数学研究指定校では、毎時間の授業の後半 15 分間を「返月問題 (習熟度別プリント)」に取り組む実験を始めた。これは、授業の振り返りであり、学びの向上のためである。この「返月問題」を作成するに当たり、学習プリント配信システムを活用し、領域問題型、発展問題型、高校入試問題型等の 3 段階のプリントを作成して実施している。使用別の問題作りにも有効である。

また、市教委独自で、国語、算数・数学の全国調査問題を統一的な単元ごとに収録ネットワークにアップし、さらに、算数・数学の反復練習用の問題も収録ネットワークにアップしており、活用が進んでいる。さらに活用が進むよう呼びかけていきたい。

（事業名）コア・ティーチャーの育成

1 事業目的

学力に関する先進地の学校教育の実態及び学習指導方法等を視察することにより、教員研修会や小中連携教育などで中核的な役割を担う教員として、指導力向上に資する人材の育成を図る。

2 事業実績

（1）コア・ティーチャーの視察研修

- ① 研修期間 平成30年6月18日（月）～6月22日（金）
- ② 研修場所 福井市立美山中学校・社北小学校・文殊小学校・社中学校・春山小学校
- ③ 参加者 浜田市立長浜小学校 小田 将史 教諭
浜田市立第一中学校 品川 仁志 教諭
浜田市教育委員会 牛尾 聖次

（2）コア・ティーチャーによる公開授業及び福井市視察研修報告会

- ① 平成30年9月27日（木）14:00～16:00
会 場 浜田市立長浜小学校
単元・授業者 4年 算数科 「計算のきまり」 小田 将史 教諭
参加者数 4名（長浜小職員を除く）（長浜小校内報告 18名）
- ② 平成30年10月19日（金）14:00～16:10
会 場 浜田市立第一中学校
単元・授業者 1年 理 科 「物質の姿と状態変化」品川 仁志 教諭
参加者数 4名（一中職員を除く）

3 事業評価

- （1）学ぶべき点 報告者が共通に挙げる点は以下のことである。①低幼小中高の連携、②家庭との連携、③協働学習の活用、④当たり前のことを当たり前に徹底
- （2）いずれも、浜田市で取り組んでいることと差はないと感じる。福井市、浜田市の教員の授業改善の取組や、家庭との連携、中学校区毎の連携、公民館等地域の支援等、同様の取組がされている。上手くいく場合もいかない場合もあり、試行錯誤の中で取り組んでおられる姿は、浜田市の教員と何ら変わらないのである。
ただ、訪問した各学校では、様々な取組を「学校全体で組織的」に、「徹底してやり切る」こと等の意識の高さを感じた。「無言無言」の取組も一つであった。
- （3）家庭の教育力が非常に高い（家庭で学習する時間は圧倒的に多い）こと、小中の教員の交流が以前から盛んであったこと、そして、県独自学力調査が以前からあり（36回の歴史）、授業改善に活かされてきたことが、福井市や福井県の教育力の秘密であると思われる。

5年間の本事業研修者14名は学校においてミドルリーダーとして活躍しており、事業の役目を果たしたと考え、今年度（5回目）をもって本事業を終了とする。「当たり前のことを当たり前に徹底する」ことを、浜田市の教育に浸透させていきたい。

（事業名）スーパーティーチャー・示達授業による教員研修

1 事業目的

スーパーティーチャーを講師に招き、講師による実際の授業を通じて教員研究の仕方、授業づくり、児童生徒への対応等に学び、教員の授業力向上に資する。

2 事業実績

① 国語科

(1) 開催日時 平成30年7月23日（月） 9:15～14:50

(2) 開催場所 浜田商立国府小学校

(3) 内 容

- ・示達授業：国語科 4年生 教材文 「広辞と説明文を読みくらべよう」
- ・講 義：明日からできる活用力育成 「言葉を整えて学力向上」

(4) 講 師 森ノ宮医療大学 教授 阿部 秀司 氏

(5) 参加人数 75名

(6) 参加者のアンケートから

- ・私も同じ教材で授業をしました。「初めて」の工夫に学びました。意欲をもたせるめあての設定や、隙を与えない活動の流れづくりなど参考になりました。
- ・2学級教材ということで、即実践に活かすことができとても参考になりました。授業の始めに見通しをもたせることや、一人の児童の発言にこだわって聞き返したり、説明し直させたりすることで言葉の方がつづののだと思いました。
- ・改めて、授業で教師のすべきことは、これだなと実感できました。
- ・すべき授業について、イメージをもつことができました。
- ・児童に語らせることを意識した授業でした。毎年1年間かけて積み上げ方としていく方向性がはっきりしました。
- ・授業づくりのポイントがすごく明確で分かりやすかったですし、3学期に向けての思いを強く持つことができました。
- ・B問題を実際に自分でも解きながら、子ども達にどのような力を付けたいのかを学ぶことができました。B問題を使って授業をする、3問題を意識して授業をすることの大切さを知りました。
- ・決して受験対策とか点を上げるためとかではなく、逆に子どもに力を付けるためにB問題で授業をしたかと思えました。条件付き作文を数冊の枠を超え、教科書的な視点で取り込んでいきたいです。

② 国語科1

(1) 開催日時 平成30年5月18日（水） 14:30～16:40

(2) 開催場所 浜田商立国府小学校

(3) 内 容

- ・示範授業：算数 第3学年 単元「わり算」
- ・講 義：新学習指導要領における教材と授業づくりのポイント
～「だれもがわかる 楽しい算数授業」をめざして～

(4) 講 師 筑波大学附属小学校 教諭 大野 桂 氏

(5) 参加人数 30名

◆ 算数科2

(1) 開催日時 平成30年7月24日（火） 9:15～12:00

(2) 開催場所 浜田市立旭小学校

(3) 内 容

- ・示範授業：算数 4年生 単元「折れ線グラフ」
- ・講 義：授業の振り返りから算数指導の在り方考える

(4) 講 師 IPR・塚本平洋大学 准教授 前田 一誠 氏

(5) 参加人数 65名

(6) 参加者アンケートから

- ・子どもたちが考えることを楽しんでいた授業でした。詰りたくなる、考えたくなる教材の示し方や、間違っただけを見せる、少しずつ見せる等の見せ方、めあてをシンプルにする、予想させる等、参考になりました。
- ・考えられた教材の提示があり、子どもたちが自ら答えを導き出すことができていました。ファシリテーターとしての教師の役割のイメージが分かりました。
- ・子ども同士をつなぐ教師の役割を具体的に示してもらい大変参考になりました。
- ・教師が主導で進めるだけでなく、ファシリテーターとして、子ども達の言葉をつなぎ、子ども達の言葉で理解を促す授業の進め方を実践していきたいです。
- ・聞くことを大切にする指導を、2学期からすぐに実践してみようと思います。

3 事業評価

毎年100名を超える教職員の参加がある、最も人気のある事業である。今年度は、算数科2、国語科1の3つの研修に、合計160名の参加者があった。感想に「教師のすべきことが具体的に分かった。」「教師の役割のイメージが分かった。」「具体的に示してもらい大変参考になった」という内容が多く見られた。実際に、「主体的・対話的で深い学び」の授業モデルを見ることで、目指す授業のイメージをもつことができる。また、「2学期からすぐに実践」「2学期から強い思いをもつことができた」「取り組んでいきたい」と、明日からの授業へ意欲を示す感想も多い。

「授業づくり」を楽しむ教師、子どもと授業を創っていくことが楽しいと思える数科を増やしていきたい、継続していきたい事業である。



【國語小学4年・阿部先生】



【阿部先生による議論】



【算数：小学3年・矢野先生】



【算数2・小学4年・前田先生】



【前田先生による議論】

（事業名）協調学習の研修

1 事業目的

思考力・判断力・表現力の育成、主体的・対話的な深い学びの実現をめざし、言語活動の充実に資する「知識構成型ジグソー法」という授業の型を用いた協調学習について研修し、授業方向上、授業改善の一助とする。

2 事業実績

(1) 新しい学びプロジェクト（協調学習）の研修会Ⅰ（夏季研修会）

- ① 開催日時 平成 30 年 8 月 24 日（金） 13:00～16:00
- ② 開催場所 浜田市立中央図書館
- ③ 講師 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）
特任助教 飯窪 真也 氏

④ 参加人数 37 名

⑤ 内 容

講義Ⅰ：「協調学習の授業づくりで大切にしたいこと」

演習：グループに分かれて授業体験、教材体験

「知識構成型ジグソー法で国語授業づくり」

課題：「兼好法師ってどんな人？」

（体験資料提供者：金城市 永安裕子 教諭）

授業体験の振り返り、質疑応答

(2) 新しい学びプロジェクト（協調学習）の研修会Ⅱ

- ① 開催日時 平成 31 年 2 月 25 日（月） 14:00～14:45
- ② 開催場所 浜田市教育委員会
- ③ 講師 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）
特任助教 飯窪 真也 氏

④ 参加人数 8 名

⑤ 内 容

講義Ⅰ：「協調学習～主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザイン～」

演習：グループに分かれて授業体験、教材体験

算数科「等しい面積」

(3) 新しい学びプロジェクト（協調学習）の研修会Ⅲ

- ① 開催日時 平成 31 年 2 月 26 日（月） 15:30～18:50
- ② 開催場所 浜田市立第三中学校
- ③ 講師 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）
特任助教 飯窪 真也 氏

④ 参加人数 36 名

⑤ 内 容

講義Ⅰ：「協調学習～一人ひとりの学びを引き出す授業デザイン～」

演習：グループに分かれて授業体験、教材体験

「知識の成率ジグソー法で道徳授業づくり」

資料：二冊の手紙

授業体験の振り返り、質疑応答

(4) 安芸太田町立加計中学校授業研究会への参加

① 開催日時 平成30年11月23日（火）13:30～16:30

② 開催場所 広島県安芸太田町立加計中学校

③ 参加人数 5名

④ 内 容 第3学年 社会科 公債授業「三種分立」、研究協議会

指導助言 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構
(CeRE)

特任助教 飯田 真也 氏



【授業の導入、見通しづくり】



【エキスパート活動】



【ジグソー活動】



【クロスワーク】

(5) 文部科学省人権教育適合推進指定（安芸太田町中学校区）公開研究会への参加

① 開催日時 平成31年1月24日（木）13：10～16：15

② 開催場所 広島県安芸太田町役場京館

③ 参加人数 3名

④ 内 容 第6学年 道徳科 公開授業「気に入らなかった写真」、
研究協議会、研究発表、批評
講演「人権教育と新しい学び」

指 師 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構
(CoRE)

教授 白水 始 氏

3 卒業評価

夏季研修会（研修会Ⅰ）には、各校一人以上の参加を求めた。指定校からは多くの参加もあり、37名の参加者があった。「協調学習の授業づくりで大事にしたいこと」の協議では、協調学習を生み出す知識構成型ジグソー法や子どもの学びの芽表をもとにした協議のあり方、授業研究の進め方について学んだ。その後、実際に「中学校国語」の授業づくりについて検討した。模擬授業だけでなく授業検討も体験することができて、授業研究についてよりイメージがもてる研修となった。参加者には、「協調学習 授業デザインハンドブック」を配布した。11月に開催された中国地区国語教育研究大会では、本研修会において参加者全員で検討した授業デザインをもとに、中学2年生の公開授業において、ジグソー法での授業が公開され授業性のあるものとなった。

2月の研修会Ⅱでは、人権教育の研究に取り組んでいる学校の職員研修を中心に実施した。「一人一人の学びを保障すること」を大切にする協調学習は人権教育につながるものである。道徳の模擬授業体験を行うことで、教科に関係なく、どの教科の教員にとっても、授業のイメージについてより理解が深まった。

広島県で協調学習に取り組んでいる学校の公開授業へも参加した。若い教員の参加もあった。協調学習を核にして、自らの考えを自分の言葉で発信している生徒の姿を実際に見ることで、育てるべき力や態度のイメージを明確にもつことや、授業研究の進め方等、授業改善に向けて大いに参考となったとの感想である。

「知識構成型ジグソー法を使って授業をやってみたい」「おもしろそう。」「子どもが主役の授業づくりに、やってみたい」等の意欲をもつ教員の後押しをするためにも、管理職の協調学習への理解が欠かせない。

指定校の公開授業へ一層参加しやすくする工夫を考えたり、管理職の理解を深めたりすることに取り組んでいきたい。また教員研修においては、児童生徒が受ける授業も模擬体験ではなく、例えば全国学力調査の分析等、教員自身の学びになり、授業改善につながるような研修をジグソー法ですることで、その良さを実感してもらうような研修を計画していきたい。

7 (要覧名) 協同学習研究指定校

1 事業目的

思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学び、言語活動の充実に資する「知識構成型ジグソー法」という授業の型を用いた協同学習について研修し、授業力向上、授業改善に取り組む小中学校を指定し、その成果を市内の学校に対し公開することにより、主体的・対話的で深い学びへの転換を図る。

2 事業実績 【30 年度研究指定校 浜田市立金城中学校、浜田市立旭南中学校】

(1) 研究授業と公開授業

① 浜田市立金城中学校

月 日	単 元 名	内 容
6 月 19 日	第 2 学年 国語 短い説明文「〇〇ー世界に誇る伝統食」を作ろう 授業者 永安 裕子 敬祐	課題：「〇〇ー世界に誇る伝統食」作者の伝えたいことを 50 字に要約しよう。 エキスパート A～C：全体を 3 パートに分け、文章を図式化し、作者の書き方の工夫に注目する ジグソー：図式化したものをもとに 50 字に要約する クロストーク：互いの要約文を比べて、共通点や相違点、作者の書き方の工夫について考える 振り返る：作者の伝えたいことや考え方をまとめる
10 月 9 日	第 2 学年 国語 科学的思考に挑戦！～「考えるための技術」を自分の考えに生かす～ 授業者 永安 裕子 敬祐	課題：幸福ってどういうことだろう エキスパート A：どういうときに私たちは幸福を感じるだろうか エキスパート B：どういうときに私たちは幸福でないと感じるだろうか エキスパート C：「幸福」と「うれしい」という気持ちを比較する ジグソー：「幸福ってどういうことだろう」ということについて、できるだけ誰もが納得できる図と歴史を導く クロストーク：各組の図と歴史を発表する 振り返る：課題について、自分の考えをい

10月31日	第2学年 数学 図形の調べ方 平行と合同 授業者 勝部 厚志 教諭	<p>課題：次の図で、$l//m$とします。mとnも平行になりますが、どうして平行になるのか、これまでの学びを利用して説明しよう</p> <p>エキスパートA：対頂角の性質 エキスパートB：平行線の性質 エキスパートC：平行線になる性質</p> <p>ジグソー：どうやったら説明できるか考える クロストーク：お互いの説明を比較する まとめ：対頂角や平行線の性質や、平行線になる条件を利用して説明できる（証明へ）</p>
--------	---	--

② 浜田県立旭中学校

日 日	題 元 名	内 容
6月15日	第2学年 社会（歴史分野） 天下泰平の世の中 江戸時代 授業者 清本 忍 教諭	<p>課題：なぜ、江戸幕府は260年間も続いたのか？</p> <p>エキスパートA：身分制度の確立 エキスパートB：諸藩の発展 エキスパートC：流通の発展</p> <p>ジグソー：課題解決に迫る。各エキスパートが持ち寄った情報を組み合わせ、2分間のプレゼンをつくる</p> <p>クロストーク：課題解決に向けた、最終的な判断をする。各ジグソー班のプレゼンを聞き合い、自分の考えと照らし合わせ、学習課題を解決する。</p>
10月11日	第2学年 社会（地理分野） 日本の諸地域「近畿地方」 授業者 清本 忍 教諭	<p>課題：近畿地方の伝統とくらしを守るために資金を投入しよう！（何に投入するか？）</p> <p>エキスパートA：京都・奈良の歴史的文化財 エキスパートB：伝統的工芸品と中小工場の技術力 エキスパートC：ラムサール条約に登録された絶景地</p> <p>ジグソー：各エキスパートからの説明を聞き優先して資金投入すべき事項を検討する。提議を明確にする。プレゼンを考える。</p> <p>クロストーク：各班の解を全体で交流する。評価の項目として、根拠となる資料、優先する理由、メリット・デメリット</p>

11月16日	第2学年 国語	課題：「登壇」この談話は誰の作品でしょうか。それはなぜか、説明しよう
	説詩	
	探検者 坂本 有義 敬詩	エキスパートA：李白、放浪の身で自然、酒を愛した
		エキスパートB：杜甫、不遇な人生。作風は現実的
		エキスパートC：白居易、放浪の身、敬詩の山中で悠々自適
		ジグソー 各簡筆を交差し、作者はだれか、理由を考える。
		クロストーク：李白を比較。心板等考える
		振り返り：本時の学びを自分の言葉でまとめる

(2) 東大CoREF 飯窪真也特任助教と指定校訪問

① 旭中学校 平成31年2月26日(火) 9:40～11:45

第2学年 社会科「北海道」 授業者 菅元忍教諭の授業見学

○「自然環境を活かした産業の課題解決」にどう資金を使う？、という課題で、「北海道の漁業」「北海道の農業・酪農」「北海道の観光産業」の3つのエキスパート活動をもとに、資金の投入割合を考えていく授業。

○生徒は、学校司書の作成したパスファインダーを活用し、課題解決に向けて真剣に学習に取り組んだ。協同学習のやり方にも慣れており、主体的に活動していた。また、自由度が高く、言いたい意見を積極的に伝えていた。飯窪先生からは「自由度が高いとリーダー（発言力や積極性の強さ等）となった生徒の力は向上するが、意見を言えない生徒が出てくることもある。制約が強いと、どの生徒も意見を言えるがリーダー性が育ちにくい。バランスが大切。」との助言があった。

② 金城中学校 平成31年2月26日(火) 13:50～15:40

第2学年 数学科「確立」 授業者 藤部孝志教諭の授業見学

○「スーパースター確立御門」をガチャで当てるために、現実的なアドバイスを考えよう」という課題で、「?回ガチャをするとき、1回は当たる確率」「確立を小数で表し、1回のガチャで当たらない確立」「掛け算で求める確立」の3つのエキスパート活動をもとに、アドバイス（当たる確率からどう考えるか）を考える授業。

○高2で学習する内容を音み難しい課題であったが、生徒の意欲を掻きたてた生活と結びつけた課題であり、生徒の関心が高い授業であった。飯窪先生からは、「エキスパートCの読解力が高い。課題自体に式（確立を求める）を考え「この式の意味を説明しよう」と、エキスパートA、B、Cを使わずにを得ない課題とする方法もある」との助言があった。

3 專業評価

○指定校の報告書から紹介する。

知識構成型ジグソー法を用いた授業を、ほぼ全教科で計画的に実施した。教科によっては、図書館やICTを活用することも融合させたり、校内研究授業以外でも、ジグソー法での授業を実施したりした。特定の教科だけでなく、様々な教科において、エキスパート活動、ジグソー活動、クロストークのやり方に順応し、自分のパートの説明や自分の意見等を積極的に発言し合う生徒の姿を多く見ることができた。アンケートでは、「自分の説明する力を高められた」「他の人に説明することで自分の理解が深められた」と感じている生徒が大半を占めた。

課題として、グループ編成の仕方やクロストークでの発表の仕方について、そして、話すことが苦手な生徒への支援等がある。

○指定校では、協調学習への理解が深まり、各教科の授業改善に向けた取組が活性化されている。また、公開授業に参加した教員が、本校で協調学習の授業実践を行う等、徐々に広がってきていると考える。生徒自身が、「ジグソー法」で学習する良さを実感していること、そして、学習に向かう意欲の向上から効果は高く評価できる。

○8月に京大 CoRE 飯窪真也先生を招いて、指定校の推進員、研究主任等を対象に研修を行い、校内研修の方法について指導助言をいただいた。2月の飯窪先生の指定校訪問では、研究協議において生徒の学びの事実をもとに協議が進んだ学校とそうでない学校があった。指定校における研究の進め方について引き継ぎ助言をして、生徒の学びの事実をもとに協議する授業研究のスタイルを定着させたい。

○指定校はいずれも小規模の中学校であり、各教科の教員がほぼ一人ずつという状況である。従前の授業研究においては、教科が違っていたら互いに意見が言いにくいことがあったが、協調学習を用いての授業研究は、学びを事前に想定して授業に臨み、生徒の学びの事実をもとに話し合うため、教科に関係なく教員が意見を言えることや、教科が違うからこそ気づきもあり、特に小規模の学校や、中学校での有用性を感じている。今後、知識構成型ジグソー法に限らず、生徒の学びの事実をもとに授業研究をする有用性を他校にも広げていきたい。

【協調学習の授業の様子】



【エキスパート活動】



【ジグソー活動】

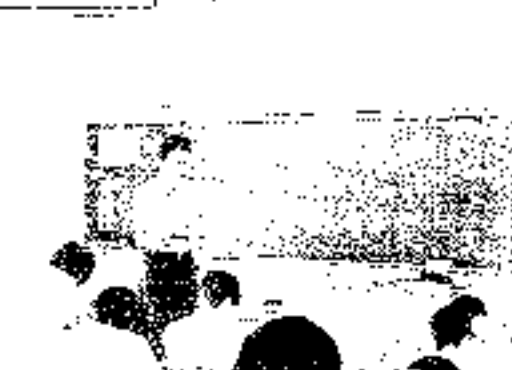


【クロストーク】

金城中学校：数学

【授業の見通しづくり】

【エキスパート活動】



【ジグソー活動】

【クロストーク】

旭市学校：社会

【授業の見通しづくり】

【エキスパート活動】



【ICT活用】

学校司書から図書活用指導



【複姓の図画資料活用】



【ジグソー活動、ICTやホワイトボード活用】



【クロストーク 自分の言葉で】



(事業名) 算数・数学研究指定校

1 事業目的

算数・数学の授業改善に関わる取組を継続的に実施して、指導方法等について研究する小中学校を2校程度指定し、その成果を市内の学校に対し公開することにより、算数・数学の学力向上につなげることができるようにする。

2 事業実績

(1) 指導講師 I P U・横浜太平洋大学 前田一誠 准教授

(2) 研究指定校【浜田市立雲雀丘小学校・浜田市立第二中学校】

(3) 事業内容

月 日	時刻・会場	参加者	内容
4月27日	15:00～16:30 雲雀丘小	前田一誠氏 雲雀丘小校長、教頭、研究主任 市教委：牛尾、前原	・今年度の研究推進の方向性（雲雀丘小）
6月13日	10:00～12:00 浜田二中 14:00～16:00 市教研 算数・数学部会	前田一誠氏 教頭、研究主任、数学科教員、 市教委：牛尾、前原 市算数・数学部員31名	・今年度の研究推進の方向性（第二中） ・授業づくり、指導案づくり創発
7月25日	8:00～10:00 雲雀丘小	前田一誠氏 雲雀丘小教員、市教委：牛尾	・今年度授業研究で実施の指導案の 創発づくり（雲雀丘小）
7月25日	13:30～15:30 浜田二中	前田一誠氏 数学科教員、研究主任 市教委：牛尾	・今年度授業研究で実施の指導案の 創発づくり、学習プロセス研究（第二中） 50分間授業の創成の協議 ー前半授業35分ー適用問題15分
10月1日	10:00～12:00 浜田二中 13:00～16:30 雲雀丘小	前田一誠氏 研究主任、数学科教員、 市教委：牛尾 雲雀丘小教員、市内小中学校教員、 浜田教育事務所：三島、 市教委：牛尾、前原 14名	・2月の取組状況、各校入試問題の図形領域 の該当学年等の分析、今後の実践方針や公開 授業等の協議（第二中） ・第3学年 公開授業、授業研究（雲雀丘小） 「思やすく整理しよう」
11月8日	13:30～16:30 浜田二中	前田一誠氏 研究主任、数学科教員、市内小中 学校教員、市教委：牛尾 浜田教育事務所：三島 10名	・第3学年 公開授業、授業研究（第二中） 「等しい面積の三角形の証明」

12月5日	10:00～12:00	前田一哉氏	・状況報告と今後の見直し（第2回）
	浜田二中	研究主任、数学科教員、 市教委：牛尾	
	13:00～16:00	雲雀丘小職員、市内小中学校教員、 市教委：牛尾、前原 13名	・55学年：公開授業、授業研究（雲雀丘小） 「比べ方を考えよう」
1月25日	13:30～16:40	前田一哉氏	・第1学年：公開授業、授業研究（第1回） 「基本の作図の利用」
	浜田二中	研究主任、数学科教員、市内小中 学校教員、市教委：牛尾 9名	
2月20日	13:20～15:35	前田一哉氏	・552学年：公開授業、授業研究（第2回） 「等積変形」
	浜田二中	研究主任、数学科教員、市内小中 学校教員、市教委：牛尾 7名	
3月			・平成31年度分点・教学研究指定校について

3 事業評価

○夏季休業中（7月26日）に雲雀丘小学校は全職員、浜田二中では数学担当参加で、今年度実施の授業公開を行う算数・数学の単元の指導案づくりについて、前田先生とともに意見交流をもった。雲雀丘小学校は全担任、浜田二中は数学担当者が研究授興を實施した。公開授業後は、授業を元にして専門的な立場から指導を受けたり、教科を隔えて活用できる授業改善に向けての示唆を得たりすることができて、教職員の授業力向上につながっている。

○雲雀丘小学校においては、学級の人数に適した指導の在り方や教科書及びデジタル教科書を活用するポイント、児童に見通しを持たせるために「予想」すること等の実践を日々の学習に取り入れるようになった。

○第二中学校においては、授業デザインを「35分間の授業＋5分間の活用問題（学習意欲問題）」として、学んだことをすぐに活用し、実質的な振り返りで「学習意欲」を高める実践を毎時間継続してきた。また、過去5年間の島根県入試問題から「図形領域」を洗い出し、教科書のどこの内容に関連しているか（○年教科書、○ページ等）を分析し、一覧表に整理した。これは、市内中学校にも配布し活用を求めた。

○指定校の算数・数学の学力も向上傾向にある。指定校の公開授業に参加した教員からは「授業を元にした研究協議にもちろん、前田先生からの算数に関する指導助言や最新の教育情報が大変いい刺激となる。」との感想が多数ある。

○本年度は、指定校による取組の最終年度となる。指定小学校の定員や公開授業への一時的参加数、指定校への見込み等により、坂田市の教職員の授業力向上に努める。

〔指定校：雲雀丘小学校〕



(事業名) 学校図書館活用教育研究指定校

1 卒業目的

学校図書館を活用した授業を展開することにより、児童生徒の情報活用能力の育成と思考力・判断力・表現力の向上を図るため、司書教諭が担任や学校司書等と協働して行う、図書館を活用した授業実践に関して研究する小中学校を2校指定し、その成果を市内の学校に対し公開することにより、学校図書館活用教育の普及、充実、発展に資する。

2 卒業実績 【30年度研究指定校 美川小学校、国府小学校】

(1) 美川小学校 公開授業

	月/日	単元名 等	内 容	外部の 参加者等
1 学 期	6/13 (水)	5年 社会科 单元名「ポプラディア ネット」で調べてみ よう～地区大名～ 5年 国語科 单元名「ポプラディア ネット」を使ってみ よう～地区大名～	株式会社ポプラ社図書館が活動区図書館サポートなし。 原てるみ氏による出前授業を参観した。 8:30～9:00に、5年生の社会科で戦国時代考入時の活 用、10:15～11:40に、6年生の国語科でポプラディア ネットの活用について授業を行った。 国語科で、ポプラディアネットを活用する際、目的 がはっきりしているため、読取が比較的スムーズに 進んでいた。今後からの取組や研究を促している が、目標設定、教材選び、授業の導入などの改善 があり、授業内容の山の学習の活用について研 究することができた。児童が、自分で考え、情報 を調べたり選択したりすることの楽しさを感じている ように思った。引き続き、国語科の必要度、活用 法を各級に広げていきたい。	9名 原寺内徳 成田信雄主 幹、他校の 教員・学校 司書の参加
2 学 期	5/26 (水)	2年 国語科 单元名「お気に入り の道具」について、1 年生にわかりやすく 発表しよう「しるし きはどんなもの」が 京(京)	「おもしろきはどんなもの」で学習したことを生かし、 自分のお気に入り道具について、1年生にわかり やすくプレゼンするためにまとめる学習。男の子の活 動の場面を十分に観察した授業だった。 教科の中で学習したことを生かすために、教科書 の形態にあわせて資料を、学校司書と協力して年 次について、前半でプレゼンのための資料を選 び、まとめることは難しいと感じた。読み取った ことをもとに、表現するまでを含めて読む力であ るが、読み取ったことをもとに、きちんとノ ートやプレゼンテーションの準備を記入、読取力の育成に に力加うとしており、随分と感心した。	3名 校内研究と して、全級 員と協働

1 学 期	6/25 (月)	6月 国語科 単元名「文を讀んで自分の考えを述べよう」 「イースター島にはなぜ鶏がいないのか」(東京海浜)	朝時に、「イースター島にはなぜ鶏がいないのか」の授業をとり、30分では、クイズゲームを思いつくとして、授業に対する自分の考えをまとめら学習であった。書く作業が多くあったが、男の子は意欲的にしていた。書いている、書く音を取り入れ、恐くことを隠らない児童に思っていると感じた。何けたい方を1年生から中学迄まで、品立てて作成しており、学校全体で取組んでいる様子が見えた。この単元で付けたい力を大切に、身に付けたい力をどう生かしていくことがよいか、児童の気持ちも踏まえ考え成長していくことが大切であると考え、クイズゲームを使って、主役について話すよう、主張について指針を説明するための材料について話し合うことが話しにつながったであろうと感じた。	13名 中區地区国語教育研究大会の事前授業校内研究として、全職員と協議
	計	公開授業 2回		21名

3 事業評価

(1) 要 要

研究指定校は、国府小学校は継続3年に、美川小学校が継続2年目の指定で、今年度は2校で実践が進められた。指定校は、年に2回以上計画に従って授業公開と校内研修等を行うこととしている。過去5年間の外部からの授業参加者数は下表のとおりである。

【研究指定校公開授業 外部参加者数】

30年度の美川小学校と国府小学校は、各2回公開授業を行った。また、美川小学校では、このほかに、ポプラデコネットの出前授業を公開した。参加者数について、5年間の実績と比べると、本年度は減少

指定校	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
原井小学校	22	36	20		
佐原小学校		34	9		
美川小学校				27	27
国府小学校			44	24	21
三階小学校	32	22			
弥生中学校		27	39		
合 計	54	119	112	51	48

しているが、公開授業が低学年に偏ったこと、指定校の公開＝観測期が近かったことが原因と考えられる。

毎年2月1日時点で行っている市内小・中学校における学校図書館の調査(県が行っている調査は、3月末締め切りで集計が次年度になっており、次年度の計画に活かすために例年実施している)では、県内市全体の学校図書館を活用した1学級あたりの教科等の授業時数(年間)は、小学校が30.0時数、中学校が16.6時数である。昨年度(平成30年2月(三))実績は、小学校が28.4時数、

中学校が16.0 時数であり、微増している。

読書活動に関連して、第 64 回（平成 30 年度）青少年読書感想文コンクール審査会では、下記の学校の児童が冠賞を受賞した。

・島根県学校図書館協議会長賞 原井小 3 年 佐藤楓夏

「すごいね！みんなの通学路<世界に生きる子どもたち>」

・優良賞「あをの、掲載」石見小 6 年 新田果己 「私たちはどう生きるか」

また、平成 30 年度島根県読書ノートコンクールにおいて、下記の児童・生徒が最優秀賞を受賞した。

・美川小 1 年 久谷 悠馬

・波佐小 1 年 竹田 尚音

・長浜小 2 年 藤井 咲

・長浜小 2 年 横坂 日英

・原井小 3 年 横山郁美子

・三階小 3 年 上田 彩梨

・原井小 3 年 宮本 南真

・月 中 2 年 宮澤明日香

研究指定校を中心とした図書館活用教育の取組もさることながら、市内各学校の学校図書館を活用した読書指導の深化と広がり成果の一つとしてとらえた。

(2) 公開授業について

2 校の研究指定校による公開授業では、教科で身につけたい力を明確にし、児童がゴールを意識して図書資料でまとめていた。個々の児童が積極的に表現しながら、内容を深めている様子が多くうかがえた。以下、各学校の実績報告書から一部抜粋、要約する。

① 美川小学校

・学校図書と連携して授業を行ったことで、資料の味を広げたり、厳選したりすることができた。また、その資料から、単元のねらいに沿った情報収集や要約をすることができた。

・比較、関連づけ、取捨選択といった活動の際、ワークシートや思考ツールを使った。児童の実態に合うように工夫したことで、個人での思考や、ペア・グループでの話し合いが深まった。

・説明する際、デモンストレーションを行うことで、児童が共通しをもった活動にスムーズに入ることができた。

・単元を貫く言語活動として発表会を設定することで、継続した相手意識をもって学習に取り組むことができた。

・学校図書館を活用する学習は、意欲的に取り組む児童が増えてきているので、今後も多くの教科で活用していきたい。

・年間指導計画を常に更新し、児童の意欲がより高まるような授業を考えていきたい。



美川小 2 年 1 組 「お宝に入りの五月」について「単元に分かりやすく伝えよう」という思いは、どんなにの



波佐小 3 年 1 組 「のりものかるた」より（ろうしというかな）

② 国府小学校

- ・学校司書と担任が選読を密に行い、図書資料の整備を計画的に行うことができた。
- ・学習のねらいを明確にした授業計画を立て、授業実践を行ったことで、児童の意欲につながった。
- ・国語科で身につけたい力を見据えた教材研究を行い、単元づくりの三要素（つけたい力、教材の特徴、言語活動）を確定したことで、適切な図書資料の選定へとつながった。
- ・付箋の活用や思考ツールを授業に取り入れることによって、児童の情報収集や情報活用スキルが上がった。
- ・国語科だけでなく他教科での積極的な活用がなされるように年間指導計画の見直しをしたい。
- ・学びの土台づくりとして積極的に発達段階に応じた読書指導を行い、読書が日常化していく取組を考えたい。



国府小2年 国語 節物博士になって「○○○のひみつポケット」を作って1年生に紹介しよう(たんぽぽ)



国府小5年 国語 文章を読んで自分の考えをしよう(イ・スクー島にはなぜ森林がないのか)

(3) 今後の課題について

新学習指導要領では、「教科等横断的な視点」で教育課程の編成を図ることや、国語科を要としつつ言語活動や読書活動を充実することが求められている。今後の課題について、指定校の実績をふまえてまとめると下記のとおりである。

- ・児童の実態に合わせて活動内容を選定し、集めた情報を自分の言葉でまとめ、自分の言葉で伝えることができるように授業研究を続けたい。
- ・国語科だけでなく他教科での活用、教科等横断的な活用がなされるように年間指導計画の見直しが必要である。特に、中学校では指導内容が多いこと、教科担任制であることを踏まえて、図書館活用しやすい環境を作っていくことが求められる。
- ・ねらいに応じた指導に不可欠な図書資料を今後も計画的に整備、充実を図っていく必要がある。
- ・学びの土台づくりとして積極的に発達段階に応じた読書指導を行い、読書が日常化していく取組を考えていく必要がある。

＜研修名＞図書活用教育の研修

事業目的

- ・学校図書館活用教育を推進するために学校区を境の活用方法について、司書教諭・学校司書等の実践的指導力を高める。
- ・県内の学校図書館活用教育の研修や、浜田市内で検証の成果を上げている小中学校の実践事例を聞くことで、司書教諭・学校司書の学校図書館を活用した言語活動の授業支援や、資料準備、インフォレンス能力の充実に資する。

2 事業実績

(1) 研修会の概要

開催日	研修会名	主催	研修内容	ページ
4月20日	県学校司書研修 (第11回)	島根県立 図書館	第1回: 図書館の基人(模範)及び児童・生徒との接し方	1
4月26日	第1回学校司書 幹部総会	浜田市 教育委員会	第2回: 「学習指導要領と学校図書館」 講師: 浜田市教育委員会 情報主任 大坂育二 第3回: 「外国語活動における絵本の活用」(金沢直樹) 講師: 浜田市教育委員会 指導主事 藤原幹子 学校司書による取り組み発表、情報交換会 事例発表: 安芸小中学校司書	27
5月23日	県学校司書研修 (第2回)	島根県立 図書館	(1)第4回: 田へるって獲いて〜図書館の実践ある〜 講師: 府中市図書館館長 田中いづみ氏 安芸県市立中央図書館司書 高岡文氏 (2)ブックスタンプ	24
6月1日	市図書館を使った 読める学習研 修会	浜田市 教育委員会	第1回: 図書館を使った読める学習で身につく力とは? 講師: 公益財団法人図書館振興財団アドバイザー 重光晃子氏	36
6月13日	市読書国際部会 学習会	市読書 国際部会 浜田市 教育委員会	読書演習: 「お茶の葉で読める人になる」 講師: 株式会社ポプラ社 国語部サポート室 上原てるみ氏	42
6月14日	ポプラディアネ ット出版発表	浜田市 教育委員会	読書演習: 「お茶の葉で読める人になる」 講師: 株式会社ポプラ社 国語部サポート室 上原てるみ氏	4
7月26日	市読める学習コン クール発表会 「国語部で たい にみよう」	浜田市 教育委員会	第2回: 小学生全学年、親子 内容: 読書・ワークショップ(中央図書館、県図書館) 講師: 浜田山立長川小学校 教頭 坂田幸雄氏 浜田市立有見小学校 学務主任 前寺海島氏 市立中学校司書 公共図書館スタッフ	29
8月22日	市学校図書館活 活用実践研修会	浜田市 教育委員会	第2回(習): 自選した読み方を育てる読書改善 —「クラブ読書」のすそめ— 講師: 広島大学大学院教育学研究科教授 山元隆雄氏	43
8月23日	県学校司書 研修創設会	島根県立 図書館	第11回: 島根県の学校図書館活用教育の現状 (1)第11回: 島根県立図書館 指導主任 金沢直樹氏 (2)第12回: 学校図書館を活用して英語の学習を促める! 講師: 英語学習支援員 山本 恵子氏	8

9月28日	第2回学校司書 等連絡会	浜田市 教育委員会	講義：本の力・子どもの能力 ～おもしろい本の発見を喜び子どもの成長を応援しよう～ 講師：和光大学非常勤講師 稲野 三千代氏	18
10月15日	浜田県学校司書 研修（第2回）	島根県立 図書館	講義「学校図書館と著作権」 講師：全国学校図書館協議会 岡野 緑田経行氏	20
11月18日	第3回学校司書等連 絡会及び国語館を使 った読べる学習コン クール開催委員会	浜田市 教育委員会	読べる学習コンクール作品予備審査及び情報交換会	24
11月20日	国語館を使った読べ る学習コンクール最 終審査会	浜田市 教育委員会	読べる学習コンクール作品最終審査	25
1月17日	国学校司書・司書 教諭合同研修会	島根県 図書館協会	講義：「飯橋に利用でき、生徒の方が書く学校図書館 へ」講師：浜田市立第一中学校 司書 飯橋 逸原の紀 氏 邑原町立吉見中学 校司書 大関 裕子氏	26
2月5日	第4回学校司書 等連絡会	浜田市 教育委員会	ワークショップ：ブックトークにチャレンジ！ ～シナリオを作成して、1学期に1話してみようか～ 実演発表、情報交換	24

(2) 浜田市教育委員会主催の主な研修会の概要

① 読べる学習についての研修会 6月1日（金）13:30～16:00

講義：図書館を使った読べる学習で身につく力とは？

※講義に合わせて、テーマ決めのための思考ツール作成の演習

講師：公益財団法人 図書館振興財団「図書館を使った読べる学習コンクール」

アドバイザー 稲野 悦子 氏



読べる学習についての講義



フローチャートを使った演習

② ポプラディアネット研修及び出前授業

6月13日 14:00～15:30 市教科国語部会研修

6月14日 10:00～12:20 出前授業（原井小学校）

講師：株式会社ポプラ社 図書館サポート室 上原 てるみ 氏

※浜田市教育研究会国語部会と共催で、国語部員向けに百科事典の活用法

を研修した。また、原井小学校と市研究指定校の美川小学校で、山前校長を研修した。



市立別荘台南の研修



西宮市史の使い方を市立原井(原井小)

③ 「浜田市図書館を使った調べる学習コンクール」市横断展

7月26日～27日 9:30～12:00 中央図書館

14:00～16:30 旭図書館

浜田市立中央図書館と六所 参加者：小学生児童と保護者 27名

※今年度は中央図書館と旭図書館の2館で実施

講師：横田きゆり 教頭(美川小学校) 勝手博貴 主幹教諭(石見小学校)

支援者：研究指定校学校司書 他7名 公共図書館司書 3名



中央図書館での読書活動



旭図書館での読書活動

④ 浜田市立図書館活用教育研修会 8月23日(木) 13:00～16:00

講義・実習：「自立した読み手育てる読書教育 ―『ラボ読み』のすすめ―」

講師：広島大学大学院教育学研究科 教授 山元隆幸 氏



育やした読み手を育てる態度



「コラボ読み」の演習

4 事業評価

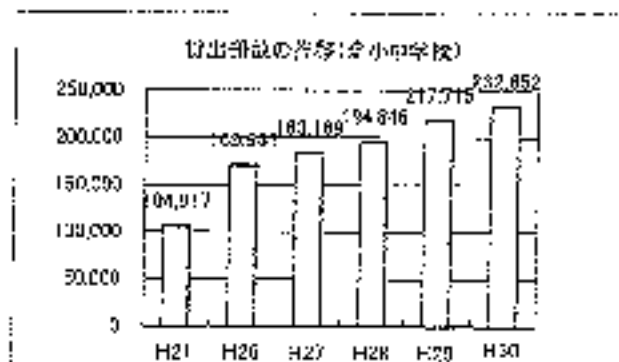
(1) 読書センター機能の充実と課題

右のグラフは、毎年2月1日時点で行っている市内の小・中学校における学校図書館の貸出冊数の推移である（所が行っている調査は、3月末締め切りで集計が次年度になっており、次年度の計画に活かすために例年実施し

ている）。全体の貸出冊数は着実に増加している。

右の表1、2は、同調査による小・中学校別の貸出冊数の変化である。

年間一人当たりの貸出冊数は小学校 82 冊、中学校 17



〈表1 小学校 貸出冊数の推移〉						
	H21	H26	H27	H28	H29	H30
貸出冊数	94,237	149,281	162,484	174,105	193,671	210,040
一人当たり貸出冊数	32	54	60	66	75	82

〈表2 中学校 貸出冊数の推移〉						
	H21	H26	H27	H28	H29	H30
貸出冊数	10,686	20,450	20,685	23,741	24,644	22,912
一人当たり貸出冊数	7	15	15	15	18	17

※国市学校図書館利用状況調査公表時点より

浜岡市の第2次子ども読書活動推進計画（平成28年度～平成33年度）における、学校図書館の一人当たりの年間貸出冊数の数値目標は、小学生 71 冊以上、中学生 18 冊以上になることを目標にしている。小学校では、昨年度から貸出目標を達成している。中学校は、昨年度は達成しているが、今年度はまだ達成していない。しかし、昨年度3月末時点では 20 冊と増えているので、今年度も達成できると考える。

同推進計画の「平日の読書時間 30 分以上の児童生徒の割合」の項目について

で、平成 30 年度までの目標値は、小学校 37.7%、中学校 30.6%(平成 27 年度全国学力・学習状況調査の全国平均値をもとにしている)となっており、中学校では達成し、小学校もあと一歩の状態である。

毎年 4 月中旬に実施されている、全国学力・学習状況調査の意識調査の質問項目「学校の授業時間以外

に、巻読(月曜日から金曜日) 〔表 3 平日の読書時間 30 分以上の児童生徒の割合の推移〕

日)、1 日当たりどれくらい

の時間、読書をし

ますか。』についての旨

定的な回答(平日の読

書時間 30 分以上の児童

生徒の割合の推移)は表

3 のとおりである。

30 年度の全国平均は、

小学校 41.1%、中学校

30.9%であり、浜口市

の小学校では、まだ全国との差が大きいこと

が課題である。

また、同調査で、平日の読書を「全くしない」児童生徒の割合の推移は表 4

の通りである。ちなみに、30 年度の全国平均は、小学校 18.7%、中学校 32.9%

である。こうした不読傾向にある児童・生徒の割合はあまり改善されていない

ため、今後とも学校司事と担任等が連携して手立てを工夫するなど個別的な対

応が必要である。

(3) 学習・情報センター機能の充実

新学習指導要領では、「主体的・対話的

で深い学び」を通して、課題を解決するた

めに必要な学力を育成することが求めら

れている。学校図書館には、そうした新しい

学力を育む授業を支える機能がある。

右のグラフは、学校図書館を活用した教

育回数の推移である。小学校では研修の活

動や、研究指定校の授業公開等により、学

校図書館を活用した授業実践が著実に広

がりつつある。

一方、中学校は低調な状態である。総合

的な学習では、国に姿勢が積極的に活用

されているが、さらに、これらに対応した各

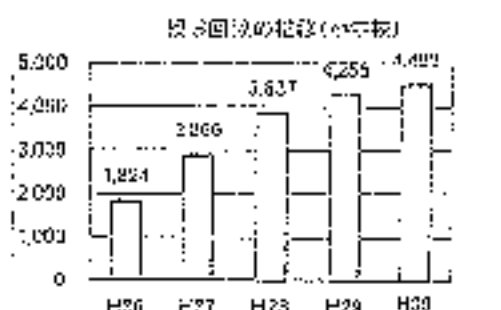
教科、領域における学習での結果が望まれる。

	H23	H26	H28	H27	H28	H29	H30
小学校 6 年生	29.3%	26.6%	38.4%	30.5%	30.9%	29.1%	35.8%
中学校 3 年生	22.1%	26.4%	27.5%	29.3%	33.5%	28.5%	31.7%

〔表 4 平日の読書時間「全くしない」児童生徒の割合の推移〕

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
小学校 6 年生	22.8%	16.0%	22.6%	23.0%	24.7%	20.8%
中学校 3 年生	35.1%	29.7%	26.7%	33.3%	27.1%	21.3%

全国学力・学習状況調査(浜市・生徒質問紙)より



浜市が学校図書館利用回数調査(2 月時点)より

1 事業目的

- (1) 図書館利用の促進と調べる学習の普及を促進する。
- (2) 学校図書館・公共図書館の資料やインターネットなどの様々な情報の活用や体験活動を行う「調べる学習」を通じて、子どもたちが自ら考え、判断し、表現する力を育み、「学ぶ楽しさ」や「知る喜び」を実感する機会を創出する。また、その取組の中で、各学校図書館、公共図書館での調べ方を体得し、有効に活用しながら課題を解決する力を養う。
- (3) 応募された作品を評価することで、情報活用力、リファレンス力等、図書館活用の指導力を高める。

2 事業実績

(1) 開催日時・場所

- ・ 5月8日(火) 校長会及び関係諸団体への広報
- ・ 6月1日(金) 調べる学習研修会：浜田公民館研修室(13:30～15:00)
「図書館を使った調べる学習で「身につく方とは？」
(講師 重野悦子氏 区立図書館振興財団アドバイザー)
- ・ 7月26日(木) 調べる学習応援講座：中央図書館(9:30～12:00)
7月27日(金) (講師 植田さゆり美川小教頭 勝子博美石見小主幹教諭)
(支援者 中央図書館司書 学校司書)
小学校児童・保護者 20名参加(延べ40名)
- ・ 7月26日(木) 調べる学習応援講座：順興書館(14:00～16:30)
7月27日(金) (講師 植田さゆり美川小教頭)
(支援者 中央図書館司書 学校司書)
小学校児童・保護者 7名参加(延べ14名)
- ・ 8月23日(木) 浜田市学校図書館活用教育研修会：中央図書館(13:00～16:00)
「自立した読み手を育てる読書教育 ～「コラボ読み」のすすめ～」
(講師 山元隆春 広島大学大学院教授)
- ・ 9月4日(火) 校内審査依頼 作品応募開始(作品受付：中央図書館)
- ・ 11月6日(火) 作品応募 締め切り
- ・ 11月13日(火) 予備審査会：中央図書館(9:30～15:30)
- ・ 11月20日(火) 第2次審査会：浜田公民館(13:30～17:00)
全県推薦作品一覧(16点)を図書館振興財団に発行
- ・ 11月22日(木) 全国推薦作品(16点)及び報告書の発送
- ・ 12月20日(木) 表彰式：中央図書館(15:30～16:30)
- ・ 1月10日(木) 全国審査会結果発表(図書館振興財団 内)

(2) 応募作品総数 ※ () 内は平成 29 年度実績

		一般部門	読書部門	国語科	別添他数(校内)	応募人数
小学校	低学年	32(22)	15(18)	47(40)	290(360)	288(423)
	中学年	37(44)	4(10)	41(58)	217(304)	216(349)
	高学年	38(37)	14(16)	52(48)	315(437)	320(438)
中学校		24(26)	18(15)	42(41)	369(542)	367(542)
合計		131(129)	51(64)	182(185)	1191(1643)	1183(1752)

(3) 全国コンクール推薦作品 審査結果

部門	学校名・学年	氏名	作品タイトル	全国結果
低学年の部	原井小 2 年	藤内 稟樹	さてつってなんだろう	佳作
	長川小 2 年	出江 蒼弥	ぼくの 虫ずかん	佳作
	三階小 3 年	上野 ふみ	うめのくに	佳作
	延小 1 年	新境 直央	かぶとむしのいろいろななはてな？	佳作
中学年の部	原井小 3 年	山田 雄陽	うら山に来たこの動物はなに？	佳作
	原井小 4 年	保原 雪長	ラムネのびんには なぜビー玉が入っているのか	佳作
	三階小 3 年	上田 彩葉	いつもありがとう 手あらいの米が そっけん	奨励賞
	三階小 4 年	菅原 真菜	私の身近な服の歴史	佳作
高学年の部	原井小 5 年	宮本 聖実	超が日本をおいしくする！	佳作
	原井小 6 年	水野 将樹	滅シリーズ第 4 弾 敗北できるか？松山城	佳作
	三階小 6 年	柴田 颯仁	みんな知ってる？ 知ってるようで知らないよ！ ニトリの罪大罰金	佳作
	今堀小 6 年	佐々原千愛	実はすごかった！昔ながらの日本	優良賞
中学年の部	徳田小 2 年	竹岡 真菜	世界の子どもたち ～他国の子どもたちの環境～	佳作
	長川小 3 年	止良 俊樹	金魚問答って何だろう？	佳作
	三階中 2 年	寺戸 心陽	変形着ってなんだろう？	佳作
	三階中 3 年	小松 純子	方言	佳作

地域コンクール推薦作品は 187 点（前回 119 点）にのりて、今年度の応募作品は 107,708 点（前回 91,008 点）にのりて、県内での推薦作品からは、

昨年度に引き続き優良賞1点、奨励賞1点が選出された。ちなみに、今年度の全国コンクールの入賞率は、優良賞が0.14%、奨励賞は0.26%、佳作は1.29%である。

3 卒業評価

(1) 改善点から

昨年度から、作品応募に当たって一般部門と授業部門を分けて募集している。応募数を両部門合わせて各学級2点程度としているため、一般部門への応募が充実し、授業部門への応募が減っている。そのため、全体の応募点数が減っているが、内容の充実に伴うものと考ええる。

レポート形式でも「授業で導入したから授業部門に出す」という学校と、「授業では導入だけだから、一般部門に出す」という学校があり、応募に関してとまどう様子が見られた。レポート形式の作品は全て一般部門とし、できるかぎり全国コンクールにつながる機にしていきたい。

また、来年度は全国コンクール募集の締切りが早くなるという運絡があったので、浜田市としても募集締切りを早める必要がある。

フラフーチヤート等思考ツールを利用したテーマ設定が定着してきたので、新たな思考ツールを紹介することでまとめ方・表現の部分も支援していくようにしていきたい。

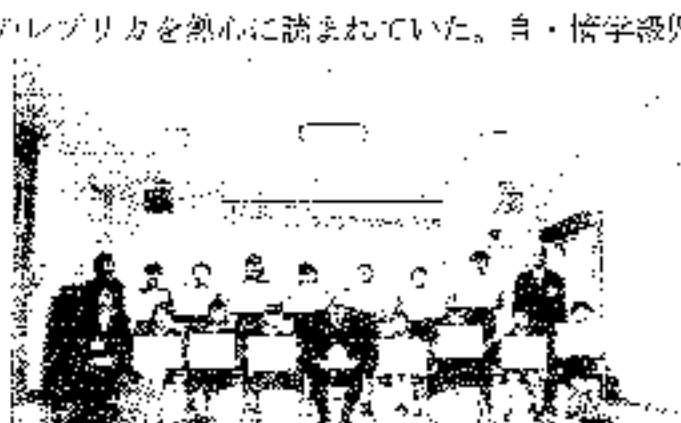
また、昨年度までは、中央図書館のみで応援講座を開催していたが、旭自治区の学校司書からの依頼・支援もあり、旭図書館でも開催した。児童が充実した取組を進めていくために、旭自治区でも開催していきたい。

(2) 表彰式について

表彰式対象児童生徒は7校16名であり、表彰式参加者は、児童生徒14名、引率者・保護者は20名であった。

参加された方は、受賞作品のレプリカを熱心に読まれていた。自・他学級児童が1名おり、保護者・教員と一緒に、表彰式、記念撮影の事前練習を行った。当該児童が、最後まで楽しそうに参加しておりうれしく感じた。

今年度から、審査委員長を教育長から中央図書館長に変更した。市教育図書館部長が交わる際、批評を館長に変更したいと考える。



（事業名）中学校英語検定料補助

1 事業目的

- 3級に合格した中学生の保護者に対し、申会費検定料の金額を補助することで、生徒が自身の英語力確認の機会とするとともに、英語をはじめとする学習意欲の向上を図る。

2 事業実績

(1) 対 象

- 市内に住所を有し、又は浜田市立中学校に在籍する中学生のうち、英語検定3級に合格した者の保護者とする。

(2) 事業概要

① 保護者への周知

3月末から4月はじめにかけて、第1回英語検定申込時期に合わせて、全ての中学生及び保護者にチラシを配付した。また12月はじめに第3回英語検定申込時期に合わせて、チラシ配付に加え、英検受験の有用性等について校長名で作成した英文を示し、各校において配付するように依頼した。

② 英語担当教員への周知

浜田市校長会、浜田市教育研究会英語部会等で事業の内容と手続き方法、英検給会場実施の依頼等をした。

3 事業評価

- 浜田市のHPで広報したことや、市内全中学区の保護者全てにチラシを各校を通じて配付したことで、本事業について生徒や保護者にある程度周知され、3級取得者の割合は平成29年度の15.1%から、今年度は16.0%に伸び、事業の成果と言える。
- 一方受験者数を増やし、生徒たちの学習意欲向上や家庭学習時間の確保をしていくためには、3級合格者にのみ補助するのではなく、4級・5級を含む全受験者への補助にしていく必要性を感じている。学校現場の教員からも、同様の声が多岐上がっており、補助拡大が必要である。なお、全受験者への補助にした場合に行政担当者の事務労力も急減される見込みである。
- 保護者や学校の声からも、英検を受験する生徒は合格するために主体的に学習する姿が見られたとのことである。補助拡大で、保護者が生徒たちの学習意欲や学力の向上に役立てることが期待される。

① 総括（評価の一視点として）

◇「学力向上総合対策事業」の大きなねらいは、「教員の授業力向上」である。教員が、指導力や力量を向上させ、日々の授業や児童生徒との学級づくりに生き生きと取り組んでいくこと、そして、日々の授業改善が進むことで、児童生徒により良い教育を行うことができると思う。

そうすることで、児童生徒の「学びに向かう力」が向上し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等を育てることになる。その結果として、学力・学習状況調査等の結果にも現れてくることを期待する。

つまり、日々の「授業改善」を目指すことが大切なのである。

「授業改善」が進んでいるかどうかを評価する視点として、学力・学習状況調査の質問紙による児童生徒の意識調査の項目で、関係関係の大きい項目の変容を見ることができた。これは、児童生徒の「学びに向かう力」とも捉えることができる。

◇次の6項目である。

○授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。

○学級やグループの中で、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。

○自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。

○授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。

○学級の友達（生徒）との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。

○学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

○授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

→2014（平成26年）年度、からの変容の状況とその考察、そして、今考えられる取組例や対応をあげる。

平成30年度学校が組織的に進める授業改善の充実に向けて【その3 取組例編】 2019.3 浜田市教育委員会学力向上推進室

本市の各学校では、基本的には、下記のプロセスを機能させた学習が展開されており、これは、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながる基盤的なところだと捉えられます。

①学習の見通しをもつ ②自分の考えをもつ ③ペア・グループ・学級で話し合う ④学習内容や学習方法を振り返る

全国学力調査 児童生徒質問紙調査の関係項目

項 目		年度	2014(26)	2015(27)	2016(28)	2017(29)	2018(30)	2019(31)	2020
			当てはまる	当てはまる	当てはまる	当てはまる	当てはまる	当てはまる	当てはまる
①学習の見通しをもつ	授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	小	33.2	49.4	59.4	74.3	87		
		全国	50.9	57.5	56.9	58.6			
		中	24.2	34.1	45.8	50.5	54.9		
		全国	32.9	41.9	47.6	53.1			
	学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	小	総合18.8	29.3	35.2	32.4	38.0		
		全国	23.8	32.4	29.4	29.5			
		中	総合15.1	22.8	20.3	21.7	29.5		
		全国	16.1	22.1	22.3	23.7			
②自分の考えをもつ	自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	小	41.2	55.1	50.6	58.1	59.9		
		全国	49.7	56.9	53.2	52.9			
		中	35.5	43.3	33.9	42.7	49.2		
		全国	36.9	46.2	43.5	42.5			
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	小			30.2	30.7	25.6		
		全国			30.7	30.5	29.1		
		中			18.3	25.6	27.1		
		全国			27.4	26.8	26.3		
③ペア・グループ・学級で話し合う	学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	小	44.4	42.4	47.4	53.1	49.5		
		全国	47.3	46.7	45.2	46.1			
		中	33.4	35.5	25.9	35.1	37.1		
		全国	31.3	34.2	34.9	38.9			
	児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	小	20.6	21.2	25.3	26.2	32		
		全国	22.7	25.2	26.4	26.9	34.7		
		中	16.7	16.8	16.5	17.1	27.5		
		全国	16.9	18.4	20.2	19.7	32.4		
④学習内容や学習方法を振り返る	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	小	26.3	33	44.9	39.4	38.1		
		全国	34.5	38.9	39.9	40.3			
		中	11.1	13.8	16.5	20.2	23.3		
		全国	15.6	19.4	23.3	25.3			

平成30年度まで 学校が組織的に進める授業改善の充実に向けて【取組例編】

2019.3 浜田市教育委員会学力向上推進室

本市の各学校では、基本的には、下記のプロセスを機能させた学習が展開されており、これは、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながる基盤的なところだと捉えられます。

①学習の見通しをもつ ②自分の考えをもつ ③ペア・グループ・学級で話し合う ④学習内容や学習方法を振り返る

項 目		年度	2014(26)	2015(27)	2016(28)	2017(29)	2018(30)
①学習の見通しをもつ	めあて・ねらいが示されていた	小	33.2	48.4	59.4	74.3	67
		全国	50.9	57.5	56.9	58.6	
		中	24.2	34.1	45.8	50.5	54.9
		全国	32.9	41.9	47.6	53.1	



○小学校:「当てはまる」と回答した割合は、2014年から4年間で31P増加しています。

○全国を16P上回っており、児童に何を学ばせるか(本時のめあて等)を理解させ取り組ませる工夫が進んでいることがうかがえます。

○中学校:「当てはまる」とした回答は、2014年から4年間で30P増加。教師の意識も向上していると捉えられます。

○現在の実践を、さらに意識して継続していくこと。明確で、具体的なめあてを設定していきましょう。

【まとも】と【めあて】の整合性…「めあて」と「まとも」でなく、【まとも】と【めあて】。終末から、授業をデザインする＝①まよめの確実な板書→②学習目標(めあて)の設定→③学習活動の設定の順番で授業構想を考える。

◇【まとも】＝学習指導要領の学習内容を具体的に分かりやすく模記したもの＝【教師がその時間に確実に子どもに理解させたいこと】

◇【めあて】＝子ども達が【まとも】に向かうスタートの課題。＝【教師が本時に子ども達に解決させたい課題を明確にしたもの】

◇【まとも】と【めあて】の具体例…社会8年:【まとも】よい国づくりをめざして、大陸から学ぼうとしたから。→【めあて】なぜ、聖武天皇は大陸から学ぼうとしたのだろうか? 理科5年:【まとも】ヒトは母体内でへその緒と胎盤を通して養分を取り入れたり、不要な物を送り出したりしている。→【めあて】ヒトは母体内でどのようにして養分を取り、不要な物を出しているのだろうか? 中学社会【まとも】江戸幕府が260年も続いたのは、大名設置、武家諸法度、鎖国制度等の政策が絡み合っているからである。→【めあて】(学習課題)なぜ、江戸幕府は260年間も続いたのか?

①学習の見通しをもつ ②自分の考えをもつ ③ペア・グループ・学級で話し合う ④学習内容や学習方法を振り返る

	項 目	年度	2014(26)	2015(27)	2016(28)	2017(29)	2018(30)
①学習の見通しをもつ2	自分たちで課題を立てて、情報を集め、話し合い整理して、発表する学習活動	小	18.8	29.3	35.2	32.4	38.8
		全国	23.8	32.4	29.4	29.5	
		中	15.1	22.8	20.3	21.7	29.5
		全国	16.1	22.1	22.3	23.7	

①学習の見通しをもつ2



◎小学校:「当てはまる」の割合は、2014年から4年間で約20P増加。

◎全国も上回っており、主体的に問題解決に取り組ませるための指導の充実が図られていることがうかがえます。

◎中学校:「当てはまる」の割合は、2014年から4年間で約14P増加。

○「生徒の問題意識を高めながら学習課題(めあて等)を設定」する、解決に向けて複数の情報から取捨選択していく等の情報活用能力を育てる工夫も求められます。

「学習の見通しをもつ」段階における取組例

◇〈生徒目線で考える学習課題の設定〉の工夫…どのような表現で学習課題を提示すれば生徒にとって必要感のあるものになるかイメージする。

・学習課題から授業のゴールを意識させる。・授業のゴールに行き着くための見通しをもたせる。

【学習課題の例】△「みんなでいろいろな歳出について考えよう」→○「もしも市長だったら歳出をどのように改善するか?」(歳出について考えたという生徒の意欲を引き出すために、具体的な場面を想定させる)

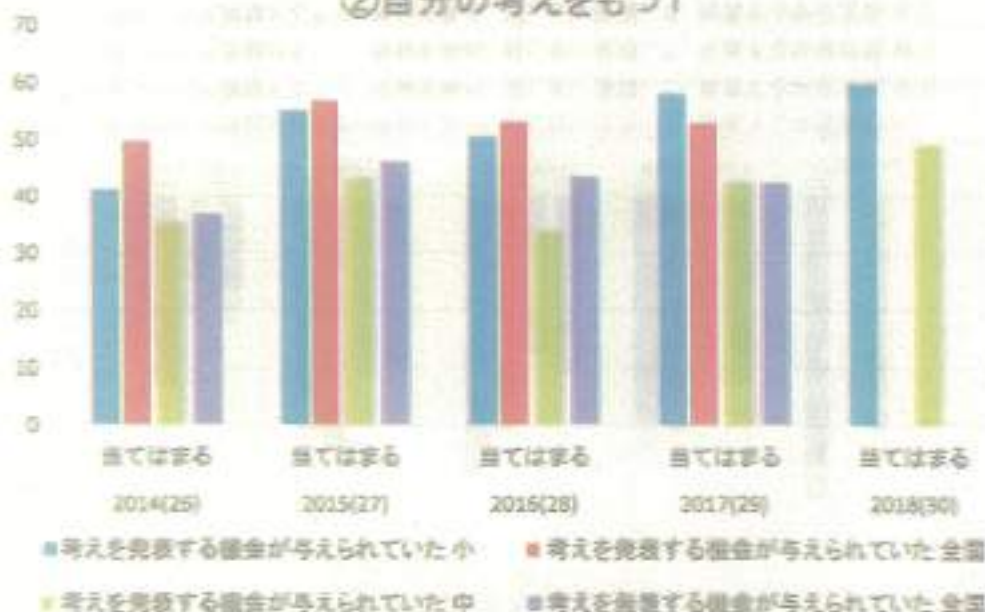
◇〈学習の流れが分かる板書〉の工夫…参考になる板書写真に研究主任等がコメントを入れて紹介することで、板書のよさや工夫点を共有し、授業改善に生かす。空き時間を利用して、互いの授業を日常的に見合う。

◇情報活用能力の育成…複数の図書資料や複数のデータ・グラフ、複数の情報から解決に必要な情報を選択し、話し合いを通して、情報や学び等を再構築していく学習の導入。

①学習の見通しをもつ ②自分の考えをもつ ③ペア・グループ・学級で話し合う ④学習内容や学習方法を振り返る

	項 目	年度	2014(26)	2015(27)	2016(28)	2017(29)	2018(30)
			当てはまる	当てはまる	当てはまる	当てはまる	当てはまる
②自分の考えをもつ	考えを発表する機会が与えられていた	小	41.2	55.1	50.6	58.1	59.9
		全国	49.7	56.9	53.2	52.9	
		中	35.5	43.3	33.9	42.7	49.2
		全国	38.9	46.2	43.5	42.5	

②自分の考えをもつ



③「当てはまる」の割合は、小学校は18P、中学校は14P増加しており、全国も上回ってきました。

④児童生徒の発言を生かした授業、言語活動を充実させる授業を展開しようとしていることがうかがえます。

「自力解決例」【算数アドバイザー・前田一誠先生から】

◇まずは、自分の考えを1つはもたせて学び合いに参加させたい。(ノート、ホワイトボード、ワークシート等) しかし、分からなかったらどうするか、具体例を示しながら自分で考える方法を教えることも必要。できるだけ早く手立てをして、何もしない時間を作らないようにする。

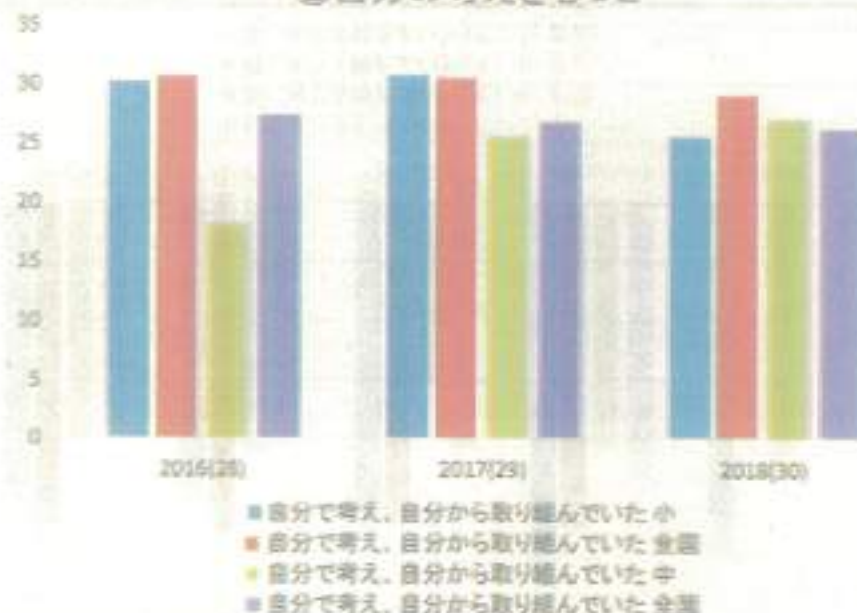
◇(考えがもてないときの工夫)・ノートの前のページを見る。・何でもいいから書いてみる(式でなくても、絵図等)。・数字を簡単な整数にして考える。・答えをおしえてもらい、そのわけを考える。・他の人の助けを借りる(ヒントをもらう。隣と相談する等)。

◇選択肢(2つ～3つ)を用意し、その中から選ぶ。選んだ理由を問う。「さあ、考えてみよう。」の指示だけでは、自分の考えをもち難い子どもへも有効である。また、教師の説明等を極力少なくすることにもつながる。子どもに「自己決定」させ、「理由、根拠をもつ」ことを育てることにもなる。

①学習の見通しをもつ ②自分の考えをもつ ③ペア・グループ・学級で話し合う ④学習内容や学習方法を振り返る

	項 目	年度	2014(26)	2015(27)	2016(28)	2017(29)	2018(30)
		小			30.2	30.7	25.6
②自分の考えをもつ2	自分で考え、自分から取り組んでいた	全国			30.7	30.5	29.1
		中			18.3	25.6	27.1
		全国			27.4	28.8	26.3

②自分の考えをもつ2



○「当てはまる」の割合は、小学校は横ばいから下がったものの、中学校は徐々に増加し、全国を上回っていることは評価できます。

また、その様に回答した児童生徒の方が、クロス集計の相関関係が大きい、つまり、平均正答率が高い傾向があります。

◆「主体的な学び」に関わる意識項目であると考えます。一層の取組が必要です。

「自分の考えを持つ」段階における取組例

◇自分の考えをもつ場面において、自力解決の時間は必ずしも問題を解決済みにする時間ではないという共通理解のもと、「分からない」「途中まで」「新たな疑問」を認め、学級全体の状況に応じて、考えをもつ時間を適宜設定している例もあります。

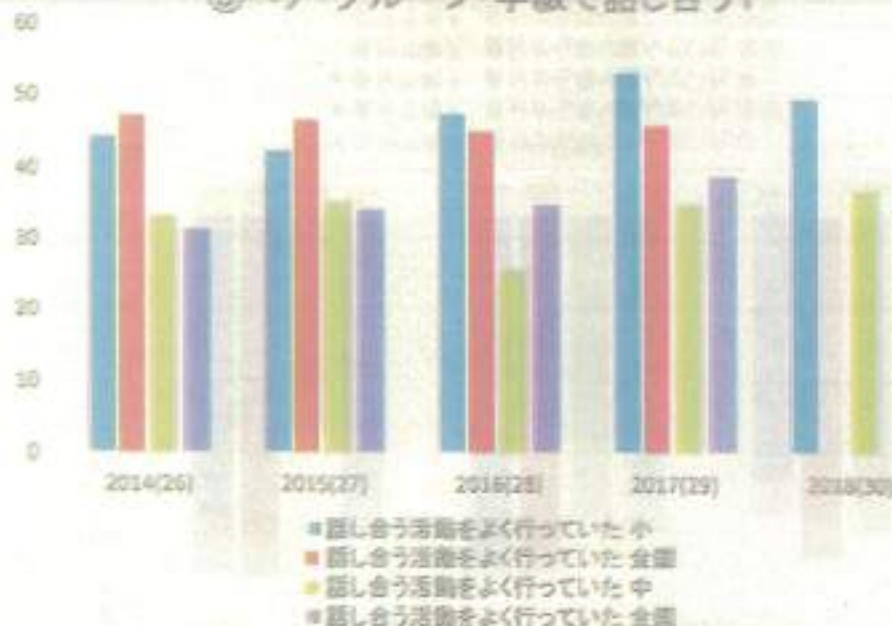
◇「めざす児童の姿」として、【低学年→中学年→高学年毎の「学び合いのための学習姿勢づくり」段階表を作り、全職員で共通理解する。児童の実態を基に、低・中・高学年ごとの具体的な取組を決定し、共通実践する。児童の姿から取組を検証している例もあります。

◇めざす授業のイメージを全職員が共有するために、共通実践事項を意識した提示授業を、年度の早い時期に研究主任が行う例もあります。

①学習の見通しをもつ ②自分の考えをもつ ③ペア・グループ・学級で話し合う ④学習内容や学習方法を振り返る

項 目		年度	2014(26)	2015(27)	2016(28)	2017(29)	2018(30)
③ペア・グループ・学級で話し合う1	話し合う活動をよく行っていた	小	45.4	42.4	47.4	53.1	49.5
		全国	47.3	46.7	45.2	46.1	
		中	33.4	35.5	25.9	35.1	37.1
		全国	31.3	34.2	34.9	38.9	

③ペア・グループ・学級で話し合う1



◎小学校:「当てはまる」の割合は、2014年から4年間で、9P増加。全国を7P上回ってきました。

◎話し合う活動を、意識的に設定していることがうかがえます。

△中学校:「当てはまる」の割合は、2014年から4年間で4P増加。しかし、全国を約2P下回っています。

◆1時間の授業の中に、話し合う活動を意識的に設定していく必要があります。意味ある「話し合い」を設定しなくてはなりません。

「ペア・グループ・学級で話し合う」段階における取組例

◇活用の目的に応じた「思考ツール」を用い、児童生徒の考えを可視化して整理することで、「何のための話し合いなのか」を明らかにする工夫をしている例もあります。「思考ツール」は、授業のねらいや児童の実態に応じて効果的なものを用いる。思考ツールの活用の工夫について、校内研修日で紹介し、学校全体で共有しながら実践を積み重ねる。〈思考ツールと活用の目的:ベン図→比較する。ドラミッドチャート→考え・伝えたいことを絞る。構造化する。コンセプトマップ→関係付ける。クラゲチャート→根拠、理由、原因を探す。理由付ける。イメージ(ウェビング)マップ→考えを広げる。等:「思考ツールの授業」小・中学校編参照

◇児童生徒同士の話し合い活動の質を高める工夫:視点…児童生徒に必要感をもって話し合える場となっているか。実態に応じた学習形態や時間を工夫することで、一人一人が考えを表現できるようになっているか。「なぜ」「分からない」「なるほど」といった、会話を取り上げて授業を展開できているか。安心して間違いを伝え合える雰囲気になっているか。道徳授業の例:友達の発言を受けて、「でもね。」と言って、発言をつなぐ。

①学習の見通しをもつ ②自分の考えをもつ ③ペア・グループ・学級で話し合う ④学習内容や学習方法を振り返る

	項 目	年度	2014(26)	2015(27)	2016(28)	2017(29)	2018(30)
③ペア・グループ・学級 で話し合う2	話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすること	小	20.6	21.2	25.3	28.2	28.8
		全国	22.7	25.2	26.4	26.9	34.7
		中	16.7	18.8	16.5	17.1	27.5
		全国	18.9	18.4	20.2	19.7	32.4
		高	20.6	21.2	25.3	28.2	28.8

③ペア・グループ・学級で話し合う2



○「当てはまる」の割合は、小学校・中学校ともに、少しずつ増加はしていますが、いずれも全国を下回っています(全国増加大)。

○しかし、中学校の11Pの伸びは評価できます。

「主体的・対話的な深い学び」を目指すに当たり、大切な質問項目であると考えられます。

◆「話し合い活動の設定」はもちろんですが、「話し合いの必要感」をもたせる(話し合ってよかったとか話し合いはおもしろ等)ことや「話し合いの質」を高める工夫が二層求められます。

「学び合い」～自分の言葉で話し合う～【算数アドバイザー・前田一誠先生より】

◇教師対児童の1対1にならないように児童の考えを「つなぐ」ことを意識する。また、「子どもが自分の言葉で語る授業」(答えだけでなく、どうしてそうになったか説明できて本当に理解したことになる)を大切にする。特に「教師が説明しすぎない。教師が話す時間をできるだけ短くする。まとめも「子どもの言葉で」に取り組む。しかし、これが一番難しい。

◇ねらいを明確にしたペア、グループ学習の活用(何を話し合うか、何をするか明確に):①ペアやグループの話し合いの仕方を学習させておく。②簡単なことでも説明確認すること(図形の面積の公式をペアで確認する等)。③学習した後、まとめとしてお互いになぜそうなるかを説明し合う。

◇全体で学び合いをさせる工夫 ①表現の置き換え・関連付け:図のみ…「〇〇さんは、どう考えてこの図をかいたのかな?」。式のみ…「〇〇さんのこの式は何を意味しているのかな?どう考えたのかな?」。言語のみ…「〇〇さんの説明を図で表すと?」。②考えを広げ、深める工夫:考えたところまでを発表させ、続きを考えさせる。「同じです」と言う子に、「同じでもいいので言ってごらん」。極かな違いが出てくる(ほとんどが同じではない)。「だってね…」と自分の考えと比較しながら話させる。③誤答への共感の場の設定:「〇〇さんは、どう考えてその式や考えを出したのかな?」

◇全員が参加できる工夫…①ペア、グループの活用。②挙手しない子どもにも指名する(間違いを嫌がって自信がないと手を上げない子等)。「予想をこの列言って」(予想だから、間違ってもかまわない)。③「全員立って、〇〇さんと同じ考えの人は座りましょう」等。動きを入れる。空気を交える。

- ①学習の見通しをもつ ②自分の考えをもつ ③ペア・グループ・学級で話し合う ④学習内容や学習方法を振り返る

	項 目	年度	2014(26)	2015(27)	2016(28)	2017(29)	2018(30)
④学習内容や学習方法を振り返る	学習内容を振り返る活動をよく行っていた	小	26.3	33	44.9	39.4	38.1
		全国	34.5	38.9	39.9	40.3	
		中	11.1	13.8	18.5	20.2	23.3
		全国	15.6	19.4	23.3	25.3	

④学習内容や学習方法を振り返る



◎小学校:「当てはまる」の割合は、2014年から4年間で12P増加。全国とほぼ同じ状況となりました。

○中学校:全国からは2P下回っているものの、この4年間で12P増加。これは、約2倍もの伸びです。

◎小・中学校共に、振り返る活動を授業に意図的に取り入れようとしていることがうかがえます。めあてに返って振り返る、まとめ、振り返りの時間を確保することが重要です。

「学習内容や学習方法を振り返る」段階における取組例

◇主体的に課題解決を図ろうとする意欲をもたせるために、振り返りカードの内容を工夫し、生徒の疑問や思いを生かして次時の学習課題を設定している中学校の例もあります。

①生徒が振り返るの視点を明確にもつことができるようにする。・今日の学習を通して考えた新たな疑問。・今日学んだ内容の中で、日常生活に生かせそうなこと。・次の時間に更に学習を深めたいこと、もっと知りたいこと。

②各教科に共通する視点を設定し、生徒が主体的に取り組めるような学習課題づくりに生かすようにする。

◇視点を明確に示し、本時のわらいの評価や学習内容に関わることを記録する。【算数アドバイザー・前田先生から】

〈視点・問いかけ例〉・どの考えがより良いと思うか。なぜ良いと思うか。・みんなの考えを聞いて、初めの自分の考えとの比較。・これまで学習したことの中で何が使えたか。・今日は何をして、どのようなことが分かったか。・もっと聞いてみたいこと、調べてみたいことはないか。・身の周りのもので、今日の学習とつながりのあることはないか。

◇算数・数学では、授業の後半に「〇分間は、適用問題をやる」時間を設定し、その時間の学びを確かめたり、さらに発展問題に挑戦したりすることも有効。

資 料

○家庭学習ノートリーフレット

○学力向上推進室だより


家庭学習 ノート例


～浜田市家庭学習ノートコンテスト優秀賞のノートより～

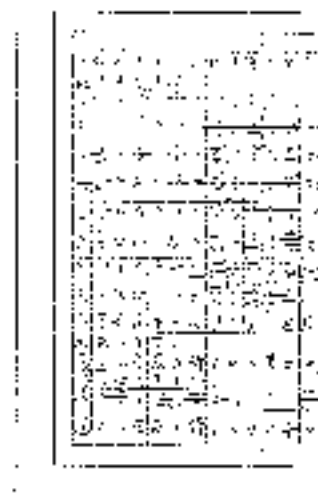
浜田市教育委員会

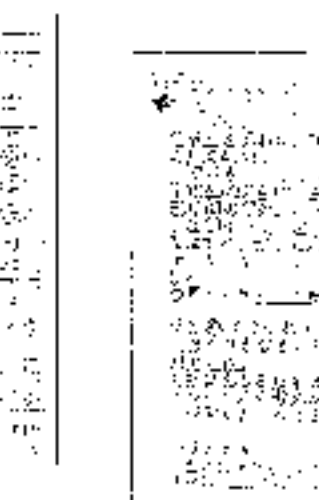
今年度の優秀賞のノートを紹介します。「家庭学習ノートコンテスト」は今年度で終了しますが、たくさんの方から送っていただいたノートに出会えてきたことをうれしく思っています。「家庭学習 ノート例」を見て、「こんな工夫があるとわかりやすくなるんだ」「こんなやり方があるんだ」という発見をして、自分の学習に生かしていけるとすばらしいと思います。皆さんがもっている力を十分発揮できるように、家庭学習をするときのヒントになると嬉しいです。

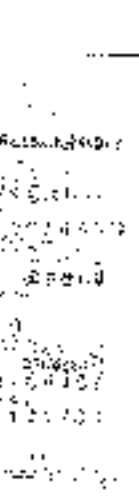
学習の仕方















① 毎日の家庭学習で、まず「めあて」を決め、最後に「学習の振り返り」や「まとめ」をしています。
めあてを決めることで、何のために学習をするのか、はっきり意識して学習を進めることができます。日毎意識をもって学習に取り組むことで、身につく力が実感できます。


相手を意識した学習





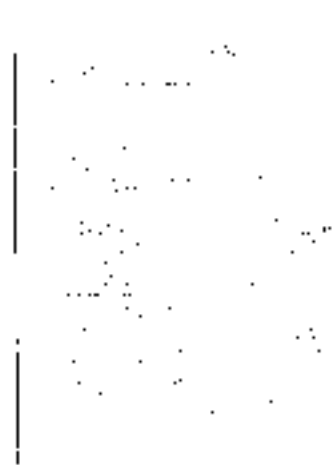
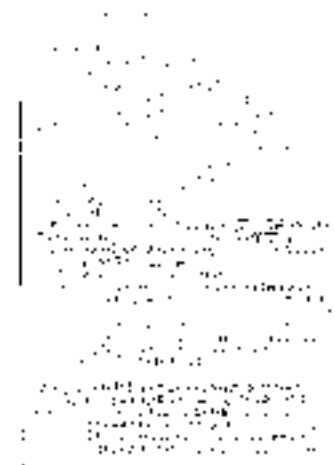
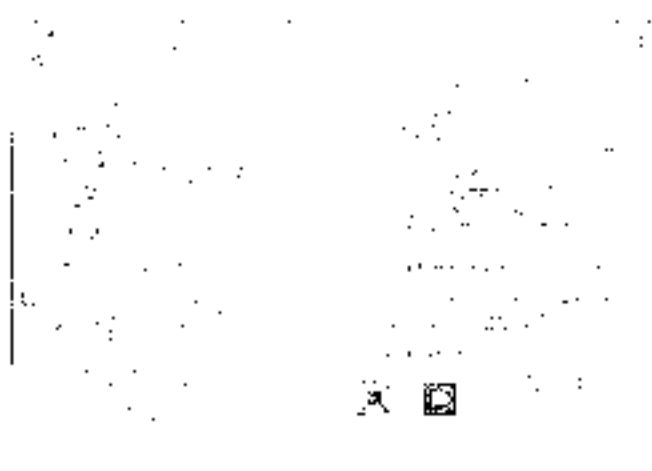
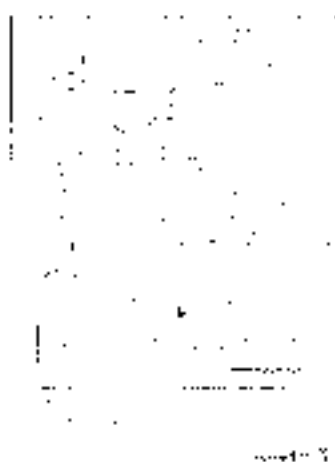
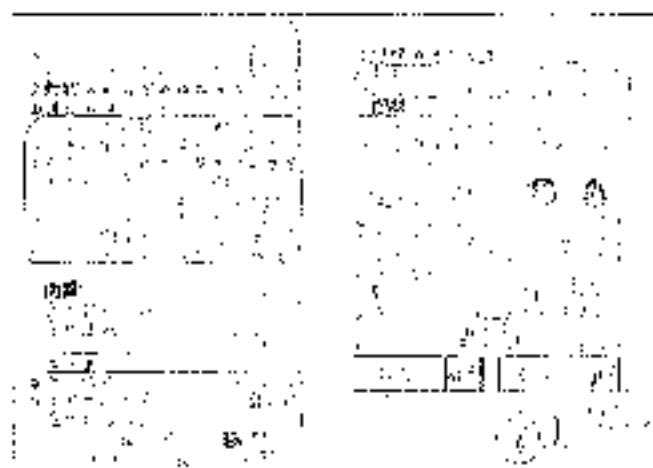
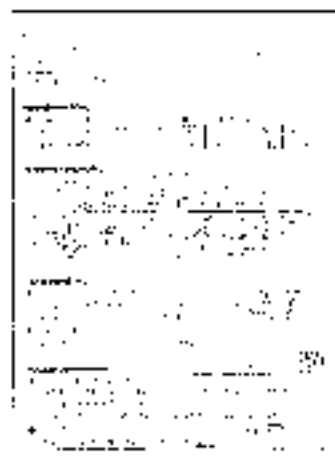






② 互いの相手を意識して学習に取り組んでいます。相手を意識することで、日毎の取り組みと工夫がはかばかしくまとめることができます。
また、小学校の場合、保護者と関わることで、家庭学習に対する意識もみられます。

まとめ、見直しの学習



学習したことを自分の言葉でまとめています。自分の言葉でまとめるためには、学習したことを頭の中で整理し、表現する必要があります。整理したことを不当に弾断する力が弱くなります。



テストで間違えたところを学習しなおしたり、やりっぱなしではなく学習したことを見直して訂正したりしています。

自分のまちがえていることを確認し直していくことで、今の自分の分かり具合を把握できます。
これをメタ認知といいます。

充実した家庭学習のために

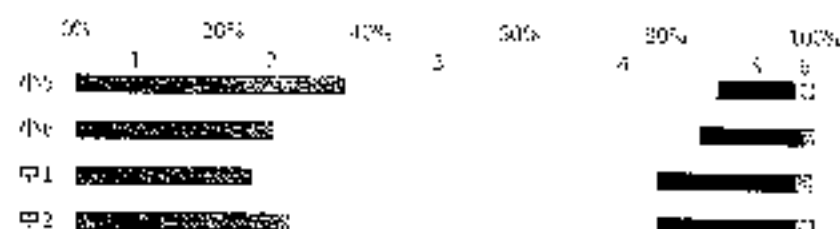
学習の仕方は人によって違います。大切なのは、学習することではなく、学習して自分の力をつけることです。自分に合った学習方法を見つけて、自分の力をどんどん伸ばしてください。

でも、「学習の仕方が分からない」と悩んだり、「今の学習の仕方で大丈夫かな」と不安になったりすることもあると思います。そんなときは、学校の先生に相談してみてください。先生たちは、皆さんの保護者の方と同じように、皆さんの成長を楽しみにしている応援団です。

また、「調べたことをまとめたけれど、どうやって調べればよいが分からない」「どうまとめればよいのか分からない」というときは、学校司書に相談してみましょう。たくさんの情報をもっていて、力になってくれるはず！皆さんの周りには頼りになる大人がたくさんいます。また、話合える仲間がいます。

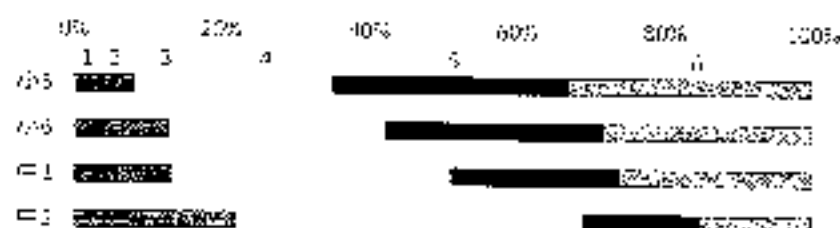
図表（月曜日から金曜日）：1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしていますか。（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、ネットゲームをする時間は除く）

- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしない



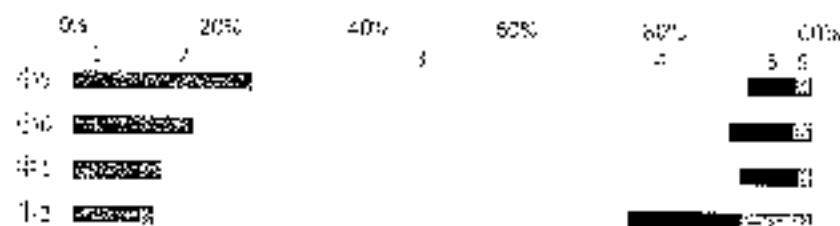
図表（月曜日から金曜日）：1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使っていますか。

- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしない



図表（月曜日から金曜日）：1日あたりどれくらいの時間、読書をしていますか。（学習にゆくて読書をしている時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）

- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしない



平成30年12月に行われた鳥根県学力調査（小5～中2の実施）の質問紙を見ると、学年が上がるにつれて携帯電話、スマートフォンの使用時間が長くなる傾向にあります。また、テレビ等の視聴時間が長く、三分の一くらいの人だけが3時間以上見えています。いずれも県の値よりも高い傾向にあります。それに伴って、家庭での学習時間が短くなっています。

グラフに表していませんが、不読率（本を全く読まない人の割合）は、学年が上がると高くなります。しかし、中学校の不読率は県の値よりも低くなり、読書に親しんでいる傾向が見られます。過度な読書は、読解力・思考力の育成に必要とされています。それぞれに費やす時間が長いということは、その他の時間が奪われているということです。睡眠時間、食事の時間、家族の時間を大切に、規則正しい生活を送ってほしいと思います。



外国語活動先行実施はひまる
学校司書さんの研修の様子
(4.26)

この4月から、浜田市全ての小学校で外国語活動の先行実施が始まっています。3・4年生では週に1コマ(1年度35時間)、5・6年生では週に2コマ(年間70時間)の授業を生み出すため、各校では週に1コマ増やして対応しています。

市教委では、忙しい担任の先生方を支える1つとして、外国語サポーターさんや学校司書さんを対象に外国語の研修会を行いました。サポーターさんの研修会には、数名のALTも参加してくれました。そこで絵本の活用について演習をしました。絵本については、絵があることで、知らない語彙があっても、状況を理解しやすいこと・2繰り返しが多く、たくさんのインプットが可能であり、子どもの自然なアウトプットにつながること・3日本語の絵本とは違う色使いなどから、外国語文化に触れられること・など、その効果が期待できます。現在、各学校には英語の絵本は少ない状況です。そこで、市教委が持っている絵本について貸し出しができるようにしました。どんな絵本があるのかHAMAポで見ることができ、予約をすることができます。借り方等についても、サポーターさん、司書さん、外国語担当者の先生にそれぞれ説明をしています。ぜひサポーターさんや司書さんを通して、授業で絵本をご活用ください。

また、小学校教職員対象に、英会話教室を開催しております。お気軽に参加ください。

★小学校教職員対象 英会話教室★

- ・日時：毎月第2・4火曜日 18:30～19:30(期前、5月～7月まで計画しています。)
- ・場所：浜田市立中央図書館 2F 多目的室
- ・内容：SMALL TALK, CLASSROOM ENGLISH など
- ・申込：提出>9101_教育委員会>02_学校教育課>03_学力向上推進室>英会話教室申込
当日までに氏名・学校名を入力してください

その他、文科省や県教委から出ている資料等についても、先生方のPCから、パスワード等なしにアクセスできるようにHAMAポに掲載しております。「授業づくりに関する項目>23 外国語活動」から覗いてみてください。

外国語活動・外国語科全面実施まで2年間あります。まず先生方には「学習者モデル」として、子どもたちと一緒に楽しんで授業をしていただくのが一番です。この2年間に力をつけていただくために、市教委としても支援をしていきます。何かお困りのことがありましたら、いつでも相談をしてください。

外国語をはじめ、日本の教育は今変わろうとしています。市教委は先生方に有用な情報や研修を提供していきたいと考えております。今年度もどうかよろしくお願いします。



「先生がしゃべる」とか「先生が教える」ということをやめたほうが良い。最後まで教えない。最後に「先生が質問するのは意味がない。時間内にわからないなら終わっても良い。次時までに作業を練ればよい。」

「子どもが話している時、他の子はどんな風に聞いているのか。発言しているのは誰のためなのか。『みんなに伝えたい』という意識でしゃべるべし。先生にしゃべるのではない。」

スーパーティーチャー事業

大野 桂先生(筑波大付属小)による
公開授業と講演(5.16) 今福小

浜田市の学力向上総合施策事業の1つ、「スーパーティーチャー示範授業による授業力向上研修会」を、5月16日(水)、今福小学校を会場に開催しました。20名を超える先生方の参加があり、提案生のある授業を見て一緒に学ぶことができました。この日初めて会った13人の子どもたちと、3年生の算数の授業、「わり算」の導入の部分を公開されました。

「おはじきを1人3こずつくばります。何人にくばれますか。」

という問いに対して、「寧ろ子どもたちの言葉をつないで、決して教師が「教えない」という、大野先生のスタイルを賞かれた授業でした。

授業後の講演では、多くの授業づくりのヒントをいただきました。

- 「先生がしゃべる」とか「先生が教える」ということをやめたほうが良い。最後まで教えない。最後に「先生が質問するのは意味がない。時間内にわからないなら終わっても良い。次時までに作業を練ればよい。」
- 子どもが話している時、他の子はどんな風に聞いているのか。発言しているのは誰のためなのか。「みんなに伝えたい」という意識でしゃべるべし。先生にしゃべるのではない。」
- 子どもの言葉を簡単に採りあげない。父兄が理解していないのに採りあげると言われるのは、先生が言ったのと同じ。他の子がわからない場面では採りあげて、わかっている子の代弁をする。
- 教師が求める発言でない時の声援は、どうすれば教師が対話をやめているということ。子どもの言葉を受け止めて、子どもに促している。そしてまた受け止めることを繰り返す。
- 「見方・考え方を育てる。その見方」が全員で考えるまで待つ。時間をかける。

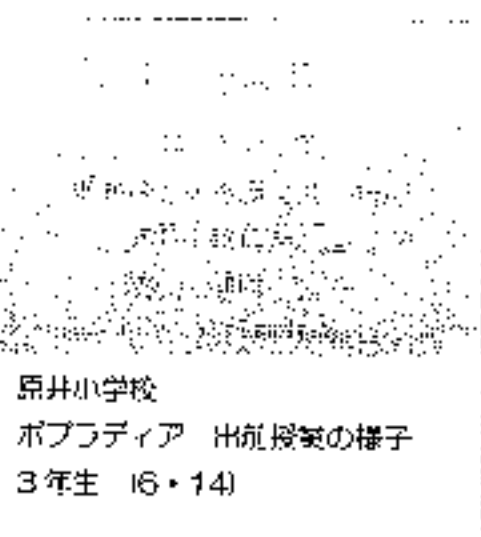
教師が教えない授業というのはどういうものか、実際に目の前で見ることで、感動された先生方も多かったようです。感謝を一部紹介します。

- 「児童に考えさせるということ」「児童と対話をつなげ学びを深めること」について大分よくわかりました。教材研究をしたことに沿って子どもに考えさせようとしていたことや、ノートの書き方などの指導に力を入れすぎていたことなど自分の指導を顧みるよい機会となりました。
- 講演の中で、「子どもは先生が答えを言ってくれるのを待っている」という話がありましたが、(私の授業は)まさにその状態です。大野先生は、少しずつ子どもの発言をつなげていくことをしておられ、こうやって少しずつ確信していった方がいいんだ、と勉強になりました。
- ペア学習を行うタイミングはみんながわからなかったり、自分の考えを持つことができたりしている状態の時だとわかりました。

良い授業を見ることで多くの学びがあります。市教委では、夏休みにも研修会を予定しています。

★7月23日(月)国語 講師：阿部 秀高 先生 (森之宮医療大学 教授)

★7月24日(火)算数 講師：前田 一誠 先生 (IPU 環太平洋大学 准教授)



原井小学校
ポプラディア 出前授業の様子
3年生 (6・14)

6月14日(木)、原井小学校にて株式会社ポプラ社より上原さん(図書館事業部・図書館サポート室)に来ていただき、3年生の児童に、ポプラディア百科事典の使い方について、出前授業をしていただきました。(前日には、美川小学校で5年生と6年生を対象に、ポプラディアネットについても授業をしていただきました。)

最初に、下の9つの言葉について、冊で協力して探し、葉を挟むように指示をされました。中には、国語辞典と同じような順で言葉が並んでいることがわからずに、「お」の最初から「オバマ」を探すのにずいぶん時間がかかり、疲れている子どももいました。それでも、言葉を見つけると「あったー!!」と飛び跳ねて、全身で喜びを表現している姿が印象的でした。その後は、気づいたことを子どもたちに発表させることで、百科事典の特徴や調べ方を共有しました。また「見出し」や「項目」といった言葉の意味も、実際のページを見ながら、そして「国語辞典の調べ方」で学んだことを思い出しながら、子どもたちは自分たちのものにしていました。また調べたそれぞれの言葉についてのクイズ(内容まで読ませる活動)、百科事典と国語辞典の違いの説明、「名人への道」という上手な調べ方等を、実際にポプラディアを使って、調べさせながら、あっという間の45分間でした。

○国際子ども図書館

○オバマ、バラク

○セアカゴケグモ

○はやぶさ

○電気クワガ

○『ムーミン童話』

○ヒバリ

○ンゴマ

○一階車

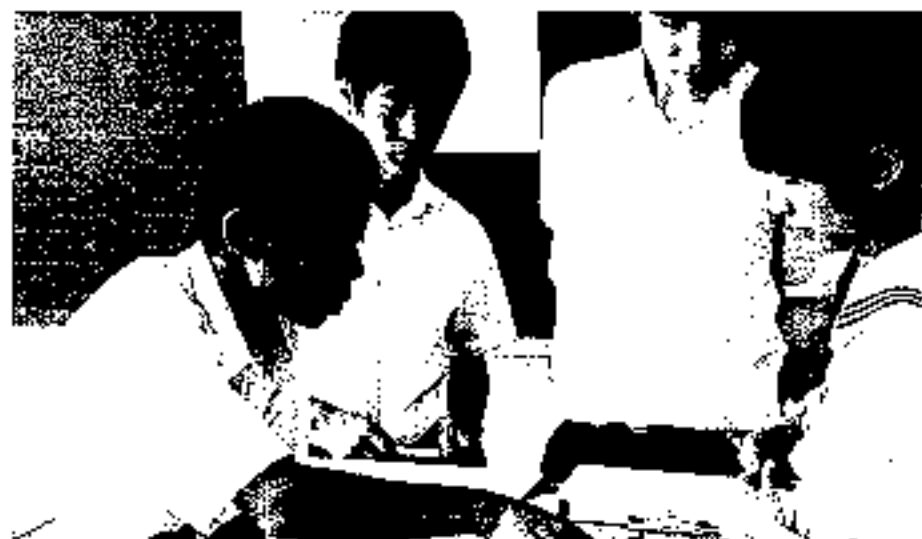
子どもたちは、初めて百科事典に触れ、新しい言葉や事柄を知ることによって、知的好奇心を刺激され、目を輝かせ、集中して取り組んでいました。「知らなかったことがわかる」「新しいことを知る」「学び方を学ぶ」ということが、こんなにも子どもの目を輝かせるのかと感動しました。今回のような授業を、子どもの心に受けたかったなあど、心から思いました。そして、これがベースとなって、調べる学習や、学ぶことそのものが、子どもたちにとって、より楽しいものになるのではないかと思いました。

おそらく、この授業の後、図書館に来る子どもたちや、ポプラディアを手にとって見る子どもたちが増えたのではないのでしょうか。

今回の出前授業は、浜田市がポプラディアネットの契約をしている関係で、ポプラ社から講師の派遣をしていただきました。市教委のほうで班の数だけポプラディアのセットを準備し、講師の上原さんが教材を準備してくださり、子どもたちと担任の先生は、その時間に学校図書館に来るだけで、この素晴らしい授業を受けることができます。ぜひ他の学校でも実施していただきたいと思いました。後日、上原さんから手紙が届きました。意欲旺盛な子どもたちと熱心な先生方に感動されている様子でした。

図書館活用で子どもたちが変わります。そのきっかけとなる、今回の出前授業でした。





協働学習の授業の様子
（協働学習の授業の様子）

旭中学校 2年生
協働学習指定校 公開授業の様子
社会「江戸時代」 (6・15)

6月15日(金)、協働学習の指定校である旭中学校にて社会の公開授業がありました。授業者は酒本忍教諭で、昨年度から知識構成型ジグソー法に興味を持って取り組み、この学年では社会だけで今回で8回目のジグソー法での授業となりました。(他の教科でも取り組んでおられます。)

すでに慣れている子どもたちは、最初に「なぜ江戸時代は260年も続いたのか？」という課題と、エキスパート活動の3つのテーマ「身分制度の成り立ち」「語彙の発展」「流通の発展」を聞いて、進んで班に分かれ、時間配分を自分たちで決め、図書資料等を使ってエキスパート活動に取り組みました。「流通の発展」の班は、なかなか課題とのつながりが見えないまま、ジグソー活動に向かうことになりましたが、「ちやちや」した状態のまま、次の活動に入ること、他の人の話にしっかり耳を傾け、自分の持っている知識と結びつけ、つながった瞬間に「あー!」と声をあげ、学びが深まっていました。また次時のクロストークのプレゼンを作るため、どうすれば相手に伝えられるか、視覚となる資料をタブレットや思考ツールを使ってまとめていました。

活動中、子どもたちは自由に動き、立ったまま話し合うグループもありました。口数が少ない子どもが、ぼそっと言う一言が、話し合いを引き締めている場面もありました。いろいろなタイプの子どもたちが活躍でるのも、この手法の良さだと感じました。

「ジグソー法は準備が大変だし、授業時間が足りない」というイメージがあるかもしれませんが、酒本教諭によると、ここでしっかり時間をかけて子どもたちは歴史的事実をつなげ、俯瞰できるので、その後の授業がとてもスムーズで時短になるということでした。また悩んでたどり着いた「答え」は簡単に忘れるものではなく、定期テストでの正答率も高いとも言っておられます。

協働学習の授業のイメージが持てないと思っている先生方や、興味のある先生方は、ぜひ今後の研修会にお出かけいただき、授業改善のヒントにいただけたらと思います。

【協働学習にかかわる今後の研修予定】

●協働学習研修会 8月24日(金) 13時～ 講師：東大 CoREF 特任助教 飯塚真也 先生 (中央図書館)

*各校1名以上参加してください。

●旭中学校 公開授業 11月16日(金) 国語 授業者：坂本有美 教諭

●金城中学校 公開授業 10月12日(金) 国語 授業者：永安裕子 教諭

日程未定 数学 授業者：勝部厚志 教諭

鳥根県教委も、県立高校で協働学習を取り入れようとしている関係で、浜田市内県立高校の先生方が4名、県教委の関係者が3名、この公開授業を見に来ていました。子どもたちの様子から、文科省がいう「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善の方向性や、鳥根の子どもたちに身につけてもらいたい力「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題にも粘り強く向かっていく力」の方向性に合っている授業だと、改めて感じました。



金城中学校 2年生
協同学習指定校 授業の様子
数学「連立方程式の利用」(6・25)

6月25日(月)、金城中学校で昨年からは構成型ジグソー法に取り組んでおられる勝部教諭の数学の授業を見せていただきました。この日は連立方程式の単元末で、次のような問題に取り組みました。

連立方程式の利用の問題で、例を x, y にするかで解き方が変わってきます。

どちらの方法でもいいけど答えを求めよう。そしてどちらの方法で答える方が簡単なか、理由を説明しよう。

方法一 自転車で走った道のりを x m、走った道のりを y mとする。

方法二 自転車で走った時間を x 分、走った時間を y 分とする。

問題

全長7000mのコースを、スタート地点からA地点まで1、自転車で走り、A地点からBまでは、自転車を降りて走り出した。自転車では、分速200m、自転車を降りてからは、分速150mで走り、全体を30分で完走した。自転車で走った道のりと走った道のりをそれぞれ求めなさい。

まずは個人で答を書てみます。短時間なので答にたどり着かない子どもたちがたくさんいますが、これがいいのです。その後のエキスパートで、資料を頼んだり人の話を聞いたりする必然性が生れます。そしてエキスパート活動もやや短く、とりあえず答は出るけれど、どちらがより簡単がよくわからないままジグソー活動に入ります。その後、ジグソー活動では、なぜその方法が良いか、理由を言っているいろいろな言葉が飛び交っていました。ここで、隣の班に意見を聞きに行く班もあり、気はクロストークっぽい活動になっていました。実際のクロストークの時間は、11分あったこともあり、短い時間、短い言葉で全ての班が選んだ方法と理由を発表をしました。最後にはまた個人で答を書きます。その後感想を書いていました。

子どもたちの感想には、次のようなものがありました。

- ・こんなに頭を使ったのは久しぶりだった。
- ・連立方程式が改めてわかった。
- ・難しかったけど、班で話して簡単にする方法がわかったのがよかった。
- ・ x, y は自分で決めていいんだと思った。

勝部教諭は、昨年度から繰り返しジグソー法に取り組んでおられます。初めは課題設定のところが難しかったようですが、最近では子どもたちの実態に前して、課題の設定ができるようになり、すいぶん楽になったそうです。また、このような授業は毎時間できるわけではなく、今回のように単元末の発展的な問題のところで実践を積み重ねておられます。「一人では難しい問題」「統制ではない課題」がジグソー法の授業には必要なので、このようなやり方が合っています。最初の通人岩考で答を求めることができた生徒が、決してうまく説明できていたわけではなく、このような学習活動を通して、数学が得意な生徒も学びが深まっていることが見て取れました。

また、先日、広島県の安芸太田中学校で見た国語の授業では、クロストークで子どもたちの学びが深まっていく様子が見られました。クロストークでしっかり時間をとり、各班の「発表」だけで終わらず、教師が問い返し、子どもたちが質問しあったりすることで深まっていくのを感じました。



「アルファベットとなかよし」
 今希小学校 4年生の様子(7.13)

小学校 外国語活動
 今希小学校 4年生の様子(7.13)
 「アルファベットとなかよし」

浜田市では、今年度から中学校外国語教育の先行実施をしております。各校で、子どもたちが生き生きとした表情で外国語活動の授業を楽しんでいる様子を見せていただき、ありがたく思っています。

一方、県内各地の先行実施や移行措置の様子から、「指導の行き過ぎ」を危惧する声も聞こえてきております。5・6年生では、これまでの「話す」「聞く」に加えて、「読む」「書く」言語活動が入ってきましたが、その内容については、いわゆる中学校の前倒しではないことを確認しておきたいと思います。

領域別目標:読むこと

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音できるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

こういうことです。



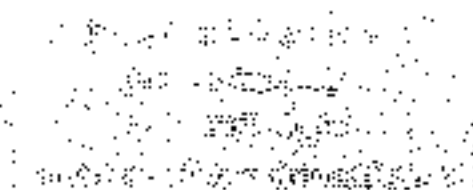
領域別目標:書くこと

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語彙を認識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、国文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

新しい教材では、3年生で子どもたちはアルファベットの「大文字」に出会い、4年生で「小文字」に出会います。書く際に多く使われるのは小文字ですが、子どもたちが身の回りで目にする機会が多いのは、圧倒的に「大文字」です。だから「大文字」から出会うのです。出会いからしっかり時間をかけて慣れ親しみ、小学校を卒業するまでに「書くことができる」ようにするのです。そのぐらい、「書く」ことについてはゆるやかな流れになっています。授業では多くの語彙や表現に出会い、聞いたり話したりしながらそれらの語彙や表現に音声で十分に慣れ親しんだ後、「書き写し」たり、「国文を参考に書く」程度なのです。しかも、この2年間は「外国語活動」なので、定着を求められていません。

目的や場面、状況を設定し、必然性のある言語活動を仕組むことで、子どもたちが「書いてみたい」と思う状況の中で書くことが大切になります。

また、中学校の先生方にも、ぜひ今年、来年のうちに小学校の外国語活動の授業を見ていただきたいと思います。「言語活動を通して！指導することのヒントが見えてくると思います。



全国学力・学習状況調査

結果から 考えたいこと

(写真 は H29 年度 一中理科の様子)

7月に、全国学力・学習状況調査結果が返されました。各校において、結果の分析やこれよでの取組みの見直し、さらなる授業改善等につなげる取組みをいただいているところだと思います。改めて、調査の目的を理解するとともに、数字に一喜一憂するのではなく、**当たり前前のごことを日々着実に実践**していくことや、**組織的に授業改善**を続けていくことの必要性を感じているところです。

教員一人一人が力量を上げることはもちろん大切ですが、それだけでは学校全体が良くなっていくことは難しいと感じています。誰もが組織の一員として、みんなで同じ方向を向いて協働していく必要があります。またそうなった時に、「チーム学校」として大きな力が発揮されるのだと思います。

市校長会で牛尾室長が示したことや、県の担当者からの話を聞いて私なりに理解したことをもとに、チェックリストを作ってみました。ご自分の今の授業や宿題の出し方等について再度確認してみてください。そして何か一つでも取り組むことが、すなわち改善につながっていきます。できることから始めてください。私たちもお手伝いします！

【主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善について】

- ☐ 「めあて」について、単元の目標や子どもたちにつけたい力をもとに示していますか。
- ☐ 「めあて」を共有していますか。
- ☐ 子どもたちが自分で考え、自ら取り組めるような仕掛けをしていますか。
- ☐ 「話し合い活動」や「言語活動」には目的や必然性がありますか。
- ☐ 考えの理由や根拠を話す機会を与えていますか。
- ☐ 「ふりかえり」の時間をとり、「めあて」に沿ったふりかえりをしていますか。

【家庭学習について】

- ☐ 調べたり文章を書いたりする宿題を与えていますか。
- ☐ 宿題は授業と関連づけた内容になっていますか。
- ☐ 家庭学習の方法等について、保護者にも知らせていますか。
- ☐ 学習配信プリントを活用していますか。

【カリキュラム・マネジメントについて】

- ☐ 学校教育目標をふまえた横断的な視点で各教科等の年間指導計画等を作成し、実施していますか。

先日、県の担当者から話を聞く機会がありました。県教委は今後、浜田市が以前から取り組んでいる「協働学習」を核にしながら授業改善に取り組んでいく方向のようです。(8月31日付山陰中央新報にも出ていました。)

また、匡研のHIPには、「全国学力・学習状況調査の結果を踏よめた授業アイデア例」も掲載されております。今年の問題を「発展問題」として授業で取り組んでみることも有効です。先生方ご自身が調査問題を解いてみるだけでも、何か気づきがあるはずです。

子どもたちの生きる力を育むために、みんなで一緒に取り組みたいと思います。



協調学習(知識構成型ジグソー法)
× 図書館活用教育× ICT教育で
主体的・対話的で深い学びの実現を

10月11日、旭中学校で協調学習の公開授業がありました。市内外より多くの先生方や行政関係者が見に来てくださいました。旭中学校では、特に社会科で何度も「知識構成型ジグソー法」を使って授業の実践をしています。また同時に図書館活用やICT活用もしています。この日は、2年生社会科・地理的分野「近畿地方」の学習で、「近畿地方の伝統とくらしを守るために資金を投入しよう」という学習課題のもと、2コマ連続の授業でしたが、子どもたちは最初から最後まで主体的に学んでいました。授業の様子を紹介します。

まず最初に、学習前の自分の考えをワークシートに記入します。(100%の予算を、3つの分野にどのように分配するか、またその理由を書きますが、この時点ではほとんど書きません。)

そして、子どもたちは班の中から3つのエキスパートに別れ、それぞれの班からきた仲間と一緒に、次の3つのエキスパートの課題について、教科書や図書館資料を使って調べます。

- エキスパートA「京都・奈良の歴史的文化財」
- エキスパートB「伝統工芸品と中小工場の技術力」
- エキスパートC「ラムサール条約に登録された琵琶湖」

図書資料については、学校司書が「パスファインダー」を準備しており、司書からの注意事項を聞いてから、調べ学習が始まります。それぞれのエキスパート班で、複数ある図書資料などから、有用と思われる情報を見つけると、後の説明で使えるようタブレットで撮影します。また自分が調べてわかったことやわからないことを出し合い(どんどんしゃべり)、「近畿地方の伝統とくらしを守るための資金が、この分野に必要かどうか、またそれはなぜか」を見極めていきます。

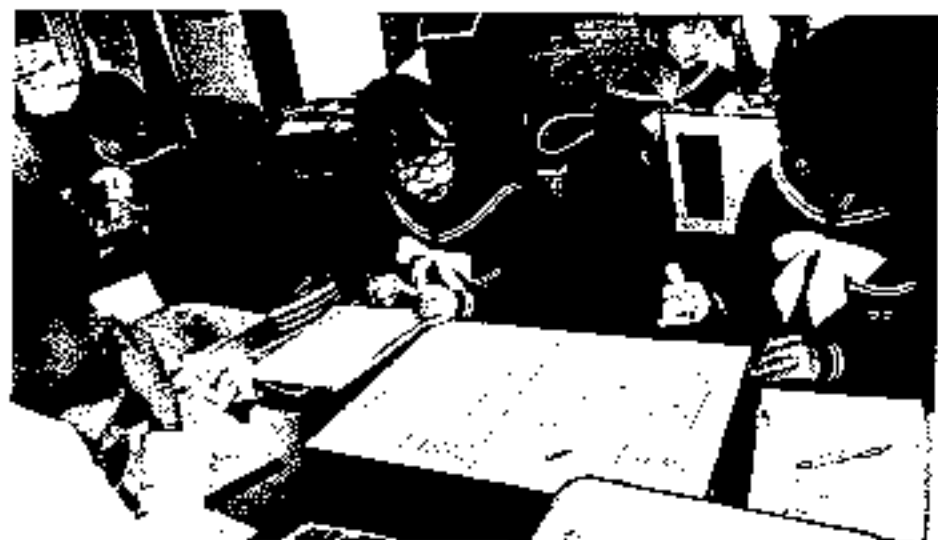
その後、最初の班(ジグソー班)にもどり、3つのエキスパートの情報を伝えあいます。この時、エキスパート活動で撮った写真や資料、ホワイトボードなどを見せながら、なぜその分野に資金が必要かを伝えます。そして3つのことを踏まえたうえで、資金をどのように3つの分野に分配するかを話し合って決めていきます。

さらにその後、クロストークでは各班が資金の分配率とその理由を、根拠を大型テレビに示しながら発表します。(メモ等何も見ないで自分たちの考えを話す姿には、毎回感動します。)班の発表を聞いている生徒は、疑問に思ったことなどを質問し、その回答を聞く中で、学びが深まっていくのです。

最後にもう一度、自分の考えをワークシートに記入します。

授業はこのような流れですが、驚くべきことは、2コマの授業の中で、休憩時間が設定されていたにもかかわらず、誰も席を立たず、全員が課題に向かって主体的に学習に参加をしている、そしてわかったことやわからないことを、自分の言葉で口こししながら、学びを深めているということです。

私は何度も見せていただいているのですが、子どもたちが成長しています。授業が終わった後は「すごく疲れたけど、楽しかった」と言った生徒がいきました。ある生徒は「これをやると、テストにもいい。テストの時、授業中の様子が蘇ってくるんです。」とうれしそうに教えてくれました。誰もに参加せざるをえない授業であり、記憶に残る授業なのです。一人でも多くの先生方に見てもらい、取り入れてもらいたいと感じています。



コメディーター授業
一 中 品川 仁志教諭
福井視察報告会(10.19)

10月19日(金)、第一中学校 品川仁志教諭による、福井視察報告会がありました。品川教諭は、長浜小学校の小田将史教諭とともに、6月に福井市に教育視察研修に行き、5校を訪問し、実際の授業や研究協議、生活の様子をその目で見て帰られました。

最初に、理科の授業公開がありました。担任している1年4組で「物質の姿と状態変化」という単元の授業をされました。この日は口づの状態変化のようすを粒子モデルで表そうという学習課題でした。温めて液体になっている口づの質量を計り、体積を確認してから冷やし固め、もう一度質量と体積を計ってその変化を調べ、粒子モデルを使って模式的に表す、という内容でした。

子どもたちは、先生の説明をよく聞き、班で協力して実験を行い、その様子や考えたこと、思ったことをどんどん口に出していました。そしてそれぞれが考えた粒子モデルの絵とその理由を伝え合い、班で考えをまとめ、全体で発表し意見交流をしていました。個人思考→グループでの思考→全体交流の流れがとてもスムーズで、話し合いを通して学びが広がったり深まったりしていました。

また始業前に全員が理科室に集まり、チャイムと共に授業が始まりました。そして先生が話す時には全員が先生に体を向け、手を止めて話を聞いていました。授業規律がきちんとした上で、活発に話し合う雰囲気がありました。授業前の清掃も、多くの子どもたちが廊下に膝をついて丁寧にそうぎんがけをしている姿に感動しました。

その後、福井視察の報告をされました。福井視察では、規模や環境が違う5つの小中学校を訪問され、一応を通してそれぞれの学校の授業や生活の様子を見て、先生方の話を聞いてもらわれました。学力も体力も全国トップクラスである福井市について、①授業 ②研究協議 ③掃除の取り組み ④給食のスリム化 ⑤指導主事、校長との懇話より、の5つについて、話をされました。①授業については、協働学習を小中ともしっていて、ホワイトボードと活用し、班長を中心にした話し合い活動を様々な教科で取り組んでいるそうです。何度も言われたことは、各校でやっていること(授業や家庭学習など)は、**浜田市でやっていることとそんなに変わらない**、ということでした。ただ、**取り組みの徹底のしかたが違うのではないか**ということでした。**「当たり前」の意識の高さ!**ということも言われました。

一方、研究協議の場面では少し違いを感じられたようです。**若手もベテランも、良いことも悪いことも年齢や経験に関係なく、活発で率直な意見交換**をされていたそうです。そして**一人の子どもを追った(一人の学びに注目した)授業観察**から、意見を言う先生が何人もおられたとのことでした。

子どもたちに、当たり前のことをやりきらせるためには、教員が一人でがんばっても難しいと思います。学校全体で、教職員みんなで取り組むことが必要です。そのためにも、教職員が互いの考えを交流し合い、付でも言い合える関係を作ることが大切なのではないかと、品川教諭の話を聞いて感じました。一斉では、子どもたちの規範意識や学習意欲の高さを感じました。福井の取り組みや、中の取り組みの中に、ヒントがあると思います。





「『のりもののこと』を
しらべて、『のりものかるた』
をつくらう」と明確に定め、
学校司書と一緒に、デモンストレ
ーションをすることで、子ども
たちにそのゴールの姿をわかり
やすく示しておられました。

図書館活用教育
指定校 美川小学校
公開授業(10.24)
単元「のりもののゴールの大切さ」

先生方は、単元のゴールを明確にイメージして、授業づくりをしておられますか？またそれを、子どもたちと共有しておられますか？先日、単元のゴールを明確にし、子どもたちと共有して、生き生きと学ぶ授業を見ました。子どもたちが見通しを持ち、ゴールに向かって主体的に学ぶ姿を見ることができました。

今年度、図書館活用教育の指定校(2 年目)になっている美川小学校で、公開授業がありました。市内外から参加者があり、子どもたちは張り切って授業に臨んでいました。授業者は長谷川緑教諭で、1 年生「国語『いろいろなのりもの』」で授業をされました。長谷川教諭は、本単元での子どもたちのゴールの姿を「のりもののことをしらべて『のりものかるた』をつくらう」と明確に定め、学校司書と一緒に、デモンストレーションをすることで、子どもたちにそのゴールの姿をわかりやすく示しておられました。また本単元での学習の足跡を教室内に掲示し、関係する本がくさん置いてありました。



本時は、あらかじめ決められていた乗り物について、ペアで「やくめ」「つくり」ができること、について調べ、読み札を作るという学習活動でした。それぞれについて、資料を読み取るのためのキーワードをみんなで確認していました。子どもたちはそれまでの学習を通して、「やくめ」といえば「～のための」、また「つくり」といえば「～があります」「～をえています」といったように、キーワードを唱えられるまでになっていました。

30 分というたっぷりあったペアでの活動時間。小学校 1 年生の子どもたちにとって、この間ずっと集中して取り組むことは簡単ではないと思いますが、ほとんどの子どもたちが集中して最後まで取り組んでいました。ゴールが明確に示されていたからこそ、子どもたちが集中して主体的に学ぶことができたのだと思います。また文字を書く時、この児童も左手採筆手の反対の手を置いて、しっかりした筆圧で大きい字を書いていたことにも驚きました。こういうところこそ、1 年生の最初の指導がとても大切なのだと感じました。

ペア学習前に、まず困ったときはパートナーに相談し、それでもダメなら先生を呼ぶという約束を確認していたので、子どもたちはできるだけ自分たちで解決しようとしていました。また柴田学校司書も授業に入り、困っているペアの支援をしておられました。そして「すごいね」「すばらしい」「よくできたね」といった声かけをたくさんしてくださるおかげで、子どもたちはさらに意欲的になっていきました。授業者と司書との素晴らしいコンビネーションで授業が作られていることがよくわかりました。

私は助すかしながら「図書館のことは国語科がするもの」という思い込みがあり、授業で使う資料の準備を学校司書にお願いすることはあっても、図書館を活用した授業づくりに積極的ではありませんでした。現在、美川市内の学校司書は転任を重ね、その力量をすいぶん上げています。授業者に相談されることや、頼られることを持っている優秀な司書がたくさんいます。ぜひ、図書館司書に授業づくりの様々な相談をしてみてください。資料の準備だけでなく、多くの有益な情報やツールを持っていると思います。

毎日千の手も借りたいほどお忙しい先生方にこそ、図書館や学校司書の活用が有効ではないかと思います。



灘中学・高等学校長
和田 孫博氏の話より
インテックス大阪にて11・8
(写真は相中・社会の授業)

11月7(水)・8(木)に、インテックス大阪で開催された「関西教育ITソリューションニクス」に行き、2日間で5つの講演を聞いてきました。その中の一つ、灘中学・高等学校長 和田 孫悟氏の「**開校が実践する 個々の能力を引き出す教育—アクティブラーニングって何だろう？**」という講演の内容から、印象に残ったことを紹介します。

灘中学・高等学校は難関大学への高い合格率で有名ですが、生徒の自主性を尊重する自由な校風で、制約はなく、校則もほとんどないそうです。また教員の自由を尊重し、出席簿は廃止し、校本模試もやっていないそうです。

天下の龍校が、どんな授業をしているのか、何か特別なことをしているのではないかと、私は興味深々聞いていました。

伝説の国語教師 橋本武先生は、昭和の時代から、3年かけて「銀の靴」を徹底的に調べ学習させながら授業をしておられたこと、総合的な学習の時間の一環で、卒業生が主に講師となり、「読裁」「田植え」をはじめとする多くの体験型の授業を生徒の選択制でしていること、「他者と共鳴する心を大切に」のモットーにより、異文化理解や国際交流を積極的に行っていること、「井の中の蛙」にならないために、茂穂学校との交流や、障害者を講師とした講演会、東北企画(ボランティア体験)や東京会館(O3)の職場見学等を実施していることを話されました。またキャリア教育は「社会の一員としての市民性を身に付ける」ことを大切にしてもらえるように。

「何か特別な授業方法」が出てくるのかと思っていましたが、結局、**豊富な体験型授業、本物に出会わせる機会、多様な学び、心の教育などを重視していることがわかりました。**

アクティブ・ラーニングについて述べたのは、次のことだけですが、

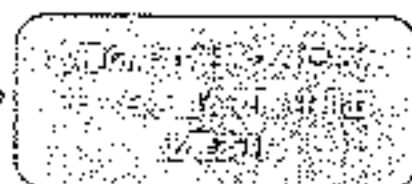
【生徒がアクティブになるために④】

1. 復習・確認テスト中心から、予習・調べる学習中心へ
2. 生徒同士の対話＋教員と生徒の対話中心の授業へ
3. 学びの深化のための impressive (印象的) な主を

「なんだ、特別変わったことはしていないんだ、浜田市で取り組んでいることは間違っていないんだな、と感じました。ただ、子どもたちにつけたい力を明確にし、信念を持って掲げている感じがしました。そして今の子どもたちに求められている力として、次のように言われました。

○「グローバル力」ー「未知の課題を克服する力」とは・・・

- ・課題にいち早く気づき 一 (好奇心、発想力)
- ・普遍的知識・技能を活用し 一 (初等・中等教育で身に付ける知識・技能) ⇒
- ・智で力を合わせて 二 (協調性)
- ・解決法を編み出す 三 (応用力、粘り強さ)



鳥取県が言っている「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、足よった答のない課題にも粘り強く迫っていく力」の方向性とも合っていると出います。



「**算数・数学指定校
第二中学校での取り組み**
写真☆プリントに取り組む生徒たち
(1月25日)」

昨年度より、環太平洋大学の前田一誠先生をアドバイザーとしてお迎えし、塩釜丘小学校と第二中学校の2校を指定校として算数・数学の授業改善事業に取り組んできました。前田先生には、年度初めに各校の先生方と協議をしてもらい、実感を知らせていただいた上で、授業づくりのアイデアのところから年間を通じて関わっていただきました。今回は第二中学校での取組みを紹介します。

前田先生のアドバイスをもとに、今年度、第二中学校の数学科では「毎時間、最後の15分間を演習に当てる」こととしました。配信プリントを活用し、毎回習熟度に応じて3種類(☆・☆☆・☆☆☆)のプリントを準備し、その時間のふりかえりとして取り組んでこられました。☆は授業で取り組んだ問題の類題や運用問題、☆の数が増えることに難易度が上がる仕組みで、毎回子どもたち自身がプリントを選び、時間いっぱい取り組んでいます。授業を参観された先生からは、「少し問題数が多いのでは？」とのお声もありましたが、「全国学力調査問題等から考えると、子どもたちには問題を解くスピードのスタミナが必要」(前田先生)なのだそうです。そうすることで、数学が苦手な生徒はもちろん、数学を得意とする生徒たちも最後まで意欲的に取組み、力を伸ばすことにつながっています。また生徒同士が教えあう場面が増え、教員は本当に支援が必要な生徒にしっかりかかわることもでき、手こたえを感じておられます。プリントは、授業の中でやることとし、宿題等にはしていません。子どもたちはチャイムがなるまで精一杯問題に向かっていきます。やることがはっきりしていることや、流れがわかっていることは、子どもたちが主体的に学ぶためにとても大切なことです。

私たち教員は、子どもたち全員がわかるような授業をしようとして、苦手な児童生徒を対象に、ゆっくりと丁寧な指導をしてしまいがちです。しかしそれでは、上位層の子どもたちは手持ち無沙汰になり、力を伸ばすことが難しくなってしまいがちです。また、ゆっくりなら問題に向かえるけれど、スピードを求められると力を出し切れないということにもなってしまいます。

また課題提示の方法について、前田先生は、一人一人が自分の考えを持つために、「教員が選択肢を示す」ということもおっしゃっています。「さあ、考えてごらん」では、何を手がかりに考えたらよいかわからない子どもがいます。選択肢があれば「選ぶ」ことができ、苦手な子どもたちを効率的に全ての子どもが授業に参加することができるようになります。「選ぶ」ことができれば、なぜそれを選んだのか理由を問うことで、子どもたちは自分の考えを言語化しようとしてくれます。思考が定まるのです。

苦手な子どもたちも授業に参加でき、得意な子どもたちを飽きさせない・・・どの授業にも活かせるヒントではないでしょうか。

第二中学校では3人の数学の先生が1回ずつ、合計3回授業を公開されました。その約1週間前田先生に見ていただき、指導助言をいただきました。前田先生はいつも具体的に授業の場面を用いてわかりやすく指導をしてくださいます。今年度の公開授業は2月で終了しましたが、来年度も指定校として研究を続ける予定です。数学が専門ではない私が見ていても、とても参考になることがたくさんありましたので、来年度は他教科の先生方の参加もお待ちしております。

主体的・対話的で深い学びを実現し、子どもたちに生きる力をつけていくために、大人が学び続け、授業改善をし続ける姿を、子どもたちに見せていきたいと思います。



各校の学力向上の取組みから
(写真は羽田空港
自動手荷物預けシステム)

写真は、羽田空港の自動手荷物預け場所です。ここで働いている多くの方は、どこへ行ったのでしょうか。

このように、多くのシステムが自動化され、人手不足を補っています。または私たちの仕事を奪っているのかもしれませんが……。子どもたちが社会に出て行くとき、AI やロボットにはできない、人間にしかできない力が求められます。そういう力を、学校でつけていく必要があります。新学習指導要領は、社会の急速な変化にも対応できる資質・能力を育てていくことを求めています。

さて、2月に、市内小中学校25校全てを訪問させていただきました。学力向上担当の先生方の話を聞かせていただきました。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。今回は各校でお聞きしたことから「うまくいっている要因」について、一部紹介したいと思います。

～学習指導・家庭学習～

- 家庭学習ノートを学校全体で見ている、出していない生徒は最後までやらせる、週末に把握させる。
- 県立大学生の放課後支援
- 全校で写真に収め合う。
- めあてを子どもに話す。子どもの言葉でふりがえる様子を保護者にも聞いてもらう(行事等で)。
- ふりがえりに対して教員がコメントを返す。一次への意欲につなげる。
- ノーマディアのレベルを自分で決めさせる、良さを実感させる。(早く寝たら朝起きられたなど)
- 校内計算会・書き取り会(小学校)、互読力テスト(中学校)
- 低学年で丁寧に指導し、学習習慣をつける。
- 図書館活用教育
- 販売ワークシート通信教材の活用

～授業改善～

- 教員でグループ(学年、教科を超えて)を作って、互いに授業を見合う仕組みを作っている。
- 全教員が研究授業をして、互いに学びあった。
- 毎月一人1回の公開授業
- 学力調査問題を題材にした授業

～学級経営～

- 学級目標づくりの話し合い活動→全校集会で発表・園下に掲示

～教職員～

- 同じ方向を向いて仲良くできている。“壁崩”
- 学年部全員でやる協力体制→みんなできていることが子どもたちに伝わっている。
- 生徒指導、学習指導をみんなできている。
- それぞれの教員が互いに気づいたことを言い合える雰囲気がある。

ここに挙げたのはほんの一例です。大切なことは、学校として「目の覚めた子どもたちにつけたい力」を明らかにし、先生方一人一人が、授業をはじめとする全ての教育活動を関連づけていくことではないでしょうか。

私たちにお手伝いできることがあれば、いつでも声をかけてください。

はまだっ子共育プロジェクト実践集について（報告）

■実践集・・・別冊 25 ページ(市内 9 中学校区の活動を「地域学校協働活動」「放課後子ども活動」「家庭教育支援」に分類し掲載

■内 容・・・平成 30 年度の活動の中から 18 活動をピックアップ
統括コーディネーター、校区コーディネーター、魅力化コーディネーターが寄稿

〔発行あいさつ(抜粋)〕

はまだっ子共育プロジェクトは、地域ぐるみで子どもを育てることは地域も大人も共に育つということで 3 年前に取り組み始められたものです。

公民館は地域と学校、子どもをつなぐ場です。公民館にいる者として、いろいろ考えました。どんな子どもを育てるのか。どんな地域だと子どもは育つのか。地域ぐるみとは何か、教育担当者や教育組織の連携だけではないだろう、地域には多くの住民がいる。地域住民の意識をどう変え育てていくか。

今回紹介する実践報告はこうしたことを悩みながら取組んだ浜田市立公民館の一部の事例です。いずれも人と人とのふれ合いを大切にしながら取組んだものです。ふれ合いを通して子どもはもとより大人もきづきがあり成長していることが分かります。

さて、プロジェクトとしての 3 年間は終わり、来年度から次のステップに移行します。「はまだっ子共育推進事業」として「地域学校協働活動の推進」、「家庭教育支援活動の推進」を二つの柱として取組んでいきます。プロジェクトとして 3 年間取組んだ経験を基盤として新しい展開、特に学校と密接な連携を図りながら取組むことになります。

はまだっ子共育プロジェクト推進本部
委員長 岡本 修治

浜田市社会教育アドバイザーの委嘱及び平成 30 年度の活動について

1 設置目的

市民の社会教育活動を推進し、地域づくりを担う人材の育成、地域と学校の連携・協働を進めていく上で、浜田市の今後の社会教育の方向性、社会教育施設の在り方について指導・助言をもらう。

2 職務

- (1) 「浜田市教育大綱」の理念実現のための調査・研究
- (2) 社会教育活動並びに家庭教育の支援に係る指導及び助言
- (3) 社会教育活動の推進及び家庭教育の支援
- (4) 社会教育及び家庭教育に係る関係機関、関係団体等の連携及び連絡
- (5) 社会教育及び家庭教育に係る学習活動の情報収集及び提供
- (6) 学校及び地域住民その他の関係者が協力して行う教育活動に係る助言
- (7) 社会教育施設の運営に係る助言
- (8) その他の社会教育施策及び家庭教育に係る施策の推進

3 アドバイザー選任

長畑 実 氏(再選任)

4 委嘱期間

平成 31 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで

5 平成 30 年度活動報告（抜粋）

(1) 地域等からの依頼による講演会・講評活動

- ア 行政相談委員・人権擁護委員の会の依頼により、「浜田わがまち文化かおるまちー文化によるまちづくりに向けてー」と題して講演を行った。(7 月 11 日)
- イ 平成 30 年度はまだっ子共育プロジェクト研修会Ⅳにおいて、「支援から連携・協働へ 地域と学校の連携・協働活動の推進に向けて」と題して講演を行った。(9 月 26 日)
- ウ 旭自治区からの依頼により、平成 30 年度旭自治区まちづくり研修会において「人が輝きまちが輝く持続可能な地域づくり」と題して講演を行った。(11 月 14 日))
- エ 雲城公民館で開催されたボランティア感謝祭において、子どもの成長とボランティアについて講評を行った。(2 月 26 日)
- オ 三隅生涯学習推進本部からの依頼により、平成 30 年度「生涯学習のまち・地域づくり研修会」において、「人・まちが輝く 生涯学習を通じた人づくり・地域づくり」と題して講演を行った。(3 月 19 日)

(2) 社会教育委員の会等主な会議への出席とアドバイス活動

- ア 公民館職員研修会に出席し、これからの社会教育の重要性と公民館マネジメントの方向性について助言を行った。(5月8日)
- イ 平成30年度地域課題解決型公民館支援事業公開プレゼンテーション事前プレゼン発表会に出席し、石見公民館、美又公民館、白砂公民館のプレゼン発表に対するアドバイスをを行った。(5月22日)
- ウ 井野公民館において平成30年度地域課題解決型公民館支援事業公開プレゼンテーション事前プレゼン検討会に出席し、プレゼン発表に対するアドバイスをを行った。(5月23日)
- エ 第156回教育委員会定例会に出席し、文科省の教育政策のポイントと浜田市における社会教育、はまだっ子共育プロジェクトの現状と方向性について報告を行った。(5月29日)
- オ 第1回社会教育委員の会に出席し、社会教育の意義・重要性、国の政策動向等について助言を行った。(6月7日)
- カ 中央図書館における著作権関連案件について、著作権法と他自治体の図書館条例施行規則の調査研究に基づき助言を行った。(6月12日)
- キ 浜田公民館において開催された殿町のまちづくり推進協議会立ち上げに係るとのまち会議に出席し、助言を行った。(6月18日)
- ク 学校教育課との「はまだっ子共育プロジェクト連携会議」に出席するとともに、「今なぜ社会に開かれた教育課程が必要とされているか」をテーマとして講話を行った。(9月5日)
- ケ 平成30年度はまだっ子共育プロジェクト研修会Ⅳに出席し、「支援から連携・協働へ～地域と学校の連携・協働活動の推進に向けて～」をテーマとした講義を行った。(9月26日)
- コ 文化振興課より御便殿の展示企画設計について説明、相談を受け、今後、具体的な内容について協議、助言を行うこととなった。(11月2日)
- サ 平成30年度第1回浜田市立公民館館長研修において、中央教育審議会生涯学習分科会が作成した「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申案）」のポイントについて説明を行った。(11月26日)
- シ 第6回社会教育委員の会（第一会議室）に出席し、最新の中教審答申等における社会教育・生涯学習についてアドバイスをを行った。(1月16日)
- ス 雲城公民館において開催された雲城小学校ボランティア感謝祭の企画会に参加し、内容についてアドバイスをを行った。(1月30日)

(3) 一年間の活動の総まとめとしての提言書の作成を行った。

＜提言＞島根一の社会教育・生涯学習振興・推進都市浜田市をめざして

平成 30 年度 浜田市立図書館全館の利用状況

中央図書館と三隅図書館で開館 5 周年を迎えた平成 30 年度は、ボランティア団体の手厚い支援を受けながら事業を展開した結果、単年度の貸出しで初の 27 万冊を超え、2 月 22 日には中央図書館の来館者が通算 100 万人を超えが確認されるなど、大きな効果が見られました。

【実績表】

2 段目の()の数字は平成 29 年度実績

項 目(単位)	中央	金城	旭	弥栄	三隅	合計
来館者数 (人)	173,658 (170,747)	5,235 (5,965)	3,241 (2,304)	491 (585)	25,068 (24,565)	207,693 (204,166)
利用者数※ (人)	73,402 (70,573)	2,895 (2,706)	2,520 (1,880)	491 (585)	7,409 (7,296)	86,717 (83,040)
個人貸出点数※ (点)	253,227 (245,416)	9,066 (8,747)	7,740 (5,683)	1,642 (1,927)	27,611 (27,076)	299,286 (288,849)
利用団体数 (件)	194 (201)	21 (19)	15 (17)	0 (0)	38 (28)	268 (265)
団体貸出冊数 (冊)	8,468 (7,080)	874 (497)	2,044 (2,342)	0 (0)	1,305 (1,088)	12,691 (11,007)
予約・リクエスト 受付件数※ (件)	8,606 (8,184)	348 (345)	402 (360)	41 (40)	325 (361)	9,722 (9,290)
レファレンス 受付件数※ (件)	3,825 (3,676)	318 (444)	365 (166)	0 (0)	252 (242)	4,760 (4,528)
蔵書数※ (冊)	190,916 (174,271)	20,955 (20,247)	19,601 (18,755)	4,302 (4,128)	37,561 (36,450)	273,335 (253,851)
開館日数 (日)	331 (331)	302 (299)	301 (299)	301 (298)	301 (298)	—

注 1) 「※」の項目については、移動図書館車の実績を中央図書館にカウントしている。

(ア) 電子書籍の利用状況 (括弧内は H29 年度実績)

電子書籍コンテンツ数・・・1,822 点 (1,467 点)

電子書籍貸出点数・・・・・・ 194 点 (247 点)

(イ) 市民一人当たりの貸出冊数 (括弧内は H29 年度実績)

平成 31 年 3 月末浜田市人口・・・53,710 人 (54,586 人)

平成 30 年度個人貸出冊数・・・299,286 冊 (288,849 冊)

市民 1 人当たりの貸出冊数・・・・約 5.57 冊 (約 5.3 冊)

(仮称)浜田歴史資料館検討会の検討状況について

- 1 設置目的 (仮称) 浜田歴史資料館に関し、整備の方向性、整備するとした場合の場所、建設費、運営費等について、広く市民の意見を聴く。
- 2 検討会委員 識見者・各種団体からの推薦者 22名（名簿は裏面のとおり）
- 3 開催状況

(1) 第1回

- ア 日時 平成31年4月17日（水）18時30分～20時00分
イ 会場 浜田公民館 第1・2研修室
ウ 内容 経過説明と現状、検討事項と今後のスケジュール（別添第1回資料参照）
エ 委員からの意見(主なもの)

- ・「ハコモノ」を建てるということに、気持ちが先行している。郷土資料をきちんと保存、管理できる場所を作してほしい。
- ・建物を新たに建てる話を進めるなら、検討会では、その整備目的として、大切な資料の保存をきちんとする必要があるため、という議論を深め、市民の理解を得ることが必要ではないか。
- ・今回検討会出席の委員に対し、今までの検討会での検討内容と、今回の検討会での検討内容について、何が違うのかという説明が必要。
- ・自治区の意見を聞くことも大切である。地元の郷土資料が地元から無くなってしまうと反発する意見が出ている。
- ・なぜ歴史資料館を作らなければならないか、という目的の設定と、KPI(重要目標達成指標)の設定が必要になる。具体的な歴史資料館整備案を市から提案いただき、次回の検討会では、この仕様のものを整備するためにはこのくらいの予算がかかる、という共通認識を検討会委員全員で持つ必要がある。

(2) 第2回

- ア 日時 令和元年5月21日（火）18時30分～20時00分
イ 会場 浜田市役所 本庁4階講堂ABC
ウ 内容 平成28年度整備計画に対する意見を踏まえた見直し案の説明、中期財政計画、公共施設再配置の取組について（別添第2回資料参照）

4 今後のスケジュール（予定）

6月	第3回検討会 ・現地視察 ・資料館整備案検討
7月	第4回検討会 ・資料館整備案とりまとめ
9月	議会に検討会での検討結果を報告

※（仮称）浜田歴史資料館検討会 委員名簿

No.	所属	職名	氏名	選出区分
1	島根県立大学	准教授	西藤 真一	識見者
2	島根県立大学	准教授	豊田 知世	識見者
3	浜田市文化協会	会 長	田中耕太郎	団体推薦
4	石見郷土研究懇話会	会 長	岩町 功	団体推薦
5	浜田市浜田郷土資料館友の会	会 長	西川 正毅	団体推薦
6	浜田市社会教育委員の会	会 長	富金原 完	団体推薦
7	浜田市教育研究会社会科部会	部 長	樋野 淳巳	団体推薦
8	浜田市 PTA 連合会	会 長	佐々木洋平	団体推薦
9	浜田市 PTA 連合会母親委員会	委員長	坂井志穂美	団体推薦
10	浜田商工会議所	副会頭	福濱 秀利	団体推薦
11	石央商工会	会 長	楨岡 正明	団体推薦
12	浜田商工会議所青年部	会 長	金田 康平	団体推薦
13	石央商工会青年部	部 長	久保田 総	団体推薦
14	浜田市観光協会	代表理事	岩谷百合雄	団体推薦
15	浜田青年会議所	副理事長	森脇 翼	団体推薦
16	浜田女性ネットワーク	会 員	鎌原ヤシエ	団体推薦
17	浜田市高齢者クラブ連合会	会 長	新田 勝己	団体推薦
18	浜田自治区地域協議会	会 長	村井栄美子	団体推薦
19	金城自治区地域協議会	委 員	岡本 朋博	団体推薦
20	旭自治区地域協議会	委 員	岩田 直久	団体推薦
21	弥栄自治区地域協議会	副会長	岡本 薫	団体推薦
22	三隅自治区地域協議会	委 員	大山 祐司	団体推薦

※浜田市文化協会からの委員：第1回 開催時は山崎晃前会長

(仮称)浜田歴史資料館整備事業

経過説明と検討事項

1 経緯

(1) 「博物館」構想

平成 12 年から「博物館」構想に関する検討事案があったが、財政上の問題等から実施できず、長年の懸案であった。

平成 12 年 (仮称)浜田総合博物館基本構想

平成 14 年 (仮称)浜田総合博物館基本計画

平成 21 年 中央図書館整備との併設検討

(2) 既存資料館の現状

各自治区に点在する資料館は老朽化が進んでいる。

施設名	延床面積	建築年	築年数 (平成 31 年現在)	管理方法
浜田郷土資料館	480 m ²	昭和 35 年	60 年	指定管理
金城民俗資料館	269 m ²	昭和 48 年	47 年	指定管理
金城歴史民俗資料館	175 m ²	昭和 48 年土蔵改装		
旭歴史民俗資料館	388 m ²	昭和 56 年	39 年	直営
弥栄郷土資料展示室	174 m ²	昭和 14 年築を改装 平成 17 年現在地開設	15 年	直営
三隅歴史民俗資料館	406 m ²	昭和 54 年	41 年	直営

(3) 浜田城周辺整備検討会

開府 400 年事業の一環として、平成 27 年 11 月から検討を開始し、平成 29 年 3 月までに全 10 回を開催した。(仮称)浜田歴史資料館整備基本方針(案)の取りまとめに際し、次のとおり検討会としての意見をまとめた。

検討会としては、資料館整備を進めたいという総意を持った。資料館整備後は、市民への説明責任を果たすため、その効果の検証を行う必要がある。その点で、財政的負担をできる限り抑制しなければならない。

このプロジェクトが市民に受け入れられるために、教育委員会、学校としっかりと連携してほしい。子どもたちがメインで活用する教育施設であり、収益施設ではないので、そのことに関して、その重みを市でしっかりと考えなければならない。

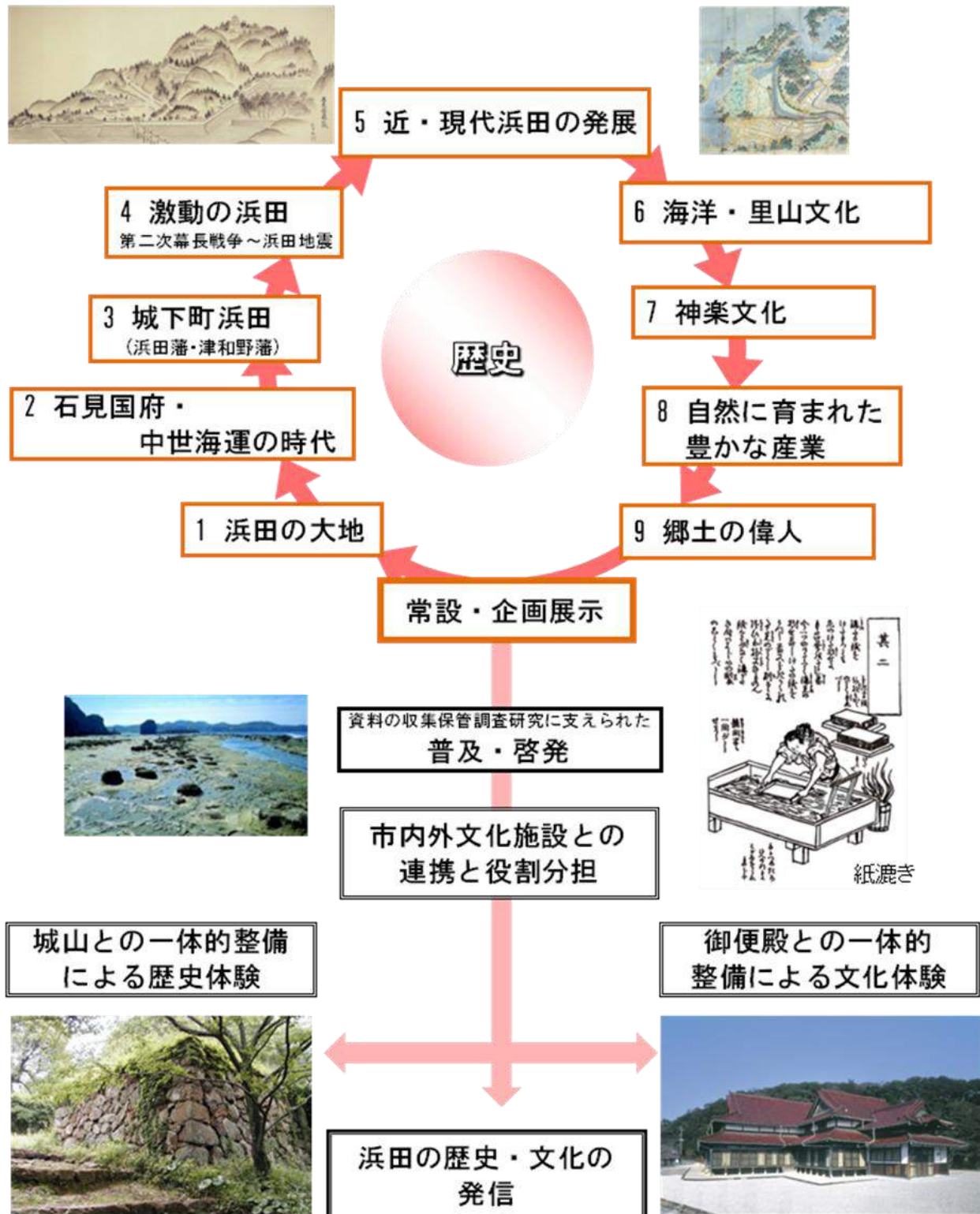
2 (仮称)浜田歴史資料館整備基本方針(案)【平成 28 年度提案】について

(1) 目的

「歴史文化の保存と継承」、「ふるさと郷育」、「市民や観光客の交流」の拠点として、とりわけ、子どもたちの郷土愛を育む教育的施設として活用する。また、点在する市内の歴史文化資源への案内機能を担う。

(2) 機能

浜田の歴史と文化の紹介・発信



(3) 概要

ア 設置場所 浜田城周辺(御便殿付近)

イ 施設概要・展示内容

施設名	延床面積	構造	展示内容
本館 (新設)	1,445 m ²	鉄筋コンクリート 2階建	浜田の歴史(全般)、浜田城、郷土の偉人、企画展示、映像シアターほか
別館 (御便殿)	539 m ²	木造平屋建	石見神楽、産業文化、御便殿ほか
合計	1,984 m ²		

(4) 整備費

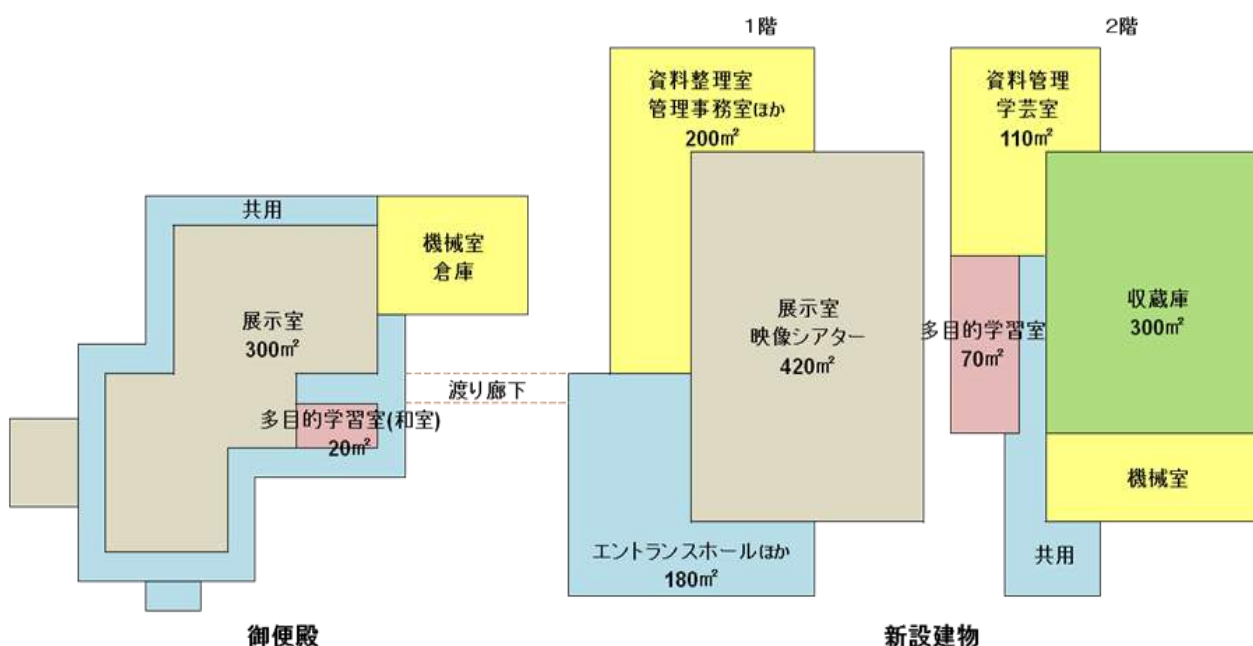
整備費	1,128 百万円	財源	1,128 百万円
内訳		内訳	
本館(新設)	730 百万円	ふるさと寄附	848 百万円
別館(御便殿)	140 百万円	過疎債	280 百万円
共通(調査設計、展示ソフトなど)	258 百万円		

(5) 運営費(年間見込額)

支出(46.0 百万円)－収入(2.7 百万円) = 43.3 百万円 ①

既設資料館及び御便殿の統廃合効果額 10.7 百万円 ②

実質増額 32.6 百万円 ①－②



3 (仮称)浜田歴史資料館整備基本方針(案)に対する意見について

(1) 事業説明会・意見聴取

ア 浜田市議会

事業説明会、意見交換会を5回開催

(平成27年1月、12月、平成28年9月、11月、1月)

イ 地域協議会

各自治区地域協議会、地域協議会正副会長連絡会議、地域協議会合同会議において事業説明・意見聴取を4回実施

(平成27年1月～3月、平成28年10月、平成29年1月、2月)

ウ 浜田市内小中学校

市内小中学校に対し、資料館整備に関するアンケートを2回実施

(平成27年1月、平成28年11月)

エ (仮称)浜田歴史資料館整備事業説明会

市民を対象とした事業説明会を3回開催(浜田会場、東部会場、西部会場)

(平成29年2月)

オ パブリックコメント

(仮称)浜田歴史資料館整備基本方針(案)に対するパブリックコメントを実施(307件(123人)の意見提出)

(平成29年1月～3月)

(2) 市民の意見

ア 主な賛成意見

- ・ ふるさと郷育のために必要な施設である。
- ・ 貴重な資料の収集、保存・継承は、市民の責務である。
- ・ 郷土歴史家の育成拠点としてほしい。
- ・ 学問・文化レベルの維持のためには必要である。
- ・ 市内に点在する地域資源へとつながる軸となつてほしい。

イ 主な反対意見

- ・ ハコモノを整備する時代でない。負の遺産となる。⇒公共施設再配置の問題
- ・ 事業費が高額である。⇒事業費の問題
- ・ 他に優先すべき事業がある。ふるさと寄附は福祉事業等に活用してほしい。⇒優先順位、財源の問題
- ・ 高額な維持管理費が市民の負担となる。⇒維持管理費の問題

- ・ 津波・浸水の恐れがある。⇒立地に係る安全性の問題
- ・ 各自治区資料館保管の郷土資料は 1 か所に集約すべきではない。⇒地元郷土資料分散の問題

ウ 提案その他の意見

- ・ 既存施設(こども美術館など)を活用すべき。⇒既存施設活用の問題
- ・ バーチャルの活用
- ・ 浜田市全体の都市計画・施設配置計画が必要である。⇒ゾーニングの問題

(3) 浜田市議会における予算案の取下げ

議会、事業説明会、パブリックコメント等において、賛成のご意見を頂いた一方、整備の必要性はあるものの財政的な負担や他事業の優先順位等の懸念により反対や慎重な意見を多く頂いたことから、多くの人から賛同が得られる整備案を再検討するため、平成 29 年 3 月議会定例会に上程した資料館整備に関する平成 29 年度一般会計当初予算案の取下げを行った。

4 浜田市公共施設再配置方針との関係

既存資料館における再配置方針

浜田市公共施設再配置方針では重複施設の解消の観点から、既存資料館を統廃合する方針としている。

これを踏まえて、教育委員会は浜田市資料館運営協議会及び文化財審議会に対し既存資料館等の統廃合の在り方について諮問し、平成 28 年 7 月 28 日に次のとおり答申を受けた。

施設の老朽化や維持管理、体制をはじめ、今後の建替えや大規模改修に対し、現状の在り方では維持できない状況にあり、統廃合は止むを得ないものと考えられることから、既存の 6 施設を次のとおり 2 施設に統廃合する。

- ① 浜田市浜田郷土資料館、浜田市旭歴史民俗資料館、浜田市三隅歴史民俗資料館及び浜田市弥栄郷土資料展示室を 1 施設に統廃合する。
- ② 浜田市金城民俗資料館と浜田市金城歴史民俗資料館を 1 施設に統廃合する。

※ 上記①は、金城以外の 4 施設を 1 施設に統廃合し、②は金城の 2 施設を 1 施設に統廃合するもので、この検討会では、①に関する資料館整備の検討を行う。

5 支所における展示計画

各資料館の地元郷土資料をより多くの人が観覧できる機会を提供するため、支所の空きスペースを活用し、収蔵資料の一部を展示する。

ア 平成 31 年度

支所名	展示場所・延床面積	展示資料
三隅	1 階 右側フロア 現 産業建設課 約 54 m ²	・漁具などの民具
弥栄	弥栄会館	・考古資料(土器・陶磁器) ・山村生活の民具

イ 平成 32 年度

支所名	展示場所・延床面積	展示資料
金城	1 階 左側フロア 現 市民福祉課 21.3 m ²	・岡本甚左衛門関係古文書 ・山村生活の民具
旭	2 階 左側 元ミーティングルーム 30 m ²	・考古資料(土器・瓦・土師器・陶磁器) ・古文書(本陣立札・村誌類) ・産業(鉄滓・石見焼・瓦) ・偉人(佐々田懋 服部之聡 湯浅啓温 野田管麿)

6 今後の資料館整備に係る検討事項とスケジュール

(1) 資料館整備に係る検討会での検討事項

整備の方向性、整備するとした場合の場所、建設費、運営費など

(2) 今後のスケジュール(予定)

平成 31 年 4 月	第 1 回検討会 ・経過説明と検討事項の提示
5 月	第 2 回検討会 ・浜田市財政状況及び公共施設再配置計画説明 ・資料館整備案の説明、検討
6 月	第 3 回検討会 ・現地視察 ・資料館整備案検討
7 月	第 4 回検討会 ・資料館整備案とりまとめ
8 月	
9 月	議会に検討会での検討結果を報告

(仮称)浜田歴史資料館の整備案について

1 平成28年度(仮称)浜田歴史資料館整備計画とそれに対する意見

(1) 当初計画の概要

施設名	延床面積	構造	展示内容
本館 (新設)	1,445 m ²	鉄筋コンクリート造 2階建	浜田の歴史(全般)、浜田城、郷土の偉人、 企画展示、映像シアターほか
別館(御便殿)	539 m ²	木造平屋建	石見神楽、産業文化、御便殿ほか
合計	1,984 m ²		

(2) 当初計画の整備費及び運営費

整備費	1,128 百万円	運営費(年間見込額)	43.3 百万円
内訳		内訳	
本館(新設)	818 百万円	支出(46.0 百万円)― 収入(2.7 百万円) ①	43.3 百万円
別館(御便殿)	150 百万円	既存資料館及び御便殿 の統廃合効果 ②	10.7 百万円
展示関係	160 百万円	実質増額 ①-②	32.6 百万円



西側(浜田川方向)からのイメージ
＜新設建物(左)と御便殿(右)＞



東側(商工会議所方向)からのイメージ
＜御便殿(左)と新設建物(右)＞

(3) 当初計画に対する意見

(仮称)浜田歴史資料館の整備計画に寄せられた意見には、賛成意見がある一方で、次のような反対意見や慎重な意見、提案を頂いた。

- ・事業費が高額であること(11億2,800万円)
- ・維持管理費が高額であること(年間の実質増額3,300万円)
- ・優先する事業があるのではないか
- ・建物整備をする時代ではないこと
- ・立地に係る安全性(津波、浸水の不安)に懸念があること
- ・既存施設の活用を検討すべき(図書館、美術館の利用)

2 見直し案

平成 28 年度整備計画に対する意見を踏まえて、整備の方向性、整備するとした場合の場所、建設費、運営費などを中心に以下 3 つの案について提案する。

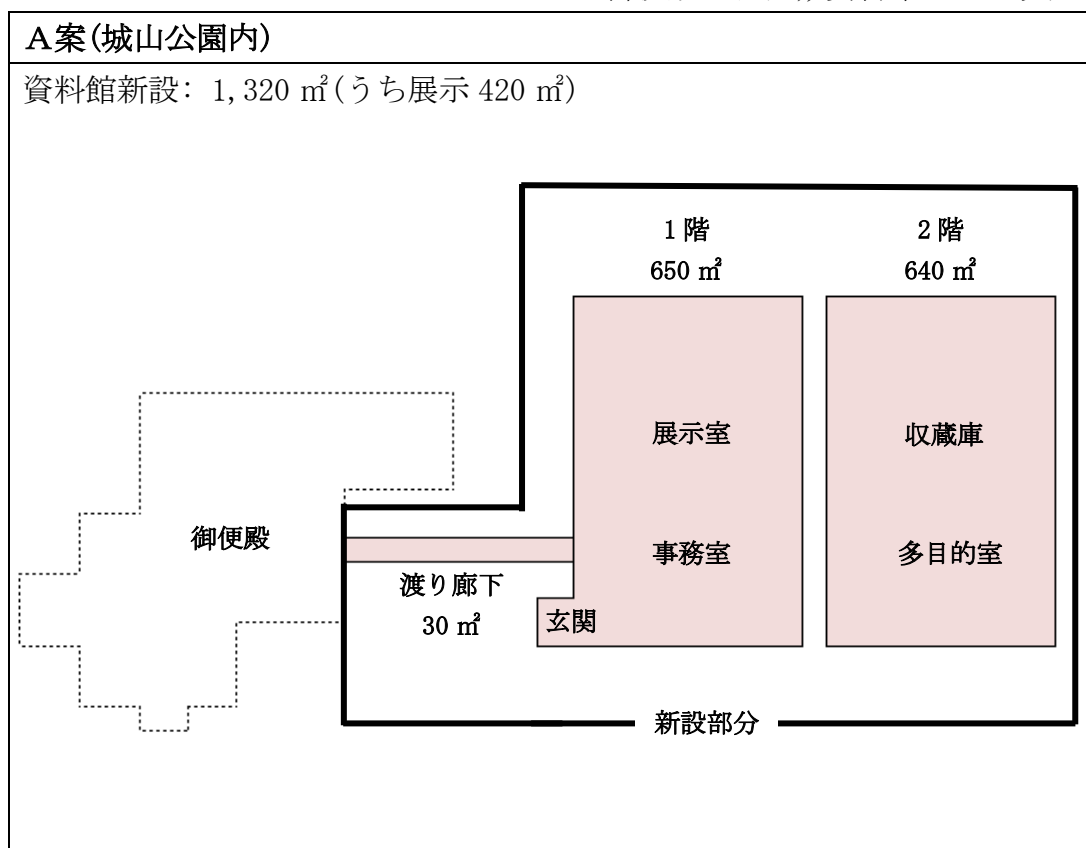
単位：㎡			単位：㎡		
区分		当初	A 案 (面積縮小)	B 案	C 案
位置等		城山公園内 御便殿周辺 に整備	城山公園内 御便殿周辺 に整備	中央図書館 隣接地に整備	こども美術館 を一部改修し 建物海側に 増設
全体面積		1,445	1,320	1,640	520
内 訳	展示室	420	420	420	420
	収蔵庫	300	300	300	0 (既存施設の 改修により 対応)
	事務室	100	30	30	0
	玄関関係	130	80	300	0
	トイレ	50	50	50	0
	その他	445	440	540	100
御便殿		539	浜田城資料館として改修中のため省略		

各案の詳細は次ページ以降

3 3 案（A～C案）の詳細について

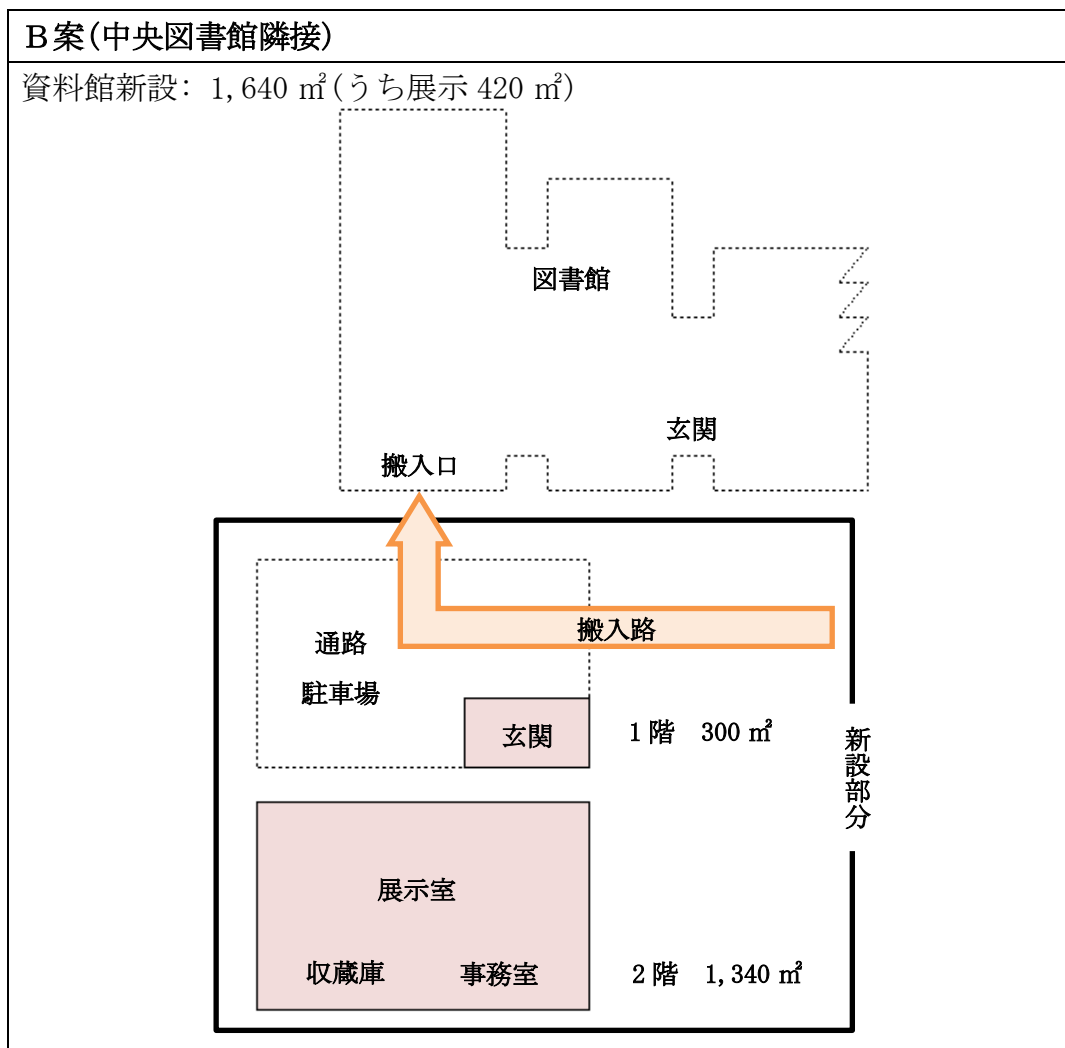
A 案：城山公園内（御便殿周辺）に整備

※御便殿：浜田城資料館として改修



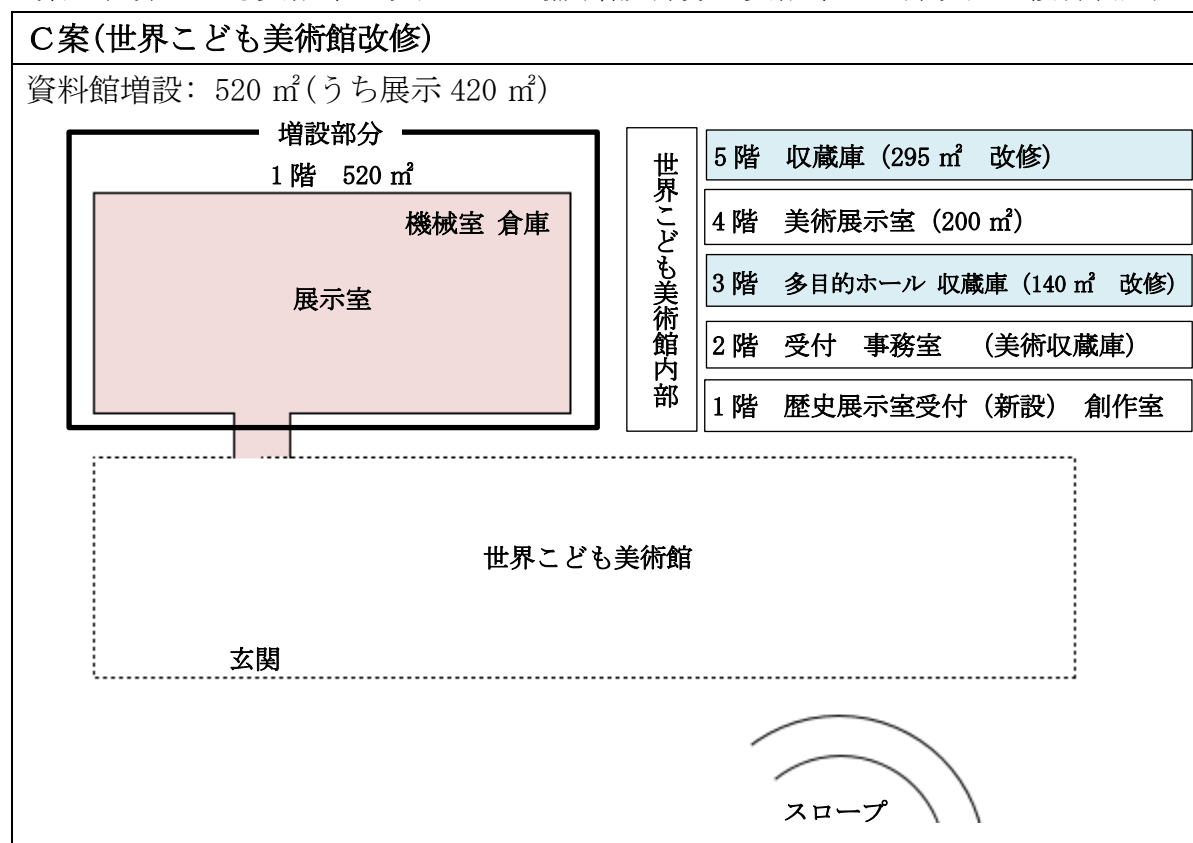
	全 体	面積 (単位: m ²)	概 要
		1,320	
用 途	展示室	420	常設展示室、企画展示室
	収蔵庫	300	収蔵庫（古文書・歴史）、特別収蔵庫
	事務室	30	職員 7 人
	玄関等	80	玄関、エントランス
	トイレ	50	男性、女性、多目的
	その他	440	機械室、荷解室、廊下、階段、渡り廊下
<p>この案の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田城資料館との一体的活用を図ることができる。 ・城山公園内であることから、自然や歴史的環境に恵まれている。 <p>※ 御便殿付近の津波による最大の浸水の深さは 30cm 未満(出典:浜田市津波ハザードマップ)であることから、展示物への影響はないものと思われる。</p>			

B案：中央図書館に隣接して整備



	全 体	面積 (単位: m ²)	概 要
		1,640	
用 途	展示室	420	常設展示室、企画展示室
	収蔵庫	300	収蔵庫 (古文書・歴史)、特別収蔵庫
	事務室	30	職員 6 人
	玄関等	300	玄関、1 階・2 階エントランス
	トイレ	50	男性、女性、多目的
	その他	540	機械室、荷解室、廊下、階段、EV
<p>この案の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物資搬入路及び駐車場を確保するために 1 階を下駄履き形式の 2 階建とする。 ・ 構造上、玄関、エントランス、廊下等の面積が広がる。 ・ 図書館と隣接することで、相互活用を図ることができる。 			

C案：世界こども美術館を改修して整備(増設部分と美術館の一部改修で複合利用)



	全 体	面積 (単位: m ²)	概 要
		増設: 520 + 美術館改修: 566	
用 途	展示室	420	増設 別に美術展示室 200 m ²
	収蔵庫	0	既存展示室を改修 430 m ²
	事務室	0	美術館と共用 職員 3 人
	トイレ	0	美術館と共用
	玄関等	0	美術館と共用
	その他	100	増設 機械室、倉庫

この案の特徴

- ・美術館 1 階の海側に歴史展示室を増設
- ・博物館系の類似施設として一体的な施設とすることができる。
- ・施設の複合化により事務室やトイレ、玄関等を共用できる。

※ (仮称) 浜田歴史資料館と世界こども美術館の複合化における考え方
複合化した場合には、新たな展示室及び収蔵庫の確保が必要となるが、美術館の構造上、展示ケースの設置が困難なため、展示室は別棟を増設し、収蔵庫は美術館内の改修により確保するもの

4 整備費及び運営費の比較

ア 整備費

単位：百万円

区分	H28 年度提案	
	H28 試算	R1 試算
全体面積(㎡)	1,445	1,445
資料館(新設・増設)	818	916
資料館展示関係	160	302
美術館(改修)	—	—
御便殿(改修・ソフト)	150	82
整備費合計	1,128	1,300

単位：百万円

A 案	B 案	C 案
1,320	1,640	520
844	1,087	315
302	302	302
—	—	176
82	82	82
1,228	1,471	875

イ 運営費

単位：百万円

区分			H28 年度提案	
			H28 試算	R1 試算
運 営 費	歴 史 資 料 館	人件費	9	26
		職員数	館長 0 人 職員 0 人 臨時等 4 人 文化振興課職員 4 人	館長 1 人 職員 2 人 臨時等 4 人
		施設管理費	34	42
		小計	43	68
	御 便 殿	人件費	—	—
		職員数	—	—
		施設管理費	—	—
		小計	—	—
	合 計		43	68
	既存施設運営費減額分 ※①	美術館(現行 60 百万円)		
		郷土資料館等(現行 10 百万円)	△10	△10
整備後の実質増額分			33	58

単位：百万円

A 案	B 案	C 案
26	24	11
館長 1 人 職員 2 人 臨時等 4 人	館長 1 人 職員 2 人 臨時等 3 人	館長 0 人 職員 1 人 臨時等 2 人
38	34	13
64	58	24
—	3	3
—	臨時等 2 人	臨時等 2 人
—	4	4
—	7	7
64	65	31
		△10
△10	△10	△10
54	55	11

※① 既存施設運営費減額分：(仮称)浜田歴史資料館の完成に伴い、削減可能な運営費

(注) 各案にかかわらず、世界こども美術館では、別途約 150,000 千円修繕費が必要(空調修理、外壁修繕)

5 「浜田市中期財政計画」との関係

平成 30 年度中期財政計画の事業費（1,128 百万円）との差

区分	A 案	B 案	C 案
整備費	1,228 百万円	1,471 百万円	875 百万円
1,128 百万円との差額	+100 百万円	+343 百万円	▲253 百万円

6 「浜田市公共施設再配置方針」との関係

ア 既存施設の方針（平成 28 年 3 月作成方針）

既存施設名	施設別方針	延床面積
浜田郷土資料館	統廃合	479.48 m ²
金城民俗資料館	統廃合	268.20 m ²
金城歴史民俗資料館	統廃合	174.22 m ²
旭歴史民俗資料館	統廃合	387.13 m ²
弥栄郷土資料展示室	統廃合	173.07 m ²
三隅歴史民俗資料館	統廃合	405.74 m ²
合 計		1,887.84 m ²

（参考）1,887.84 m²×7 割＝1,321.49 m²

イ 70%試算延床面積（1,321.49 m²）との差

区分	A 案	B 案	C 案
面 積	1,320 m ²	1,640 m ²	520 m ²
1,321.49 m ² との差	▲1.49 m ²	+318.51 m ²	▲801.49 m ²

※現在、支所空スペース等を活用した資料展示を検討中。

また、金城民俗資料館、金城歴史民俗資料館については存続を検討中。

中期財政計画 及び見通し

- 「将来に責任ある持続可能な財政運営」を目指して -

計画期間 平成30年度～平成34年度（5年間）
見通し期間 平成35年度～平成39年度（5年間）

《抜 粋》

平成30年12月

浜田市

4 財 政 計 画

【第1表 歳入内訳】

	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
1. 地 方 税	億円 74	億円 73	億円 72	億円 70	億円 69	億円 85	億円 82	億円 80	億円 78	億円 76
内 市民税	29	29	28	27	27	27	27	26	26	26
内 固定資産税	39	39	39	37	37	53	50	48	46	45
2. 地方譲与税、各種交付金	億円 16	億円 18	億円 19	億円 19	億円 19	億円 19	億円 19	億円 20	億円 20	億円 20
3. 地方交付税	億円 122	億円 122	億円 119	億円 116	億円 117	億円 103	億円 102	億円 100	億円 97	億円 96
内 普通交付税	108	108	106	103	104	90	89	87	84	83
内 特別交付税	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13
4. 使用料、手数料	億円 6	億円 6	億円 6	億円 6	億円 6	億円 6	億円 6	億円 6	億円 6	億円 6
5. 国、県支出金	億円 110	億円 83	億円 71	億円 76	億円 81	億円 70	億円 70	億円 71	億円 72	億円 69
6. 繰 入 金	億円 15	億円 23	億円 9	億円 12	億円 10	億円 8	億円 8	億円 7	億円 6	億円 5
内 財政調整基金		0	1	6	5	2	2	2		
内 減債基金*	1	8	1	1						
内 地域振興基金*	4	6								
内 まちづくり振興基金*	2	2	2	2	1	1	1	1	1	
内 ふるさと応援基金	5	3	3	2	4	5	5	5	5	5
内 市有財産有効活用推進基金	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
内 市民生活安定化基金	2	0	1							
7. 地 方 債	億円 55	億円 46	億円 29	億円 31	億円 30	億円 27	億円 32	億円 34	億円 34	億円 35
内 合併特例債	15	10	5	3	2			3		
内 過疎・辺地対策事業債	17	22	11	14	14	11	17	13	15	16
内 公共事業等債・資金手当債	5	0	1	3	3	4	3	5	8	3
内 臨時財政対策債(可能額)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
8. その他の収入	億円 33	億円 25	億円 21	億円 21	億円 22	億円 22	億円 20	億円 19	億円 17	億円 18
内 ふるさと寄附金	10	8	6	6	6	6	6	6	6	6
内 繰越金	5						0	△ 0	△ 2	△ 1
歳入合計	億円 431	億円 395	億円 345	億円 351	億円 354	億円 340	億円 339	億円 336	億円 330	億円 324

【第2表 収支・基金内訳】

項 目	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
歳 入 総 額	億円 431	億円 395	億円 345	億円 351	億円 354	億円 340	億円 339	億円 336	億円 330	億円 324
正味の歳入総額*	426	388	345	345	349	340	339	336	332	326
歳 出 総 額	億円 431	億円 395	億円 345	億円 351	億円 354	億円 339	億円 339	億円 338	億円 331	億円 325
正味の歳出総額*	421	384	345	351	354	339	339	338	331	325
歳入歳出差額	億円 0	億円 △ 0	億円 △ 0	億円 △ 6	億円 △ 4	億円 0	億円 △ 0	億円 △ 2	億円 △ 1	億円 △ 1
正味の歳入歳出差額	5	4	△ 0	△ 6	△ 4	0	△ 0	△ 2	0	1
基金年度末現在高(普通会計)	億円 149	億円 137	億円 132	億円 124	億円 119	億円 118	億円 116	億円 114	億円 112	億円 111
財政調整基金	40	43	42	36	31	29	27	26	26	26
減債基金	41	34	33	33	34	36	36	37	38	39
まちづくり振興基金	27	25	23	22	21	20	19	18	17	17
地域振興基金	6									
ふるさと応援基金	21	21	21	22	22	20	19	17	16	14
その他基金	15	14	12	11	11	13	14	16	16	15

【第3表 歳出内訳】

	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
1. 人件費	億円 60	億円 59	億円 64	億円 63	億円 62	億円 61	億円 60	億円 59	億円 59	億円 58
内 議員報酬手当	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
内 特別職給与	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
内 職員給	51	50	49	48	47	47	46	45	45	44
正規職員数 () 内は再任用含む職員数	615人 (627 人)	605人 (626 人)	590人 (630 人)	582人 (625 人)	572人 (616 人)	559人 (615 人)	550人 (596 人)	543人 (585 人)	534人 (583 人)	529人 (576 人)
2. 物件費	億円 43	億円 42	億円 38	億円 39	億円 38	億円 38	億円 38	億円 39	億円 38	億円 37
3. 扶助費	億円 71	億円 72	億円 74	億円 74	億円 75	億円 76	億円 77	億円 77	億円 78	億円 79
4. 補助費等	億円 42	億円 42	億円 37	億円 34	億円 33	億円 32	億円 31	億円 31	億円 30	億円 29
5. 投資的経費	億円 104	億円 62	億円 28	億円 35	億円 39	億円 25	億円 30	億円 32	億円 32	億円 30
内 自治区枠	7	5								
内 共通枠	97	57	28	35	39	25	30	32	32	30
再掲 旧那賀郡施工分	10	13	13							
再掲 公共施設の整備・改修	24	33	10	19	27	14	13	13	12	10
6. 公債費	億円 57	億円 62	億円 56	億円 56	億円 58	億円 56	億円 54	億円 50	億円 47	億円 45
内 繰上償還額(ア)	4	7								
(ア)による繰上償還影響額		△ 0	△ 1	△ 1	△ 1	△ 1	△ 1	△ 1	△ 1	△ 1
7. 積立金	億円 11	億円 9	億円 4	億円 4	億円 4	億円 7	億円 6	億円 6	億円 4	億円 4
内 財政調整基金	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0
内 減債基金	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
内 ふるさと応援基金	5	4	3	3	3	3	3	3	3	3
内 市有財産有効活用推進基金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内 市民生活安定化基金	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0
8. 繰出金	億円 37	億円 40	億円 40	億円 40	億円 40	億円 39	億円 39	億円 38	億円 38	億円 37
9. その他	億円 5	億円 5	億円 5	億円 5	億円 5	億円 5	億円 5	億円 5	億円 5	億円 5
歳出合計	億円 431	億円 395	億円 345	億円 351	億円 354	億円 339	億円 339	億円 338	億円 331	億円 325

【第4表 財政指標】

区 分	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
標準財政規模*	億円 203	億円 204	億円 203	億円 199	億円 199	億円 200	億円 196	億円 191	億円 187	億円 184
財政力指数*	0.397	0.396	0.395	0.394	0.395	0.418	0.440	0.463	0.463	0.464
経常収支比率*	% 92.5	% 93.7	% 96.1	% 99.0	% 99.0	% 96.0	% 96.0	% 96.4	% 96.6	% 96.3
実質公債費比率	% 10.6	% 11.2	% 11.6	% 12.4	% 12.7	% 12.8	% 12.3	% 11.6	% 10.9	% 10.1
地方債残高	億円 543	億円 531	億円 508	億円 485	億円 461	億円 435	億円 417	億円 404	億円 394	億円 388

6 主要事業

事業年度							
区分	平成29年度以前	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度以降
	26 百万円	99 百万円	38 百万円	25 百万円	92 百万円	36 百万円	59 百万円
継続	市有財産有効活用推進事業【全自治区】 3億7,500万円（2,600万円）						
継続		9 百万円	117 百万円	176 百万円	22 百万円		
		旭支所庁舎複合化・周辺整備事業【旭】 3億2,400万円（1億100万円）					
新規			24 百万円	21 百万円			
			CATV中継局舎設備増設事業 【旭・弥栄】 4,500万円（1,400万円）				
継続	0百万円	6 百万円		17 百万円	217 百万円		
		子育て支援のための拠点施設整備事業【浜田】 2億4,000万円（7,900万円）					
継続	375 百万円	26 百万円	33 百万円	44 百万円	45 百万円		
		元谷団地園場整備事業【金城】 5億2,300万円（1億8,000万円）					
継続	128 百万円	1,569 百万円	1,855 百万円	137 百万円	923 百万円	1,898 百万円	
		高度衛生管理型荷捌所整備事業【浜田】 65億1,000万円（3億4,400万円）					
新規			579 百万円				
			(仮称)浜田港公設市 場整備事業 【浜田】 5億7,900万円 (1億7,700万円)				
継続	180 百万円	21 百万円	26 百万円				
		谷線道路改良事業【弥栄】 2億2,700万円（3,300万円）					
継続	129 百万円	69 百万円	68 百万円	32 百万円	32 百万円	31 百万円	395 百万円
		戸地線改良事業【旭】 7億5,600万円（1億1,700万円）					
継続	103 百万円	259 百万円	261 百万円	299 百万円	173 百万円		
		浜田駅周辺整備事業【浜田】 10億9,500万円（2億3,900万円）					

事業年度							
区分	平成29年度以前	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度以降
継続	1 百万円	172 百万円	114 百万円				
	浜田駅前広場整備事業【浜田】 2億8,700万円（9,700万円）						
継続		31 百万円	21 百万円	16 百万円	21 百万円	21 百万円	100 百万円
	井野37号線道路改良事業【三隅】 2億1,000万円（2,900万円）						
継続	202 百万円	175 百万円	110 百万円				
	城山公園整備事業（浜田城周辺整備事業）【浜田】 4億8,700万円（1億600万円）						
新規			3 百万円	46 百万円	63 百万円	73 百万円	63 百万円
	公共残土等処理場整備事業【三隅】 2億4,800万円（0万円）						
継続						108	242 百万円
							長沢公民館整備事業【浜田】 3億5,000万円（1億500万円）
継続			25 百万円	240 百万円	98 百万円		
				（仮称）杵束地区コミュニティ施設整備事業【弥栄】 3億6,300万円（1億1,300万円）			
継続						69	1,059 百万円
							（仮称）浜田歴史資料館整備事業【浜田】 11億2,800万円（4億6,400万円）
継続		33 百万円	100 百万円				
	浜田市野球場施設改修事業【浜田】 1億3,300万円（4,100万円）						
新規		9 百万円	73 百万円				
	浜田城資料館整備事業【浜田】 8,200万円（0万円）						

※ 事業費ベースで記載しています。ただし、（）内は実質市負担を表します。

※ “区分”については、今年度の計画策定において新たに掲載した事業を“新規”、前年度策定の計画で掲載されていたものは“継続”としています。

※ テキストボックスの右側矢印がない事業は平成36年度以降も事業が継続しています。

県内8市健全化判断比率（速報値）の状況について

団体名	平成29年度		県内順位		全国都市順位		全国市区町村順位	
	実質公債費比率	将来負担比率	実質公債費比率	将来負担比率	実質公債費比率	将来負担比率	実質公債費比率	将来負担比率
松江市	14.6 %	108.8 %	5 位	4 位	773 位	717 位	1,674 位	1,595 位
浜田市	10.1 %	72.3 %	1 位	1 位	596 位	607 位	1,301 位	1,385 位
出雲市	16.6 %	165.4 %	8 位	8 位	800 位	800 位	1,719 位	1,717 位
益田市	14.8 %	132.8 %	6 位	7 位	778 位	767 位	1,682 位	1,675 位
大田市	13.6 %	94.0 %	4 位	3 位	755 位	680 位	1,631 位	1,530 位
安来市	15.9 %	130.7 %	7 位	6 位	791 位	765 位	1,708 位	1,670 位
江津市	13.4 %	119.6 %	3 位	5 位	748 位	740 位	1,620 位	1,631 位
雲南市	11.0 %	91.3 %	2 位	2 位	652 位	677 位	1,429 位	1,519 位

全国都市＝814団体

全国市区町村＝1,741団体、実質公債費比率平均6.4%、将来負担比率平均33.7%

【用語解説】

用語	実質公債費比率	将来負担比率
説明	<p>実質的な公債費（地方債の元利償還金）が財政に及ぼす負担を表す指標です。</p> <p>毎年度経常的に収入される財源のうち、公債費や公営企業債に対する繰出金などの公債費に準ずるものを含めた実質的な公債費相当額に充当されたものの占める割合です。</p> <p>地方債協議制度の下では、18%以上の団体は、地方債の発行に際し許可が必要となります。</p>	<p>地方公共団体の一般会計等（普通会計）の借入金や将来支払う可能性がある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来、財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す比率です。</p> <p>350%以上の団体は、早期健全化団体として指定されます。</p>

浜田市	実質公債費比率	将来負担比率	県内順位		全国都市順位		全国市区町村順位	
			実質公債費比率	将来負担比率	実質公債費比率	将来負担比率	実質公債費比率	将来負担比率
平成28年度	9.9 %	82.6 %	1 位	2 位	563 位	637 位	1,245 位	1,450 位
平成27年度	10.6 %	93.1 %	1 位	3 位	574 位	666 位	1,277 位	1,506 位
平成26年度	12.0 %	106.5 %	1 位	3 位	612 位	678 位	1,346 位	1,526 位
平成25年度	13.4 %	115.8 %	1 位	4 位	645 位	699 位	1,401 位	1,566 位

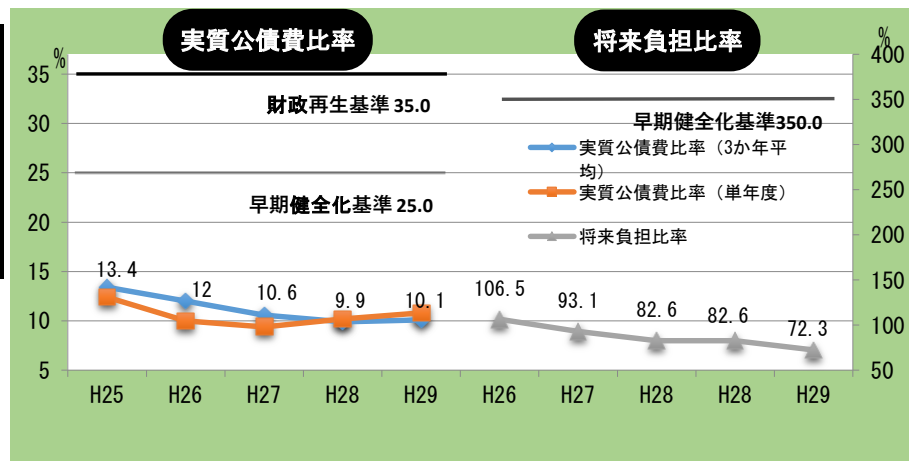
浜田市	類似団体順位	
	実質公債費比率	将来負担比率
平成29年度	66 位	65 位
平成28年度	55 位	60 位
平成27年度	55 位	63 位
平成26年度	158 位	167 位
平成25年度	162 位	170 位

※浜田市の類似団体区分は「Ⅱ－3」（85団体）

（平均 実質公債費比率6.5%、将来負担比率40.4%）

※平成26年度までは「Ⅱ－1」（198団体）

※類似団体順位は「平成28年度類似団体別財政指数表」（総務省資料）により設定された類型を基に算定。



公共施設再配置の取組について

1 公共施設の状況と削減目標

浜田市の公共施設（ハコモノ施設）は、平成 25 年 9 月末時点で 575 施設を保有し、市民一人あたりの延床面積は 6.86 m²（全国平均の約 2 倍）となり、全国的にみても過大な状況です。

また、平成 26 年度に推計した「長期財政見通しシミュレーション」では、これら施設を同規模で建替えた場合は、40 年間で約 7 割の施設しか更新できない見込みとなりました。

このことから、平成 27 年 3 月に公共施設再配置方針や同実施計画を定め、「統廃合」、「複合化」、「譲渡」、「廃止」等の施設別方針に基づき、40 年間（平成 28 年度～令和 37 年度）で 3 割削減を目標としています。

表 公共施設の状況〔平成 25 年 9 月末時点〕

項 目	内 容		備 考
対象施設	ハコモノ施設数	575 施設	特別会計施設含む
建物状況	総延床面積	約 40 万 m ²	全国平均値の約 2 倍
	市民 1 人あたり延床面積	6.86 m ²	
老朽化状況	築 30 年以上の施設	約 4 割	10 年後には約 6 割

表 公共施設の将来更新投資額の試算

項 目	金額等	備 考
更新投資額(累計)	1,086 億円	40 年間（H26～R35 年）
更新投資額(年平均)	27.1 億円	1,086 億円/40 年
更新投資可能額(年間)	19.0 億円	
更新可能施設	約 7 割	19.0 億円/27.1 億円

※長期財政見通しシミュレーションより（特別会計施設を除く）

（裏面あり）

2 公共施設再配置の進捗状況（延床面積ベースでの参考値）

公共施設再配置の進捗管理においては、分かりやすい指標として延床面積の3割削減を目安にしています。

施設別方針に基づき、施設の削減を進めた場合は、将来的に延床面積の37.1%を削減できる見込みです。ただし、新規施設整備にあたっては、その新規施設と同等面積の既存施設を削減し、3割削減を確保する必要があります。

表 施設数・延床面積等の状況（一般会計）

	H27 年度 (4 月 1 日)	H28 年度 (4 月 1 日)	H29 年度 (10 月 1 日)	H30 年度 (10 月 1 日)	比 較 (H30－H27)
施設数（施設）	503	494	478	463	▲40
前年度比	—	▲9	▲16	▲15	
延床面積（㎡）	[A]372,746	377,351	380,319	378,090	+5,344
前年度比	—	+4,605	+2,968	▲2,229	
将来の延床面積（㎡）[B]	234,509	235,523	235,884	234,384	▲125
削減予定面積 [B-A]	▲138,237	▲137,223	▲136,862	▲138,362	
削減率 [(B-A)/A]	▲37.1%	▲36.8%	▲36.7%	▲37.1%	▲0.0

浜田市における住宅用火災警報器の設置状況について

このことについて、浜田市全域の集計が終了しましたので、以下のとおり報告します。

(調査期間：平成30年11月1日～平成31年3月31日)

自治区名	調査数 (戸)	設置数 (戸)	設置率 (%)	※条例適合率 (%)
浜田	2, 406	1, 867	77.6	58.0
金城	963	760	78.9	52.5
旭	601	464	77.2	51.2
弥栄	291	238	81.8	62.5
三隅	1, 343	1, 050	78.2	56.1
合 計	5, 604	4, 379	78.1	56.1

※「条例適合率」とは、浜田市火災予防条例で設置が義務付けられている住宅部分（寝室及び階段の天井等）全てに、住宅用火災警報器が設置されている世帯の全世帯に占める割合です。

今年度の消防団車庫統合について（報告）

【大麻分団統合新築】

1 班車庫は、土砂災害特別警戒区域内にあり、崩落被害を受けた経緯があり、2 班も周辺道路環境が悪いため移転先を探していたもので、西村 I C 付近への移転に伴い統合し、併せてヘリコプター接地帯を整備する。

予算額 20,282,000 円（含む：ホース乾燥塔、ヘリ接地帯）

【浜田分団統合に伴う新車庫改装】

浜田分団 1～4 班を、殿町警察署跡地車庫へ集約する。移転に伴い待機スペース等の改装を行う。

予算額 1,202,000 円

【長浜分団統合に伴う改装】

長浜分団 1 班の手引きポンプ庫を廃止し、現行の 2・3 班車庫を改装し、軽積載車を追加配備する。

予算額 1,155,000 円

【解体予定】

杵束分団 5 班消防ポンプ車庫

大麻分団 1 班消防ポンプ車庫

2 班消防ポンプ車庫

浜田分団 1 班・3 班車庫については来年度解体の予定

島根県消防大会及び島根県消防操法大会の開催について（報告）

○第 71 回島根県消防大会

1 目的

県内消防関係者の士気の高揚と団結を図り、ますます消防体制を強化拡充し、もって消防の完遂を図ることを目的とする。

2 主催・後援

〈主催〉 島根県、浜田市、（公財）島根県消防協会

〈後援〉 （公財）日本消防協会、島根県市長会、島根県町村会

〈支援〉 浜田市消防本部、浜田市消防団

3 日時

令和元年 7 月 27 日（土） 14 時 00 分 ～

4 会場

ふれあいジム・かなぎ 浜田市金城町七条イ 982

5 役員

大会長 島根県知事

副会長 浜田市長、島根県防災部長、（公財）島根県消防協会会長、
（公財）島根県消防協会副会長

6 参加者

市町村、消防機関、消防団、女性消防隊（クラブ）等

7 消防大会次第（予定）

(1) 開式の辞	14 : 00
(2) 国歌斉唱	
(3) 殉職会員に対する黙祷	
(4) 挨拶	
大会長	14 : 05
消防管理者代表（市長会長・町村会長）	
(5) 歓迎の辞	14 : 14
(6) 表彰	14 : 20
(7) 来賓祝辞	14 : 50
(8) 祝電披露	15 : 15
(9) 受賞者代表謝辞	15 : 17
(10) 次期開催地挨拶	15 : 20
(11) 大会決議	15 : 25
(12) 万歳三唱	
(13) 閉式の辞	15 : 30
(14) 記念講演	15 : 40 ～ 16 : 40
(15) 解散	16 : 40

○第 63 回島根県消防操法大会実施要綱

1 目的

消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図り、もって消防活動の進歩充実に寄与することを目的とする。

2 主催

島根県、浜田市、(公財) 島根県消防協会

3 後援

(公財) 日本消防協会、島根県市長会、島根県町村会

4 支援

浜田市消防本部、浜田市消防団

5 日時

令和元年年 7 月 28 日 (日) 午前 8 時 30 分～

6 場所

浜田市金城総合運動公園 (浜田市金城町七条イ 982)

7 大会役員等

大会長 (公財) 島根県消防協会会長 (大会運営委員長)

副会長 浜田市長、島根県防災部長、(公財) 島根県消防協会副会長

審査長 島根県消防学校校長

副審査長 島根県消防学校教務課長

審判員 島根県消防協会会長が委嘱する者

8 大会次第

(1) 選手入場

(2) 開会式

(3) 選手退場

(4) 操法開始 (ポンプ車操法 小型ポンプ操法)

(5) 休憩

(6) 操法終了

(7) 閉会式

9 出場チーム (予定)

・ポンプ車の部 13 チーム

地元出場 ポンプ車の部

小型ポンプの部

・小型ポンプの部 22 チーム

石見分団

長浜分団・波佐分団

上府分団 (開催地推薦)

令和元年度 学校職員名簿

令和元年 5月 23日
総務文教委員会資料
教育委員会学校教育課

H31. 4. 1現在

学校幼稚園名		TEL	FAX	校長	教頭	用務員	栄養教諭	養護教諭	事務職員
					主幹教諭		学校栄養士	〔養護助教諭〕	
小学校	原井小学校	22-0863	22-0864	鳥居 正嗣	佐々木 挙匡	(濱野 智子)	栄養教諭 舟木 志織	中村 みどり	新森 恵子
	雲雀丘小学校	22-1141	22-1142	齋藤 祥文	野津 道人	(迫山 俊光)		有田 君江	大野 善功
	松原小学校	22-0262	22-0312	玉木 敦子	田中 岳志	(水野 美恵)		白川 扶美子	野上 尚樹
	石見小学校	22-0512	22-0513	渡邊 淳	勝手 博美	(前田 佳代子)		佐々木 美津枝	佐々木 菜穂
					花田 健司				(前田 陽子)
	美川小学校	27-0802	27-4722	岡田 憲明	植田 さゆり	(河野 高志)		重光 睦美	山田 早苗
	周布小学校	27-1006	27-4724	中川 伸二	大達 高弘	(鎌田 早苗)		角 江美り	宮本 綾子
					大久保 奈々				
	長浜小学校	27-0221	27-0239	濱崎 政寿	山本 康治	(小中 政彦)		山崎 紫菜	来須 由香
	国府小学校	28-0028	28-0494	三浦 秀人	橋ヶ迫 純	西村 みゆき		野上 由香理	吉賀 孝則
					内田 伸				
	三階小学校	23-2400	23-2498	松本 潔	横田 裕二	(潮 直行)		滝本 福恵	宮本 美由紀
	雲城小学校	42-0006	42-0886	佐々木 伸	川神 幸	(佐々岡 綾音)		〔佐々木恵子〕	山根 奈津子 〔湯浅 美里〕
	今福小学校	42-0304	42-0309	小林 信	徳永 勝俊	(曾田 弘美)		伊藤 希	山崎 三樹人
	波佐小学校	44-0028	44-0032	加藤 道夫	川神 和子	(岡本 照子)		松原 陽香 〔野津かおり〕	-
旭小学校	45-0014	45-0195	細川 寿俊	梶谷 康和	(田原 俊二)		幸田 久美子	田淵 公子	
弥栄小学校	48-2210	48-2645	樋野 不二子	寺本 典則	(井上 順子)	学校栄養士 島田 良子	狩野 涼子	石田 龍嗣	
三隅小学校	32-4040	32-4043	樋野 淳巳	出川 政司	千原 妙子	栄養教諭 加藤 陽子	細川 満喜子	平中 いずみ	
岡見小学校	32-0403	32-2931	松本 悦教	河本 誠二	(塚本 良治)		齋藤 知香	佐々木 友幸	
中学校	第一中学校	22-0946	22-0947	滝本 浩之	領家 弘典	(桑原 篤)		花本 千歌子	黒見 正樹
				(校長待遇)西谷 高至	品川 仁志				竹下 敦子
	第二中学校	22-1268	22-1269	佐藤 徹	有田 妙子	(中川 大輔)		泉 多己江	安達 法子
	第三中学校	27-1150	27-1151	川田 英樹	石田 和範	岡田 恵子	栄養教諭 藤岡 理紗	稲田 佳保里	本田 翔梧
					山岡 修子	(山田 光広)			
	第四中学校	27-0813	27-4723	西村 淳	上部 徹	(西谷 秀男)		森川 由香里	原 梓紗
	浜田東中学校	28-3210	28-3211	佐田 良二	鶴野 公昭	(坂根 美穂)		中津 愛海	直江 宗一郎
	金城中学校	42-0044	42-0964	阿部 哲彦	高橋 英二	(本田 勉)	学校栄養士 佐々木 千桂	〔河野 明子〕	山田 耀司
	旭中学校	45-0076	45-0518	千原 敬史	大崎 正和	(小田 初枝)	栄養教諭 大野 優子	尼川 いづみ	片岡 恵美
弥栄中学校	48-2239	48-2647	安達 正治	和田 充麿	(秋田 清)		林 杏奈	野上 佳	
三隅中学校	32-0062	32-0164	沖田 將文	勝部 強	(河瀬 智香)		岩下 麻優美	原 久美子	
浜田学校給食センター		23-2423	25-8608				学校栄養士 桑原 彩		
幼稚園	原井幼稚園	平成31年度休園							
	石見幼稚園	22-0493	22-0493	三浦 稔子	原田 令子	(岩元 玲子)	奥田 諒子、池田 美穂、(増和 麻希)、 「高橋 景子」、「長富 直美」		
	長浜幼稚園	27-0575	27-0575	吉田 英昭	長尾 佳保	(加瀬 しのぶ)	川邊 裕香、石田 美樹、「岡本 佳代」		
	美川幼稚園	26-0185	26-0185	大野 勝義	田中 由美子	(小松原 秀子)	佐々岡 美樹、多賀 菜月、(伊藤 歩)、 「宮田 浩子」		

注1：網掛けは異動者です 注2：（ ）は嘱託職員、「 」はパート職員、＜ ＞は代替者です。

令和元年度 園児・児童・生徒数 一覧 (令和元年5月1日現在)

1 小・中学校全体

区 分		児童・生徒数			学級数		
		H30年度	増減		H30年度	増減	
1 小学校	1 通常学級	2,419 人	2,456 人	△ 47 人	120 学級	122 学級	△ 2 学級
	2 特別支援学級	86 人	87 人	△ 1 人	27 学級	28 学級	△ 1 学級
	合 計	2,506 人	2,553 人	△ 48 人	147 学級	150 学級	△ 3 学級
2 中学校	1 通常学級	1,248 人	1,292 人	△ 44 人	51 学級	52 学級	△ 1 学級
	2 特別支援学級	35 人	30 人	5 人	15 学級	14 学級	1 学級
	小 計	1,276 人	1,322 人	△ 44 人	66 学級	66 学級	0 学級
全 体	1 通常学級	3,667 人	3,758 人	△ 96 人	171 学級	174 学級	△ 3 学級
	2 特別支援学級	121 人	117 人	4 人	42 学級	42 学級	0 学級
	合 計	3,783 人	3,875 人	△ 92 人	213 学級	216 学級	△ 3 学級

2 小学校

学校名	種別	令 和 元 年 度									平成30年度		増減
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	前	合計		合計		
原中	児童数	32	30	(2) 37	(2) 38	35	(3) 34	7	206		214		△ 8
	学級数	2	1	2	2	2	1	2	(2) 12		(2) 13		△ 1
雲雀丘小	児童数	(1) 10	12	4	12	9	6	1	54		59		△ 5
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	(1) 6		(0) 6		△ 1
松原小	児童数	(2) 52	(2) 47	(1) 53	24	(2) 47	(3) 31	10	134		154		△ 10
	学級数	1	1	1	1	1	1	3	(3) 9		(3) 9		0
石見小	児童数	(1) 55	(1) 75	(4) 61	(1) 66	56	(1) 59	8	382		378		4
	学級数	2	3	2	2	2	2	2	(2) 15		(2) 15		0
美川小	児童数	3	(1) 15	13	3	5	9	1	59		62		△ 3
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	(1) 6		(2) 7		△ 1
岡布小	児童数	(3) 45	(2) 41	(2) 53	45	(3) 53	32	12	303		307		△ 3
	学級数	3	2	3	2	2	2	2	(2) 14		(2) 14		0
長浜小	児童数	(5) 34	(1) 34	(1) 47	(1) 33	38	(2) 39	5	245		228		17
	学級数	2	2	2	1	2	2	2	(2) 13		(2) 12		1
岡神小	児童数	(2) 39	63	49	(4) 49	(3) 48	(5) 52	14	307		325		△ 18
	学級数	2	2	2	2	2	2	3	(3) 16		(3) 16		0
三時小	児童数	(2) 33	38	(1) 30	25	35	38	1	204		208		△ 4
	学級数	2	2	1	1	2	2	2	(3) 12		(2) 12		0
雲雀小	児童数	(1) 10	(1) 20	16	(2) 25	(2) 24	(2) 20	9	130		144		△ 14
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	(1) 8		(2) 8		0
今福小	児童数	4	10	7	(1) 13	10	16	1	55		57		△ 2
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	(1) 7		(1) 6		1
飯佐小	児童数	9	2	3	3	(1) 1	4	1	14		18		△ 4
	学級数	0	1	1	1	1	1	1	(1) 4		(1) 4		0
鹿小	児童数	(1) 23	(1) 30	(3) 25	(1) 23	(1) 31	(1) 22	8	141		133		8
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	(2) 8		(2) 8		0
新井小	児童数	4	5	7	9	(1) 6	5	1	37		49		△ 9
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	(1) 5		(2) 7		△ 2
三間小	児童数	(1) 37	(1) 34	(1) 35	24	(1) 32	(1) 38	5	193		196		3
	学級数	2	1	1	1	1	2	2	(2) 16		(3) 16		0
岡原小	児童数	6	11	5	3	7	5	5	40		46		6
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	(6) 4		(0) 4		0
計	児童数	(15) 484	(10) 412	(17) 474	(12) 404	(14) 464	(14) 406	88	2,505		2,533		△ 48
	学級数	22	22	17	20	17	22	27	(27) 147		(28) 150		△ 3

※()は特別支援学級に入る児童の外数 ()は特別支援学級の人数
 ※第1・2学年は30人学級編成、第3・4・5・6学年は35人学級編成

3 中学校

学校名	種別	令和元年度					平成30年度	増減
		1年	2年	3年	特	合 計	合 計	
第一中	生徒数	(4) 112	(3) 114	(2) 127	9	362	389	△ 27
	学級数	4	4	4	2	(2) 14	(2) 15	△ 1
第二中	生徒数	54	49	(2) 49	2	154	149	5
	学級数	2	2	2	2	(2) 8	(2) 8	0
第三中	生徒数	(2) 80	(2) 97	(2) 91	6	274	309	△ 35
	学級数	3	3	3	2	(2) 11	(2) 12	△ 1
第四中	生徒数	(1) 11	11	15	1	38	38	0
	学級数	1	1	1	1	(1) 4	(0) 3	1
浜田東中	生徒数	54	(1) 50	(3) 57	4	165	162	3
	学級数	2	2	2	3	(3) 9	(3) 9	0
金城甲	生徒数	(3) 33	23	32	3	91	85	6
	学級数	1	1	1	1	(1) 4	(1) 4	0
月丰	生徒数	11	(1) 12	18	1	42	46	△ 6
	学級数	1	1	1	1	(1) 4	(1) 4	0
弥栄中	生徒数	(2) 7	5	(1) 5	3	20	17	3
	学級数	1	1	1	1	(1) 4	(1) 4	0
三河中	生徒数	(2) 39	(1) 43	(3) 44	6	132	127	5
	学級数	2	2	2	2	(2) 8	(2) 7	1
計	生徒数	(14) 401	(8) 404	(13) 438	35	1,278	1,324	△ 46
	学級数	17	17	17	15	(15) 66	(14) 66	0

※()は特別支援学級に入る生徒の外数 ()は特別支援学級の内数
※各学年は35人学級編制(37人教学級編成)

4 幼稚園

1年保育(5歳児)				2年保育(4歳児)				3年保育(3歳児)				特別支援保育				H30 合計	R元 合計	
定員	H30 園児数	R元 園児数		定員	H30 園児数	R元 園児数		定員	H30 園児数	R元 園児数		定員	H30 園児数	R元 園児数				
		男	女			男	女			男	女			男	女			
陸井幼稚園																		
R元年 休園	1			0				0				1			2			
石見幼稚園	25	10	9	8	13	5	4	29	10	0	5				33	22	15	
			15				9				13					37		
長浜幼稚園	25	7	7	1	14	3	2	29	6	3	2				27	13	13	
			14				3				5					26		
美川幼稚園	25	6	2	2	4	2	3	23	6	2	0				16	6	5	
			4				5				2					11		
合計	75	24	18	15	3	31	10	11	63	22	13	7	1	0	0	79	41	33
			33				21				20			0			74	

令和元年度 浜田市立公民館館長・主事名簿(R1.5.8現在)

■浜田自治区

公民館名	氏名	備考
浜田公民館(22-9358) 殿町6-1	磯野 光孝	館長
	藤戸 千春	主事(H31.3～)
	田畑 恵	主事
	庄司 裕	パート事務員
石見公民館(22-1380) 黒川町132-2	伏谷 和重	館長
	虫谷 昭則	主事
	江木 眞由美	主事
	松谷 敏秀	パート事務員
長浜公民館(27-4614) 熱田町1441-18	瀧口 嘉輝	館長
	近藤 利明	主事
	長谷川 真美	主事
	原井 直美	主事
	和田 正明	パート事務員
国府公民館(28-1270) 国分町1981-136	佐々木 満	館長
	平野 陽子	主事
	濱本 雅子	主事
	石渡 一子	主事
	河野 恒弘	パート事務員
有福分館(28-2841) 下有福町436	近重 邦昭	パート事務員
	近重 ひとみ	パート事務員
周布公民館(27-0058) 周布町1374	長元 爲利	館長
	中村 和恵	主事(H31.4～)
	吉賀 聖江	主事
	佐々木 光代	主事
美川公民館(27-3657) 内村町592-1	原田 伸男	パート事務員
	平野 公望	館長
	永見 繁廣	主事
	岡村 智実	主事
大麻公民館(27-0897) 西村町1038-8	牛尾 幸子	主事
	佐々木 勝重	館長
	大上 美和子	主事
	長松 典子	パート事務員
	新田 哲朗	パート事務員(H31.4～)

■金城自治区

公民館名	氏名	備考
雲城公民館(42-2076) 金城町下来原171	岡本 修治	館長
	嶺田 澄江	主事(H31.4～)
	選任中	主事
今福公民館(42-2083) 金城町今福105-2	遠藤 正嗣	館長
	岩土 みどり	主事
美又公民館(42-1704) 金城町追原176	石田 禮子	館長
	山田 義雄	主事(R1.5～)
久佐公民館(42-2666) 金城町久佐1575-7	岡本 彰治	館長
	金子 さつき	主事
波佐公民館(44-0146) 金城町波佐1441-1	横田 浪子	館長
	酒井 喜代子	主事
小国公民館(44-0254) 金城町小国1160-1	栗栖 龍之助	館長
	横山 さつき	主事

■旭自治区

公民館名	氏名	備考
今市公民館(45-1757) 旭町今市641-1	大屋 マサ子	館長
	原田 佳弘	パート事務員
	小野 喜久子	パート事務員
木田公民館(45-1105) 旭町木田219-13	藤本 静晴	館長
	文田 美奈子	主事
和田公民館(45-1918) 旭町和田1284	早田 末男	館長
	大屋 美根子	主事
都川公民館(47-0001) 旭町都川889	白川 英隆	館長
	寺本 秀孝	主事
市木公民館(47-0077) 旭町市木2919-2	尾崎 光政	館長
	松原 久美	パート事務員

■弥栄自治区

公民館名	氏名	備考
杵束公民館(48-2258) 弥栄町木都賀1528-1	日下田 周之	館長
	三浦 誓子	主事
	選任中	H31.4末退職
安城公民館(48-2917) 弥栄町長安本郷544-1	岡本 薫	館長
	大塚 美穂	主事

■三隅自治区

公民館名	氏名	備考
三隅公民館(32-0500) 三隅町向野田581	金山 正司	館長
	野尻 かおり	主事
	佐々木 瑞恵	主事
三保公民館(32-0314) 三隅町湊浦120	下岡 安之	館長
	寺井 倫子	主事
	髙松 絵美	主事
岡見公民館(32-2298) 三隅町岡見516	原田 和義	館長
	齋藤 玲子	主事
	渡辺 支帆子	主事
井野公民館(34-0007) 三隅町井野1816-2	大田 久一	館長
	篠原 早由美	主事
	中村 淳子	主事
黒沢公民館(35-1509) 三隅町下古和1518	三浦 博美	館長
	石川 直美	主事
	杖田 小百合	主事
白砂公民館(32-1288) 三隅町折居883	串崎 美之	館長
	吉本 美和子	主事
	田城 舞	主事(H31.4～)

※20時間未満のパート事務員は名簿に記載なし

作成時点 R1.5.8

太文字:新規任用職員

館長	26名
主事	41名
パート事務員	22名
合計	89名

石見交通バスの運行ダイヤ改正について

1 改正の概要について(令和元年 6 月 1 日改正) ※詳細は別紙のとおり

- (1) 有福線
 - 【江津 → 周布】 廃止：1 便、変更：5 便
 - 【周布 → 江津】 廃止：3 便、変更：7 便
- (2) 今市線
 - 【周布 → 今市】 廃止：1 便、変更：1 便
 - 【今市 → 周布】 廃止：1 便、変更：1 便
- (3) 浜田益田線
 - 【石見交通本社 → 浜田駅前】 ※ 変更なし
 - 【浜田駅前 → 石見交通本社】 廃止：1 便
- (4) 周布線
 - 【浜田駅 → 周布】 廃止：1 便
 - 【周布 → 浜田駅】 ※ 変更なし

2 情報把握の経過について

- 平成 31 年 2 月 5 日(火) 石見交通本社より資料入手
 - ・ダイヤ改正に伴う事前協議ではなく、改正予定内容の情報提供。
- 平成 31 年 2 月 12 日(火) 各支所交通担当(防災自治課)へ情報提供
 - ・改正は協議事項ではなく決定事項であることを添え連絡。(金城・旭)
- 令和元年 5 月 1 日(水)頃 石見交通が各バス停にダイヤ改正のお知らせ貼付
- 令和元年 5 月 15 日(水) 島根県交通対策課より最終の改正内容情報提供

3 運行ダイヤ改正に際しての石見交通の乗降調査結果について

調査期間：平成 31 年 1 月 30 日 ～ 平成 31 年 2 月 14 日

- (1) 有福線
 - 最終便の利用実績に国府地区内乗降者無し
- (2) 今市線
 - 周布行きの利用実績に金城・旭地区乗降者は 1 名。
 - 今市行きの利用実績に金城・旭地区乗降者は 27 名
- (3) 浜田益田線
 - 益田行きの利用実績に周布以西地区乗降者は 1 名。
- (4) 周布線
 - 利用実績は 58 名。

4 運行ダイヤ改正に伴う手続き・取扱いについて(道路運送法)

- (1) 民間路線バスの路線廃止
 - 平成 14 年 2 月以前 許可制(関係市町村との協議・調整要)
 - 平成 14 年 2 月以降 届出制(関係市町村との協議・調整不要)
- (2) 民間路線バスのダイヤ改正・運行回数変更
 - 運行系統の廃止 事前届出(30 日前)(関係市町村との協議・調整不要)
 - 運行回数の変更 事前届出(30 日前)(関係市町村との協議・調整不要)
 - 運行時刻の変更 事後届出(関係市町村との協議・調整不要)

有 福 線

(商港・栄町・浜田経由)

2019年4月1日 改定

江津 → 有福 → 浜田 → 周布方面																	
系統No	江津	江津駅前	済生会病院前	和木	都野津駅前	能美医院前	津代口	跡市	有福	宇野	上野	浜田	栄町	坂町	熱田	商港口	周布
21020									▲6:59	▲7:11	▲7:18	▲7:30	▲7:37	▲7:49	▲7:48	▲7:53	▲8:05 終止
21028		6:34	6:38	6:45	6:43	6:53	6:56	7:02	7:11	7:23	7:30	7:44	7:51	7:54	8:02	8:07	8:19 変更 新
21028		6:46	6:50	6:57	7:01	7:06	7:09	7:14	7:28	7:35	7:42	7:54	8:03	8:06	8:14	8:19	8:31 変更 旧
21028		7:45	7:49	7:54	8:00	8:04	8:07	8:13	8:24	8:34	8:43	8:55	9:02	9:05	9:13	9:17	9:27 不変
21032	8:32	8:39	8:43														
21024		10:20	10:24	10:31	10:35	10:39	10:42	10:48	10:57	11:09	11:14	11:28	11:35	11:38	11:44	11:50	12:00 変更 旧
21024		10:32	10:36	10:43	10:47	10:51	10:54	11:00	11:09	11:21	11:28	11:40	11:47	11:50	11:56	12:02	12:12 変更 新
21034	12:13	12:20	12:24	12:31	12:35	12:39	12:42	12:48	12:57	13:09	13:14	13:28	13:35	13:38	13:44	13:50	14:00 変更 旧
21031	12:38	12:45	12:49	12:56	13:00	13:04	13:07	13:08	13:22	13:34	13:41	13:53	14:00	14:03	14:11	14:15	14:25 変更 新
21028		14:20	14:24	14:31	14:35	14:39	14:42	14:48	14:57	15:09	15:14	15:28	15:35	15:38	15:44	15:50	16:00 変更 旧
21028		14:32	14:36	14:43	14:47	14:51	14:54	15:00	15:09	15:21	15:28	15:40	15:47	15:50	15:56	16:02	16:12 変更 新
21034	▲15:33	▲15:40	▲15:44	▲15:51	▲15:55	▲15:59	▲16:02	▲16:08	▲16:17	▲16:29	▲16:34	▲16:48	▲16:55	▲16:58	▲17:04	▲17:11	▲17:23 変更 旧
21031	15:40	15:47	15:51	15:58	16:02	16:06	16:09	16:15	16:24	16:36	16:43	16:55	17:02	17:05	17:13	17:18	17:30 変更 新
21031	17:43	17:50	17:54	18:01	18:05	18:09	18:12	18:18	18:27	18:39	18:46	18:58	19:05	19:08	19:16	19:20	19:30 不変

	周布 → 浜田 → 有福 → 江津方面																	
系統No	周 布	商港口	熱 田	坂 町	栄 町	浜 田 駅	上 野	宇 野	有 福	跡 市	津代口	能美 医院前	都野津 駅 前	和 木	済生会 病院	江 津 駅	江 津	戸 田
21028	8:24	8:31	8:34	8:42	8:44	8:48	7:08	7:13	7:26	7:33	7:39	7:42	7:46	7:50	7:57	8:03	8:10	変更 旧
21028	8:34	8:41	8:45	8:52	8:56	7:05	7:15	7:22	7:36	7:43	7:49	7:52	7:56	8:00	8:07	8:13	8:20	変更 新
21031																		
21038	▲8:39	▲8:46	▲8:49	▲8:57	▲8:59	▲9:00	▲9:10	▲9:17	▲9:31	▲9:38	▲9:44	▲9:47	▲9:51	▲9:55	▲10:02	▲10:08 止		廃止
21028	10:19	10:26	10:30	10:37	10:41	10:50	11:00	11:07	11:21	11:28	11:34	11:37	11:41	11:45	11:52	11:58 止		変更 新
21028	10:29	10:36	10:40	10:47	10:51	11:00	11:10	11:17	11:31	11:38	11:44	11:47	11:51	11:55	12:02	12:08 止		変更 旧
21032																		
21032															12:06	12:04	12:14	変更 旧
21032															12:25	12:23	12:36	変更 新
21028	12:19	12:26	12:30	12:37	12:41	12:50	13:00	13:07	13:21	13:28	13:34	13:37	13:41	13:45	13:52	13:58 止		変更 新
21028	12:29	12:36	12:40	12:47	12:51	13:00	13:10	13:17	13:31	13:38	13:44	13:47	13:51	13:55	14:02	14:08 止		変更 旧
21032																		
21032															▲15:10	▲15:14	▲15:24	変更 旧
21032															15:27	15:31	15:38	変更 新
21028	14:19	14:26	14:30	14:37	14:41	14:50	15:00	15:07	15:21	15:28	15:34	15:37	15:41	15:45	15:52	15:58 止		変更 新
21028	14:29	14:36	14:40	14:47	14:51	15:00	15:10	15:17	15:31	15:38	15:44	15:47	15:51	15:55	16:02	16:08 止		変更 旧
21028	16:59	16:06	16:10	16:17	16:21	16:30	16:40	16:47	17:01	17:08	17:14	17:17	17:21	17:25	17:32	17:38 止		廃止
21032																		
21028	17:09	17:07	17:12	17:20	17:24	17:33	17:43	17:52	18:06	18:13	18:21	18:24	18:28	18:32	18:39	18:43 止		一環変更 終止
21029	▲18:24	▲18:31	▲18:34	▲18:42	▲18:44	▲18:55	▲19:05	▲19:12	▲19:24 止									

▲印：日曜・祝日運休

※掲載しておりますバス停留所は主要停留所です。その他バス停の時刻についてはお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

石見交通 浜田営業所 0855127-2211

今 市 線

平成30年3月16日 改正

周 布 → 春日団地 → 国道9号線 → 合庁前 → 市役所前 → 浜田駅 → 佐野 → 今 福 → 今 市															
周 布	春 日 団 地	国 道 9 号 線	合 庁 前	殿 町	浜 田 市 役 所 前	浜 田 駅 前	黒 川 町	後 野 分 館 前	両 間 口	下 佐 野	今 福	美 又 口	丸 原	旭 山 入 口	今 市
7:15	7:17	7:23	7:30	7:32	7:33	7:37	7:40	7:51	7:56	7:59	8:06	8:10	8:15	8:18	8:24
11:58	12:00	12:06	12:13	12:15	12:16	12:20	12:23	12:34	12:39	12:42	12:49	12:53	12:58	13:01	13:07
15:18	15:20	15:26	15:33	15:35	15:36	15:40	15:43	15:54	15:59	16:02	16:09	16:13	16:18	16:21	16:27
17:16	17:18	17:24	17:31	17:33	17:34	17:40	17:43	17:54	17:59	18:02	18:09	18:13	18:18	18:21	18:27
▲18:13	▲18:15	▲18:21	▲18:28	▲18:30	▲18:31	▲18:35	▲18:38	▲18:49	▲18:54	▲18:57	▲19:04	▲19:08	▲19:13	▲19:16	▲19:22
18:13	18:15	18:21	18:28	18:30	18:31	18:35	18:38	18:49	18:54	18:57	19:04	19:08	19:13	19:16	19:22

廃止
変更 旧
変更 新

今 市 → 今 福 → 佐 野 → 浜田駅 → 市役所前 → 合庁前 → 国道9号線 → 春日団地 → 周 布															
今 市	旭 山 入 口	丸 原	美 又 口	今 福	下 佐 野	両 間 口	後 野 分 館 前	黒 川 町	浜 田 駅 前	浜 田 市 役 所 前	殿 町	合 庁 前	国 道 9 号 線	春 日 団 地	周 布
▲7:13	▲7:16	▲7:19	▲7:24	▲7:28	▲7:35	▲7:38	▲7:43	▲7:54	▲7:57	▲8:01	▲8:02	▲8:04	▲8:11	▲8:17	▲8:21
7:13	7:16	7:19	7:24	7:28	7:35	7:38	7:43	7:54	7:57	8:01	8:02	8:04	8:11	8:17	8:21
8:30	8:33	8:36	8:41	8:45	8:52	8:55	9:00	9:11	9:14	9:18	9:19	9:21	9:28	9:34	9:36
13:30	13:33	13:36	13:41	13:45	13:52	13:55	14:00	14:11	14:14	14:18	14:19	14:21	14:28	14:34	14:36
16:38	16:41	16:44	16:49	16:53	17:00	17:03	17:08	17:19	17:22	17:26	17:27	17:29	17:36	17:42	17:49
18:32	18:35	18:38	18:43	18:47	18:54	18:57	19:02	19:13	19:16	19:20	19:21	19:23	19:30	19:36	19:38

変更 旧
変更 新

▲印 土曜・日曜・祝日運休

※掲載しておりますバス停留所は主要停留所です。その他バス停の時刻についてはお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

石見交通 浜田営業所 (0855) 27-2211

石見交通 浜田駅前案内所(0855) 23-1357

浜田益田線

平成30年7月1日 改定

平成30年7月1日 改定																											
浜田方面																											
石見交通本社	グラン トワ前	益田駅	グラン トワ後	多田温泉 入ロ	益田 高校前	日赤病院	イオン前	片山	新万葉 〔双葉〕	浜海会館 前	下道田	津田	木戸	藤手駅	七田	金山口	山根 病院 〔二駅〕	三ノ岡	新屋敷	西ノ井	月歩 入	南門口	国道 通	国道 通	原町	合庁前	浜田 駅
																		7:10	7:30	7:50	7:59	7:59	—	—	7:40	7:40	7:54
8:40	8:43	8:47	—	—	—	8:56	9:05	—	7:00	—	7:04	7:08	7:09	7:13	7:15	7:17	7:20	7:29	7:39	7:45	7:48	—	7:54	7:55	7:59	8:01	8:13
8:59	9:02	9:06	—	—	—	9:12	9:21	—	8:19	9:21	8:26	8:28	8:31	8:35	8:37	8:39	9:43	9:49	9:59	10:05	10:08	—	10:14	10:15	10:19	10:21	10:29
11:18	11:19	11:23	—	—	—	11:32	11:33	—	11:38	11:41	11:46	11:48	11:51	11:55	11:57	11:59	12:02	12:09	12:19	12:25	12:28	—	12:34	12:35	12:39	12:41	12:49
12:47	12:49	12:47	—	—	—	12:56	13:07	—	12:02	—	12:06	12:08	12:11	12:15	12:17	12:19	12:22	12:29	止								
13:38	13:39	13:43	—	—	—	13:52	14:03	—	13:58	14:01	14:06	14:08	14:11	14:15	14:17	14:19	14:22	14:29	14:39	14:45	14:48	—	14:54	14:55	14:59	15:01	15:09
15:43	15:46	15:48	—	—	—	15:57	16:08	—	16:03	16:06	16:11	16:13	16:16	16:20	16:22	16:24	16:27	16:34	16:44	16:50	16:53	—	16:59	17:00	17:04	17:06	17:18
17:17	17:18	17:22	—	—	—	17:32	17:33	—	17:38	—	17:42	17:45	17:49	17:52	17:55	17:59	18:02	18:09	18:19	18:25	18:28	—	18:34	18:35	18:39	18:41	18:49
		17:50	17:44	17:45	17:47	—	—	17:51	17:50	—	18:03	18:04	18:07	18:11	18:14	18:17	18:20	18:27	止								

益田方面																											
出 発	合庁前	原町	国道 通	国道 通	南門口	月歩 入	西ノ井	新屋敷	三ノ岡	山根 病院 (二駅)	金山口	七田	藤手駅	木戸	津田	下道井	浜海会館 前	新万葉 (双葉)	片山	イオン前	日赤病院	益田 高校前	多田温泉 入ロ	グラン トワ前	益田駅	グラン トワ前	石見交通 本社
									7:25	7:33	7:35	7:38	7:41	7:45	7:48	7:51	—	(7:56)	8:01	—		8:05	8:07	8:08	8:13	止	
8:56	7:03	7:05	7:09	7:10	—	7:16	7:19	7:25	7:25	7:43	7:45	7:48	7:51	7:55	7:58	8:01	8:07	8:14	—	8:16	8:18	—	—	—	8:27	8:31	8:32
8:10	8:17	8:19	8:23	8:24	—	8:30	8:33	8:41	8:41	8:59	9:01	9:03	9:06	9:09	9:12	9:14	9:20	9:23	—	9:27	9:29	—	—	—	9:37	9:41	9:42
									10:25	10:33	10:35	10:38	10:41	10:45	10:48	10:51	—	10:52	—	10:57	10:59	—	—	—	11:07	11:11	11:12
10:30	10:37	10:39	10:43	10:44	—	10:50	10:53	10:59	11:09	11:18	11:19	11:21	11:23	11:27	11:30	11:32	11:38	11:43	—	11:45	11:47	—	—	—	11:55	11:59	12:00
13:40	13:47	13:49	13:53	13:54	—	14:00	14:03	14:09	14:19	14:28	14:29	14:31	14:33	14:37	14:40	14:42	14:48	14:50	—	14:55	14:57	—	—	—	15:05	15:09	15:10
15:40	15:47	15:49	15:53	15:54	—	16:00	16:03	16:09	16:19	16:28	16:29	16:31	16:33	16:37	16:40	16:42	—	16:46	—	16:51	16:53	—	—	—	17:01	17:05	17:06
17:10	17:17	17:19	17:23	17:24	—	17:30	17:33	17:42	17:44	18:01	18:04	18:06	18:08	18:12	18:15	18:17	—	18:21	—	18:26	18:28	—	—	—	18:36	18:40	18:41
17:25	17:45	17:45	—	—	17:48	18:01	18:04	18:10	18:24	止																	
18:13	18:28	18:32	—	—	18:34	18:38	18:42	■18:48	止																		

■印 周年～折居の間は浜田第三中学校学校休日 運休

※掲載しておりますバス停留所は主要停留所です。その他バス停の時刻についてはお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

石見交通 益田営業所 (0856) 24-0080

浜田営業所 (0855) 27-2211

10

周 布 線

(商 港 経 由)

平成29年3月16日 改正

始 発 地	浜田駅	田 町	栄 町	合庁前	原 町	熱 田	中長浜	商港口	周 布
江 津	7:21	7:24	—	7:26	7:30	7:38	7:41	7:43	7:54
江津有馬	▲7:30	▲7:33	▲7:37	—	▲7:40	▲7:48	▲7:51	▲7:53	▲8:05
江津有馬	7:56	7:59	8:03	—	8:06	8:14	8:17	8:19	8:31
温泉津	8:05	8:08	—	8:12	8:14	8:22	8:25	8:27	8:35
江 津	8:43	8:46	—	8:50	8:52	9:00	9:02	9:04	9:12
江津有馬	8:55	8:58	9:02	—	9:06	9:13	9:15	9:17	9:27
江 津	9:21	9:24	—	9:28	9:30	9:38	9:40	9:42	9:50
江 津	10:01	10:04	—	10:08	10:10	10:18	10:20	10:22	10:30
江 津	10:41	10:44	—	10:48	10:50	10:58	11:00	11:02	11:10
浜田駅	11:05	11:08	11:12	—	11:15	11:23	11:25	11:27	11:37
江 津	11:21	11:24	—	11:28	11:30	11:38	11:40	11:42	11:50
江津有馬	11:28	11:31	11:35	—	11:38	11:46	11:48	11:50	12:00
江 津	12:01	12:04	—	12:08	12:10	12:18	12:20	12:22	12:30
江 津	12:41	12:44	—	12:48	12:50	12:58	13:00	13:02	13:10
江 津	13:21	13:24	—	13:28	13:30	13:38	13:40	13:42	13:50
江津有馬	13:28	13:31	13:35	—	13:38	13:46	13:48	13:50	14:00
江 津	14:01	14:04	—	14:08	14:10	14:18	14:20	14:22	14:30
江 津	14:41	14:44	—	14:48	14:50	14:58	15:00	15:02	15:10
浜田駅	15:10	15:13	15:17	—	15:20	15:28	15:30	15:32	15:42
江 津	15:21	15:24	—	15:28	15:30	15:38	15:40	15:42	15:50
江津有馬	15:28	15:31	15:35	—	15:38	15:46	15:48	15:50	16:00
江 津	16:01	16:04	—	16:08	16:10	16:18	16:20	16:22	16:30
江 津	16:41	16:44	—	16:48	16:50	16:58	17:00	17:02	17:10
江津有馬	▲16:48	▲16:51	▲16:55	—	▲16:58	▲17:06	▲17:09	▲17:11	▲17:21
江 津	17:11	17:14	—	17:18	17:20	17:28	17:30	17:32	17:44
浜田駅	17:35	17:38	—	17:42	17:44	17:52	17:54	17:56	18:04
江 津	17:43	17:46	—	17:50	17:52	18:00	18:03	18:05	18:13
江 津	18:13	18:16	—	18:20	18:22	18:30	18:32	18:34	18:42
江 津	18:41	18:44	—	18:48	18:50	18:58	19:00	19:02	19:09
江津有馬	18:58	19:01	19:05	—	19:08	19:16	19:18	19:20	19:30
江 津	19:11	19:14	—	19:18	19:19	19:28	19:29	19:30	19:37
江 津	19:41	19:44	—	19:48	19:49	19:58	19:59	20:00	20:07
浜田駅	21:47	21:50	—	21:54	21:55	22:03	22:04	22:05	22:13 閉止

▲印：日曜・祝日運休

※掲載しておりますバス停留所は主要停留所です。その他バス停の時刻についてはお問い合わせください。

行 先	周 布	商港口	中長浜	熱 田	原 町	栄 町	合庁前	田 町	浜田駅
江 津	8:21	8:28	8:30	8:32	8:39	—	8:41	8:45	8:50
有馬江津	8:24	8:31	8:33	8:35	8:42	8:45	—	8:50	8:55
江 津	8:51	8:58	9:00	9:02	9:09	—	9:11	9:15	9:20
田 町	7:03	7:10	7:12	7:15	7:23	7:27	—	7:31	7:37
江 津	7:18	7:25	7:27	7:29	7:37	—	7:39	7:43	7:50
浜田駅	7:26	7:33	7:35	7:38	7:46	—	7:48	7:52	7:59
江 津	7:47	7:54	7:56	7:59	8:07	—	8:09	8:13	8:20
江 津	8:21	8:28	8:30	8:32	8:39	—	8:41	8:45	8:50
有馬江津	▲8:29	▲8:36	▲8:38	▲8:40	▲8:47	▲8:51	—	▲8:55	▲9:00
江 津	8:51	8:58	9:00	9:02	9:09	—	9:11	9:15	9:20
江 津	9:21	9:28	9:30	9:32	9:39	—	9:41	9:45	9:50
浜田駅	▲9:47	▲9:54	▲9:56	▲9:58	▲10:05	▲10:09	—	▲10:13	▲10:18
江 津	10:01	10:08	10:10	10:12	10:19	—	10:21	10:25	10:30
有馬江津	10:29	10:36	10:38	10:40	10:47	10:51	—	10:55	11:00
江 津	10:41	10:48	10:50	10:52	10:59	—	11:01	11:05	11:10
浜田駅	11:01	11:08	11:10	11:12	11:19	11:23	—	11:27	11:32
江 津	11:21	11:28	11:30	11:32	11:39	—	11:41	11:45	11:50
江 津	12:01	12:08	12:10	12:12	12:19	—	12:21	12:25	12:30
有馬江津	12:29	12:36	12:38	12:40	12:47	12:51	—	12:55	13:00
江 津	12:41	12:48	12:50	12:52	12:59	—	13:01	13:05	13:10
江 津	13:21	13:28	13:30	13:32	13:39	—	13:41	13:45	13:50
江 津	14:01	14:08	14:10	14:12	14:19	—	14:21	14:25	14:30
有馬江津	14:29	14:36	14:38	14:40	14:47	14:51	—	14:55	15:00
江 津	14:41	14:48	14:50	14:52	14:59	—	15:01	15:05	15:10
江 津	15:21	15:28	15:30	15:32	15:39	—	15:41	15:45	15:50
有馬江津	15:59	16:06	16:08	16:10	16:17	16:21	—	16:25	16:30
江 津	16:01	16:08	16:10	16:12	16:19	—	16:21	16:25	16:30
温泉津	16:31	16:38	16:40	16:42	16:49	—	16:51	16:55	17:00
江 津	16:57	17:04	17:06	17:09	17:17	—	17:19	17:23	17:30
有馬江津	17:09	17:16	17:18	17:20	17:27	17:31	—	17:35	17:40
江 津	17:27	17:34	17:36	17:39	17:47	—	17:49	17:53	18:00
江 津	18:01	18:08	18:10	18:12	18:19	—	18:21	18:25	18:30
有 馬	▲18:24	▲18:31	▲18:33	▲18:35	▲18:42	▲18:46	—	▲18:50	▲18:55
江 津	18:31	18:38	18:40	18:42	18:49	—	18:51	18:55	19:00
浜田駅	19:05	19:12	19:14	19:16	19:23	19:27	—	19:30	19:35

[お問い合わせ先]

石見交通 浜田営業所 (0855) 27-2211